

JP1/Integrated Management

システムオペレーション

目次

1. [ログイン]画面.....	4
2. [イベントコンソール]画面.....	5
3. [イベント監視]ページ.....	17
4. [重要イベント]ページ.....	18
5. [イベント検索]ページ.....	20
6. [統合機能メニュー]画面.....	21
7. [イベント詳細]画面.....	22
1.3.6 [関連イベント一覧(集約)]画面.....	25
1.3.7 [関連イベント一覧(相関)]画面.....	28
8. [重要イベント定義]画面.....	31
9. [システム環境設定]画面.....	35
10. [イベント取得条件設定]画面.....	37
11. [イベント取得条件設定]画面(互換用).....	42
12. [イベント取得条件一覧]画面.....	43
13. [ユーザー環境設定]画面.....	45
14. [イベント検索条件設定]画面.....	48
15. [固有の拡張属性条件設定]画面.....	54
1.3.16 [固有の拡張属性条件詳細設定]画面.....	55
16. [表示フィルター設定]画面.....	56
17. [表示フィルター一覧]画面.....	61
18. [ユーザーフィルター設定]画面.....	63
19. [ユーザーフィルター詳細設定]画面.....	64
20. [アクション設定]画面.....	69
21. [アクション詳細設定]画面.....	72
22. [アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面.....	77
23. [拡張属性編集]画面.....	78
24. [アクション結果]画面.....	79
25. [アクション結果詳細]画面.....	82
26. [アクション結果一覧]画面.....	86
27. [アクション結果更新条件設定]画面.....	90
28. [コマンド実行]画面.....	93
29. [イベント情報マッピング定義]画面.....	95
30. [イベント情報マッピング詳細定義]画面.....	96
31. [監視ツリー]画面.....	97
32. [ビジュアル監視画面を開く]画面.....	105
33. [ビジュアル監視画面一覧編集]画面.....	106
34. [ビジュアル監視(編集中)]画面.....	107
35. [ビジュアル監視]画面(監視用).....	110
36. [背景画像設定]画面.....	112
37. [検索]画面.....	113
38. [ガイド]画面.....	116

39. [プロパティ]画面	117
40. [アイコン選択]画面	122
41. [ビジュアルアイコン選択]画面	123
42. [状態変更条件設定]画面.....	124
43. [共通条件設定]画面	127
44. [共通条件詳細設定]画面.....	129
45. [監視ツリー(編集中)]画面	132
46. [新規監視ノード作成]画.....	138
47. [基本情報設定]画面	139
48. [自動生成－構成選択]画面.....	139
49. [ログインユーザー一覧]画面	140
50. 画面操作上の注意事項	141

1. [ログイン]画面

JP1/IM - View の起動時に最初に出てくる画面が[ログイン]画面です。この画面を使って、JP1/IM - Managerにログインします。JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console)にログインし、ユーザーが認証されると[イベントコンソール]画面が表示されます。JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)にログインし、ユーザーが認証されると[監視ツリー]画面が表示されます。

図 1-4 [ログイン]画面



表示項目を次に示します。

[ユーザー名]

ログインするユーザー名を入力します。ユーザー名は、あらかじめ認証サーバの JP1/Base で登録しておく必要があります。また、登録する際には JP1/IM の画面操作をするための操作権限を与える必要があります。ログインユーザーの登録、操作権限については下記マニュアルを参照してください。

- ログインユーザーの登録

参照先: マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章

- ログインユーザーの操作権限

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 E 操作権限一覧」

ユーザー名には、小文字だけを入力できます。大文字を入力した場合も小文字として認証されます。

[パスワード]

ユーザー名に対応するパスワードを入力します。

パスワードは、大文字・小文字を区別します。

[接続ホスト名]

接続する JP1/IM - Manager のホスト名を入力します。接続ホスト名には、ビューアーホストで定義されているホスト名、または IP アドレスをドット表記 (例: 100.100.1.1) で指定します。

WWW ブラウザーからログインする場合は、URL で指定したホスト名が表示されます。変更はできません。

[セントラルコンソール]

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続し、[イベントコンソール]画面を表示する場合に選択します。

[セントラルスコープ]

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) に接続し、[監視ツリー]画面を表示する場合に選択します。WWW ブラウザーからログインする場合は、選択できません。

2. [イベントコンソール]画面

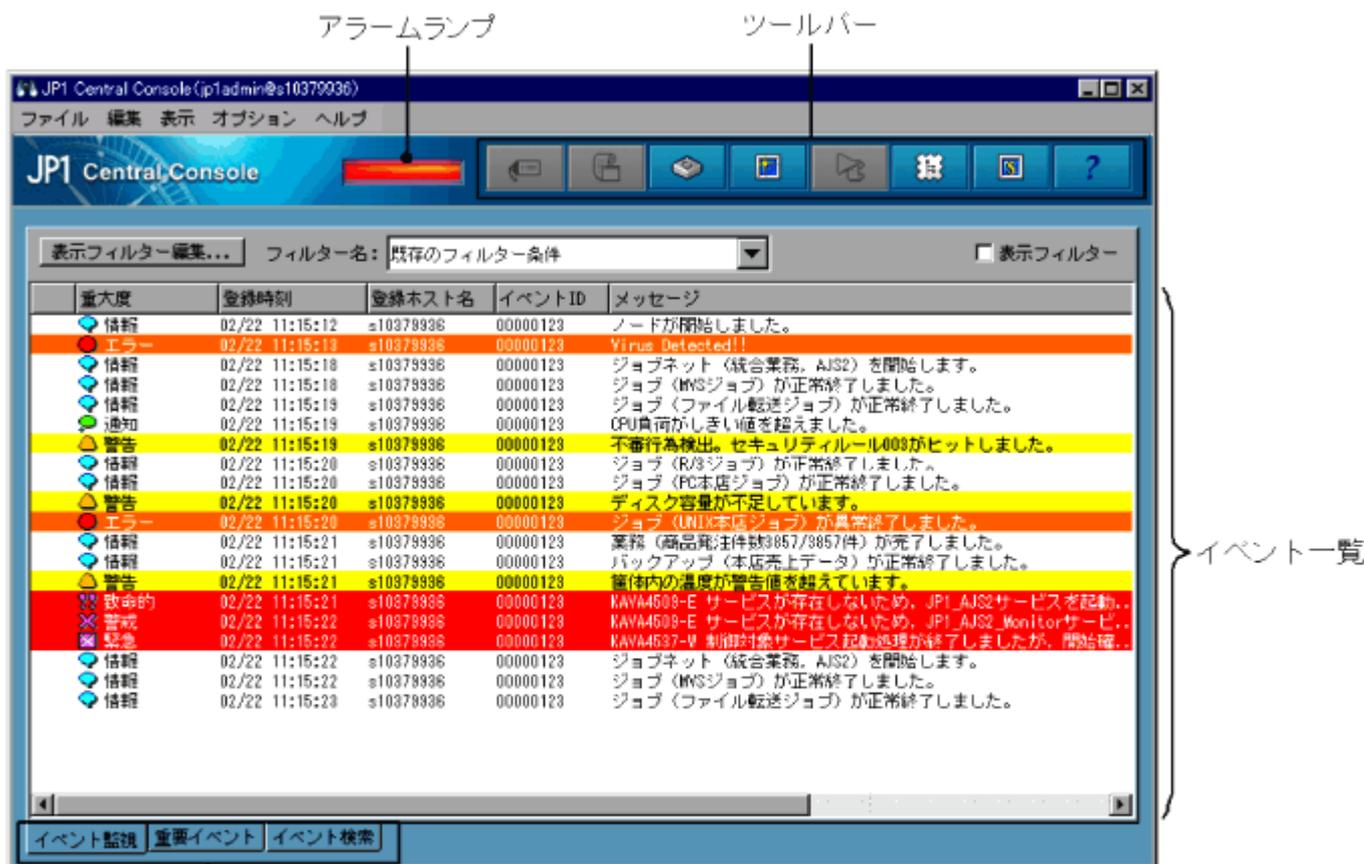
JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) にログインすると、[イベントコンソール]画面が表示されます。

[イベントコンソール]画面は、JP1 イベントを監視するための画面です。また、コマンド実行などの操作画面も[イベントコンソール]画面から呼び出すことができます。

[イベントコンソール]画面には、[イベント監視]、[重要イベント]、および[イベント検索]の3種類のページがあり、タブを選択することで表示を切り替えられます。[イベント監視]ページについては、「1.3.1 [イベント監視]ページ」、[重要イベント]ページについては、「1.3.2 [重要イベント]ページ」、[イベント検索]ページについては、「1.3.3 [イベント検索]ページ」を参照してください。

ここでは、[イベントコンソール]画面および各ページに共通する項目を説明します。[イベントコンソール]画面の表示例を次に示します。なお、ログインしている JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) のバージョンによっては、非活性であったり、非表示であったりする画面、ボタンおよび項目があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 H 下位バージョンとの接続性」を参照してください。

図 1-5 [イベントコンソール]画面の表示例



タブを選択することで、[イベント監視]ページ、[重要イベント]ページ、または[イベント検索]ページに切り替えられます。

表示項目を次に示します。

アラームランプ

[重要イベント]ページに、対処済でない重要イベントがあるかどうかを表します。

対処済でない重要イベントがあるときは赤で、ないときは青で表示されます。

[重要イベント]ページに表示されている重要イベントをすべて対処済にするか、削除した場合は、アラームランプが青に戻ります。

ツールバー

[イベントコンソール]画面でよく使う機能をボタンにしています。



[イベント詳細表示]ボタン

[イベント詳細表示]画面を表示します。選択した JP1 イベントの詳細な属性情報を表示します。



[モニター起動]ボタン

選択した JP1 イベントを通知したアプリケーションの画面を表示します。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。



[コマンド実行]ボタン

コマンドを実行したいときに使用します。クリックすると、[コマンド実行]画面が表示されます。

WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。



[最新情報に更新]ボタン

イベント一覧の表示を最新の情報に更新します。



[自動アクション実行結果表示]ボタン

選択されている JP1 イベントに自動アクションが設定されている場合、自動アクションの実行結果を [アクション結果] 画面に表示します。



[統合機能メニュー起動]ボタン

[統合機能メニュー]画面を表示します。WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合は使用できません。



[セントラルスコープ起動]ボタン

[監視ツリー]画面を表示します。WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合は使用できません。



[ヘルプ]ボタン

オンラインマニュアルを表示します。

イベント一覧

イベント一覧の左端の列は、そのイベントへの対処状況(対処済、未対処、処理中、保留)を示します。この列には、対処状況ごとに次の対処状況マークが表示されます。

表 1-1 対処状況と対処状況マーク

対処状況	対処状況マーク
対処済	
処理中	
保留	
未対処	(無印)
異なる対処状況*	!

注※ 繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合で、集約イベントの対処状況と、繰り返しイベントの対処状況が異なる状況を指します。

また、各ページで設定できる対処状況の種類および他ページへの設定反映契機が異なります。各ページでの違いを次の表に示します。

表 1-2 対処状況の設定に関連する各ページでの違い

ページ名	対処状況の種類	1回に設定できるイベント数	他ページへの設定反映契機*2
[イベント監視]	対処済・処理中・保留・未対処	複数	自動更新
[重要イベント]	対処済・処理中・保留・未対処・削除*1	複数	自動更新
[イベント検索]	対処済・処理中・保留・未対処	複数	再検索実行後

注※1 [重要イベント]ページで「削除」を設定すると、その JP1 イベントは[重要イベント]ページ上で非表示となります。イベント DB からは削除されていないため、[重要イベント]ページで削除したイベントが他のページでは表示されることがあり、対処状況を設定できます。

注※2 各ページで対処状況が設定されると、[イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページでは、対処状況の反映時期は自動更新によって画面更新されたとき([ユーザー環境設定]画面-[表示内容の自動更新]で「する」にチェックしている場合)、メニューの[表示]-[最新情報に更新]を選択したとき、または[最新情報に更新]ボタンを押したときとなります。[イベント検索]ページでは、最新情報を取得するために、再度検索を実行する必要があります。

備考

[関連イベント一覧]画面からも対処状況を設定できます。設定できる対処状況の種類および表示は、呼び出されたページと同様の内容となります。

- [イベント監視]ページから呼び出された場合は[イベント監視]ページと同様
- [重要イベント]ページから呼び出された場合は[重要イベント]ページと同様
- [イベント検索]ページから呼び出された場合は[イベント検索]ページと同様

イベント一覧の[重大度]欄は、そのイベントの重大度(緊急, 警戒, 致命的, エラー, 警告, 通知, 情報, デバッグ)を示します。この列には、そのイベントの重大度の種類を示す文字と、それに対応したマークが表示されます。

また、[イベント監視]ページおよび[イベント検索]ページのイベント一覧に表示される緊急、警戒、致命的、エラー、警告のイベントについては、[ユーザー環境設定]画面で[カラーリング]をチェックすることによって、それらのイベントの行に次の色の背景色を付けることもできます。

表 1-3 重大度、重大度を示すマークおよび背景色

重大度	重大度を示すマーク	背景色
緊急		赤
警戒		赤
致命的		赤
エラー		橙
警告		黄
通知		なし
情報		なし
デバッグ		なし

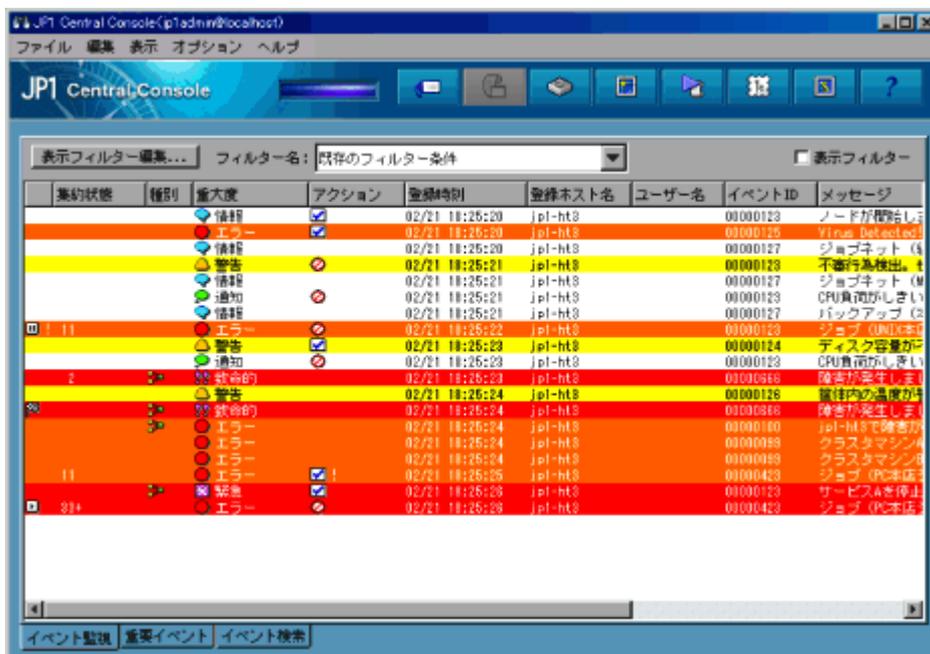
なお、表示項目の中の[登録ホスト名]は、[イベント詳細]画面では[発行元イベントサーバ名]と表示されます。

また、イベントのメッセージに改行コードが含まれている場合は、改行コードが無視された状態でイベント一覧に表示されます。

繰り返しイベントの集約表示機能が有効な場合

[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページおよび[重要イベント]ページでは、次のように集約表示されます。

図 1-6 繰り返しイベントの集約表示例



繰り返しイベントの集約表示では、次の項目が表示されます。

[集約状態]

[集約状態]に繰り返し回数が表示されます。繰り返し回数とは、集約イベント数と繰り返しイベントの総数のことです。非集約イベントの場合は、何も表示されません。

•集約完了イベントの場合

繰り返し回数が表示されます。表示される繰り返し回数は、1 ～ 100 です。

集約状態	重大度
16	警告

•集約中イベントの場合

繰り返し回数および集約中であることを示す「+」が表示されます。

繰り返し回数が1回(集約開始イベントだけ)の場合は「1+」、繰り返し回数が2回(集約開始イベントと繰り返しイベント1件)の場合は「2+」のように、「1+」～「99+」の範囲で表示されます。なお、[重要イベント]ページでは、集約開始イベントが削除済み状態で、繰り返しイベントがない場合、「0+」と表示されます。

集約状態	重大度
12+	警告

[イベントコンソール]画面の[重要イベント]ページで、集約開始イベントを削除した場合、そのイベントは削除済み状態となり、繰り返し回数の右横に「削除」が表示されます。

集約状態	重大度
11+ 削除	緊急

その後、イベントの集約が完了して、削除済み状態の非集約イベントになった場合、[イベントコンソール]画面の[重要イベント]ページに表示されなくなります。

対処状態表示

左端の列に JP1 イベントへの対処状況を示す対処状況マークが表示されます。

対処状況マークの種類および内容は、[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページおよび[重要イベント]ページに表示される対処状況マークと同じです。

集約イベントと繰り返しイベントの対処状況が異なる場合、対処状況表示に「!」が表示されます。

集約状態	重大度
16 !	警告

[アクション]

自動アクションの抑止機能を使用している場合、[イベントコンソール]画面にアクション抑止の状態を示すマークが表示されます。

表 1-4 アクション抑止の状態

アクション抑止の状態	説明
	抑止されなかったアクション
	抑止されたアクション
	一部抑止されたアクション

集約イベントと繰り返しイベントのアクション状況が異なる場合、アクション表示に「!」が表示されます。

集約状態	重大度	アクション
16 !	警告	

[種別]

関連イベントを示すマークが表示されます。

表 1-5 種別

種別	説明
	関連イベントであることを示す

なお、[種別]はデフォルトでは表示されません。[種別]を表示させるには[ユーザー環境設定]画面で設定してください。

[アクション種別]

アクション種別を示すマークが表示されます。

表 1-6 アクション種別

アクション種別	説明
	コマンドを実行する
	JP1/IM - Rule Operation ヘルール起動要求を通知する

なお、[アクション種別]はデフォルトでは表示されません。[アクション種別]を表示させるには[ユーザー環境設定]画面で設定してください。

[イベント監視]タブ

[イベント監視]タブを選択すると、[イベント監視]ページに切り替わります。

[イベントコンソール]画面を最初に表示したときに表示されます。受信した JP1 イベントが表示されます。

[重要イベント]タブ

[重要イベント]タブを選択すると、重要イベントだけを表示する[重要イベント]ページに切り替わります。

[イベント検索]タブ

[イベント検索]タブを選択すると、JP1 イベントの検索結果を表示する[イベント検索]ページに切り替わります。イベントを検索するには、[表示]—[イベント検索]を選択します。

次に、[イベントコンソール]画面のメニュー項目を説明します。

表 1-7 [イベントコンソール]画面のメニュー項目

メニュー	コマンド	機能
ファイル	表示イベントを保存	表示されているイベント一覧を、CSV 形式のファイルに保存します。 このメニューは WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。
	セントラルスコープ起動	[監視ツリー]画面を起動します。 [監視ツリー]画面の起動時、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) にログイン中のユーザーでログインします。このとき、[ログイン]画面は表示されません。 同一プロセスで[監視ツリー]画面が表示中の場合は、[監視ツリー]画面が最前面に表示されます。 このメニューは WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。
	閉じる	 <p>[ファイル]メニューの[セントラルスコープ起動]、またはボタンを使って [監視ツリー]画面を表示している場合は、次のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [監視ツリー]画面が最前面に表示されます。 • [イベントコンソール]画面が非表示になります。 • [コマンド実行]画面、[アクション結果一覧]画面、[イベント詳細]画面、[関連イベント一覧]画面が表示されている場合は、それらの画面が閉じます。 • [統合機能メニュー]画面が表示されている場合は、その画面は表示されたままになります。 • プロファイルを保存します。  <p>[ファイル]メニューの[セントラルスコープ起動]、またはボタンを使って [監視ツリー]画面を表示していない場合は、次のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「KAVB0122-Iこのウィンドウを閉じると終了(ログアウト)します。よろしいですか?」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、ログアウトします。 • [コマンド実行]画面、[アクション結果一覧]画面、[イベント詳細]画面、[関連イベント一覧]画面が表示されている場合は、それらの画面が閉じます。 • [統合機能メニュー]画面が表示されている場合、その画面は閉じます。 • プロファイルを保存します。
	終了(ログアウト)	接続中の JP1/IM - Manager からログアウトし、表示中の画面を終了します。
編集	コピー	表示されているイベント一覧で選択した部分を、クリップボードにコピーします。

		<p>なお、このメニューはクリップボードにコピーする機能が無効な場合、表示されません^{*1}。</p> <p>また、このメニューは WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
	すべて選択	表示されているイベント一覧のすべての行を選択状態にします。
表示	表示フィルター一覧	<p>[表示フィルター一覧]画面を表示します。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページを表示しているときに使用できません。</p>
	表示フィルター編集	<p>[表示フィルター設定]画面を表示します。</p> <p>イベントの表示条件を定義できます。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページを表示しているときに使用できません。</p>
	表示フィルターの適用	<p>表示フィルターの有効と無効を切り替えます。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページを表示しているときに使用できません。</p>
	イベント検索	<p>[イベント検索]ページを表示します。</p> <p>条件を指定して JP1 イベントを検索できます。</p>
	次イベント検索	<p>検索条件に一致する JP1 イベントが多く、検索結果が 1 回で取得しきれなかった場合に、次の検索結果を表示します。</p> <p>[イベント検索]ページのイベント一覧にイベントが 1 件も表示されていない場合、および「4.2 JP1/IM が出力する JP1 イベント」で示す JP1/IM が出力する JP1 イベントが、イベント一覧の先頭または最後に表示されている場合は、このメニューを使用できません。</p>
	検索キャンセル	JP1 イベントの検索をキャンセルします。
	自動アクション結果一覧表示	<p>[アクション結果一覧]画面を表示します。</p> <p>ログインしている JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) で設定した自動アクションの実行結果の一覧が表示されます。</p>
	イベント詳細表示	<p>[イベント詳細]画面を表示します。</p> <p>選択した JP1 イベントの詳細な属性情報が表示されます。</p>
	関連イベント一覧表示	<p>[関連イベント一覧]画面を表示します。</p> <p>なお、このメニューを選択できるのは次の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集約イベントを選択している場合 [イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページで、一つだけ選択した集約イベントの繰り返しイベント一覧が表示されます。 関連イベントを選択している場合 [イベント監視]ページ、[重要イベント]ページまたは[イベント検索]ページで、一つだけ選択した関連イベントの関連元イベント一覧が表示されます。 集約されている関連イベントを選択している場合 [イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページで、一つだけ選択した集約イベントの繰り返しイベント(関連イベント)一覧が表示されます。

	この場合、一覧表示された関連イベントを選択して、ポップアップメニューから関連元イベント一覧を表示できます。
モニター起動	<p>選択した JP1 イベントを通知したプログラムの情報を操作する画面を表示します。</p> <p>このメニューは WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
自動アクション実行結果表示	<p>[アクション結果]画面を表示します。</p> <p>選択した JP1 イベントに自動アクションが定義されている場合、自動アクションの実行結果が表示されます。</p>
インシデント登録	<p>JP1/IM - Incident Master の[インシデントの登録]画面を表示します。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p> <p>なお、このメニューは、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) で設定をしていない場合、表示されません^{*2}。</p> <p>また、このメニューは、次の条件の場合、非活性となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ページのイベント一覧に表示されている JP1 イベントを選択していない。 JP1/IM - View で接続している JP1/IM - Manager ホスト外のホストに対しイベント検索を実行し、その結果として[イベント検索]ページに表示された JP1 イベントを選択したとき。 JP1_Console_User 権限しか持たない JP1 ユーザー、またはどの権限も持たない JP1 ユーザーで JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続しているとき。
 対処済	<p>選択したイベントの対処状況を「対処済」に変更します。</p> <p>このメニューを実行すると、選択したイベントの先頭の列に「」が表示されます。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページ、[重要イベント]ページ、および[イベント検索]ページを表示しているときに使用できます。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p>
未対処	<p>選択したイベントの対処状況を「未対処」に変更します。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページ、[重要イベント]ページ、および[イベント検索]ページを表示しているときに使用できます。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p>
 処理中	<p>選択したイベントの対処状況を「処理中」に変更します。</p> <p>このメニューを実行すると、選択したイベントの先頭の列に「」が表示されます。</p> <p>このメニューは、[イベント監視]ページ、[重要イベント]ページ、および[イベント検索]ページを表示しているときに使用できます。</p> <p>このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p>
 保留	<p>選択したイベントの対処状況を「保留」に変更します。</p>

		<p>このメニューを実行すると、選択したイベントの先頭の列に「」が表示されます。</p> <p>このメニューは、[イベント監視] ページ, [重要イベント] ページ, および [イベント検索] ページを表示しているときに使用できます。</p> <p>このメニューは, JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p>
	削除	<p>[重要イベント] ページで選択した重要イベントを画面から削除します。重要イベントの対処状況にかかわらず, 削除できます。</p> <p>このメニューによる削除は, 画面上からの削除で, イベント DB からは削除されません。</p> <p>このメニューは, [重要イベント] ページを表示しているときだけ使用できます。</p> <p>このメニューは, JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。</p>
	自動スクロール	<p>[イベント監視] ページおよび [重要イベント] ページのイベント一覧を自動的にスクロールさせるかどうかを切り替えます。</p> <p>自動スクロールをする設定のときは, 新しい JP1 イベントを受信すると, 自動的にイベント一覧の最終行にスクロールします。</p>
	最新情報に更新	[イベントコンソール] 画面の表示内容が最新の情報に更新されます。
オプション	システム環境設定	<p>[システム環境設定] 画面を表示します。</p> <p>システム環境を設定できます。</p> <p>イベント取得時のフィルター条件やバッファサイズなど, JP1/IM の基本動作の設定を変更できます。</p> <p>このメニューは, JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また, WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
	ユーザー環境設定	<p>[ユーザー環境設定] 画面を表示します。</p> <p>ユーザー環境を設定できます。イベント監視時の自動更新の設定, およびイベント一覧に表示する項目の設定を変更できます。</p>
	ユーザーフィルター設定	<p>[ユーザーフィルター設定] 画面を表示します。</p> <p>ユーザーフィルターを設定できます。</p> <p>このメニューは JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また, WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
	重要イベント定義	<p>[重要イベント定義] 画面を表示します。</p> <p>重要イベントとして扱う JP1 イベントの条件を定義できます。</p> <p>このメニューは, JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また, WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
	イベント情報マッピング定義	<p>[イベント情報マッピング定義] 画面を表示します。</p> <p>イベント一覧の表示項目と固有の拡張属性とをマッピング定義できます。</p> <p>このメニューは, JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また, WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。</p>
	自動アクション設定	[アクション設定] 画面を表示します。

	定	自動アクションを設定できます。 このメニューは、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また、WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。
	機能状態通知復帰	自動アクションの遅延監視中および状態監視中に発生した通知抑止状態を解除します。 通知抑止状態を解除する項目を、[アクション遅延監視]または[アクション状態監視]から選択してください。 このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。 なお、次の場合は非活性です。 <ul style="list-style-type: none"> • 通知対象の機能ではない場合 • 通知機能を一度も実施していない場合
	コマンド実行	[コマンド実行]画面を表示します。 監視対象ホストでコマンドを実行できます。 このメニューは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。 このメニューは、WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合には、使用できません。
	統合機能メニュー起動	[統合機能メニュー]画面を表示します。 このメニューは、WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合には、使用できません。
ヘルプ	目次	ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報	JP1/IM - View のバージョン情報を表示します。 WWW ページ版の JP1/IM - View では、JP1/IM - Manager のバージョン情報を表示します。

注※1 このメニューは、IM-View 設定ファイル(tuning.conf)でクリップボードにコピーする機能を有効にした場合に表示されます。詳細は、「[IM-View 設定ファイル\(tuning.conf\)](#)」(3. 定義ファイル)を参照してください。

注※2 このメニューは、接続先の JP1/IM - Manager で JP1/IM - Incident Master 連携用の設定 (JP1/IM - Incident Master 画面呼び出し設定)をした場合に表示されます。詳細は、以下を参照してください。

JP1/IM - Incident Master の画面呼び出し設定手順

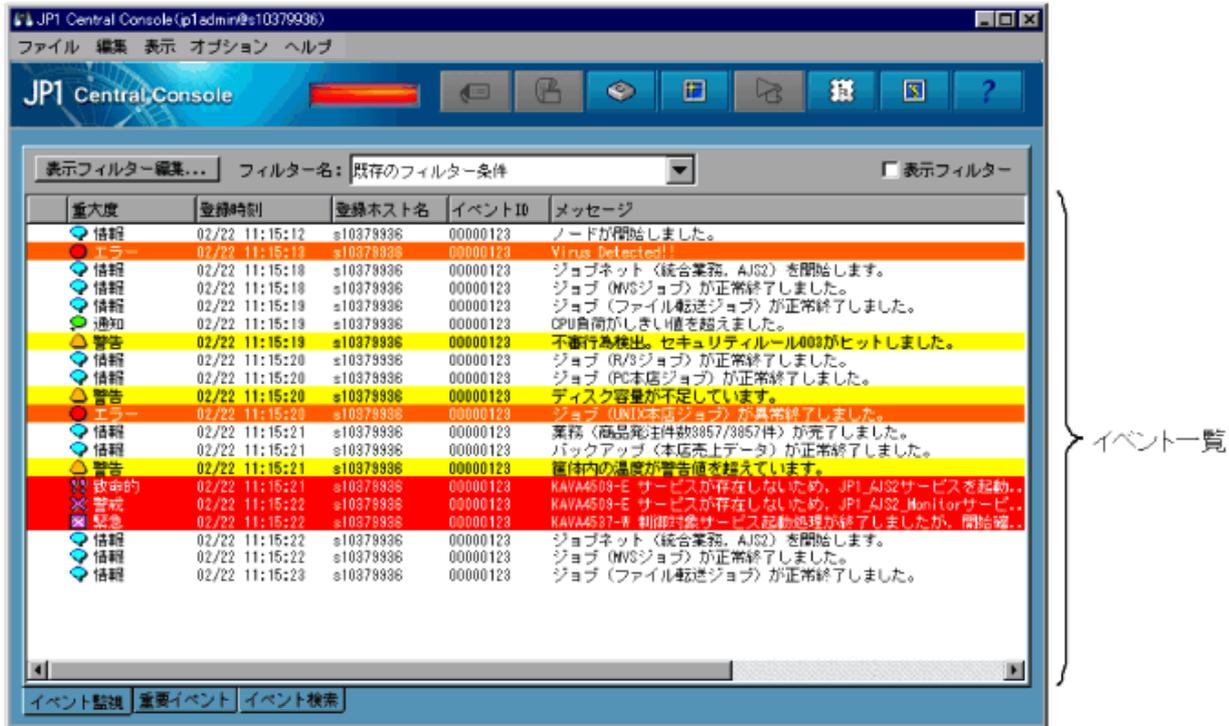
参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.1(4)

JP1/IM - Incident Master 画面呼び出し設定」

3. [イベント監視]ページ

[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページには、受信した JP1 イベントの一覧が表示されます。
[イベント監視]ページを次に示します。

図 1-7 [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページ)



表示項目を次に示します。

[表示フィルター編集]

表示する JP1 イベントの条件を定義する表示フィルターを設定します。ボタンをクリックすると、[表示フィルター設定]画面が表示されます。

[フィルター名]リストボックス

どの表示フィルターに基づいて JP1 イベントを一覧表示するか、リストボックスから選択します。

[表示フィルター]

[フィルター名]リストボックスで選択した表示フィルターを有効にするかどうかを設定します。チェックボックスをチェックすると、表示フィルターが有効になり、条件に基づいた JP1 イベントが一覧表示されます。

イベント一覧

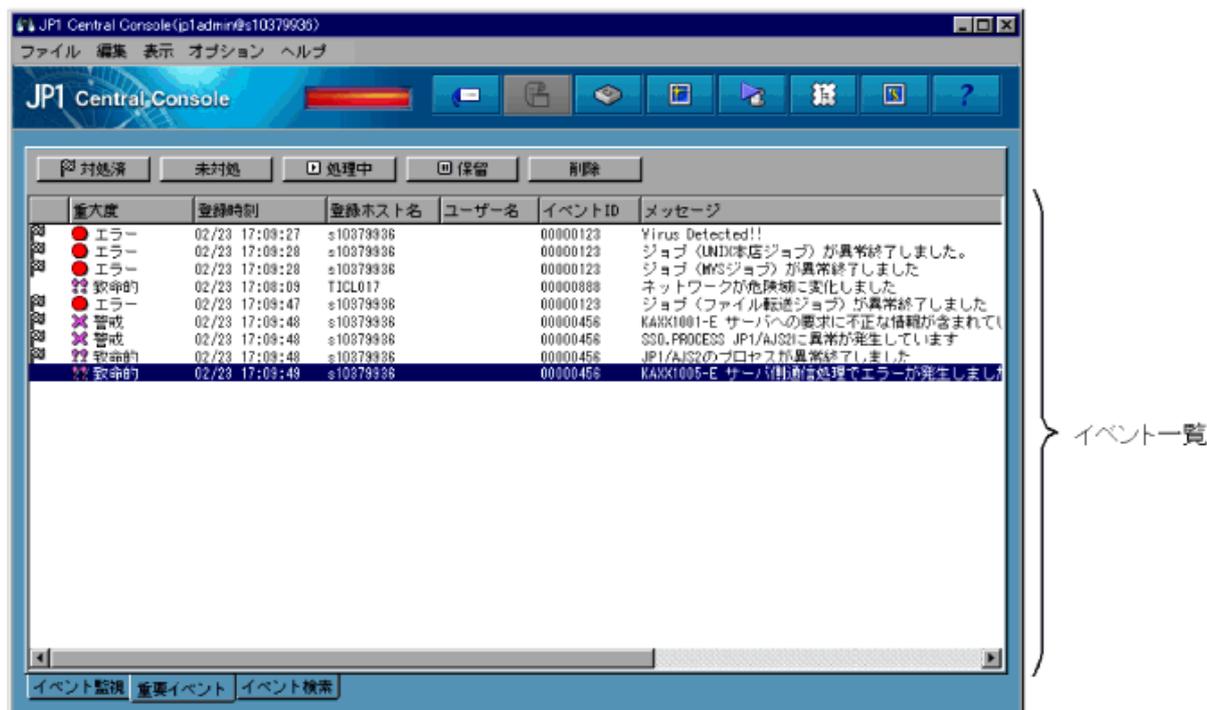
JP1 イベントを表示します。新しい JP1 イベントほど下に表示されます。イベント一覧に表示される JP1 イベントは、ログインしている JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に転送された JP1 イベントです。

イベントの対処状況を変更する場合、一度に対処状況を変更できるイベント件数は、最大 2,000 件です。WWW ページ版の JP1/IM - View の場合は、最大 1,000 件です。

4. [重要イベント]ページ

[イベントコンソール]画面の[重要イベント]ページのイベント一覧には、重要イベントだけが表示されます。[重要イベント]ページを次に示します。

図 1-8 [イベントコンソール]画面([重要イベント]ページ)



表示項目を次に示します。

[対処済]

選択した重要イベントの対処状況を「対処済」に変更します。このボタンをクリックすると、選択した重要イベントの先頭に「」が表示されます。

このボタンは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。

[未対処]

選択した重要イベントの対処状況を「未対処」に変更します。

このボタンは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。

[処理中]

選択した重要イベントの対処状況を「処理中」に変更します。このボタンをクリックすると、選択した重要イベントの先頭に「」が表示されます。

このボタンは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。

[保留]

選択した重要イベントの対処状況を「保留」に変更します。このボタンをクリックすると、選択した重要イベントの先頭に「」が表示されます。

このボタンは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。

[削除]

選択した重要イベントを画面上から削除します。対処状況にかかわらず削除できます。

このボタンによる削除は、[重要イベント]ページからの削除であり、[イベント監視]ページ、[イベント検索]ページおよびイベント DB からは削除されません。

このボタンは、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限を持つユーザーが使用できます。

イベント一覧

[重要イベント]ページのイベント一覧には、[イベント監視]ページに表示されている JP1 イベントのうち、重要イベントだけが表示されます。

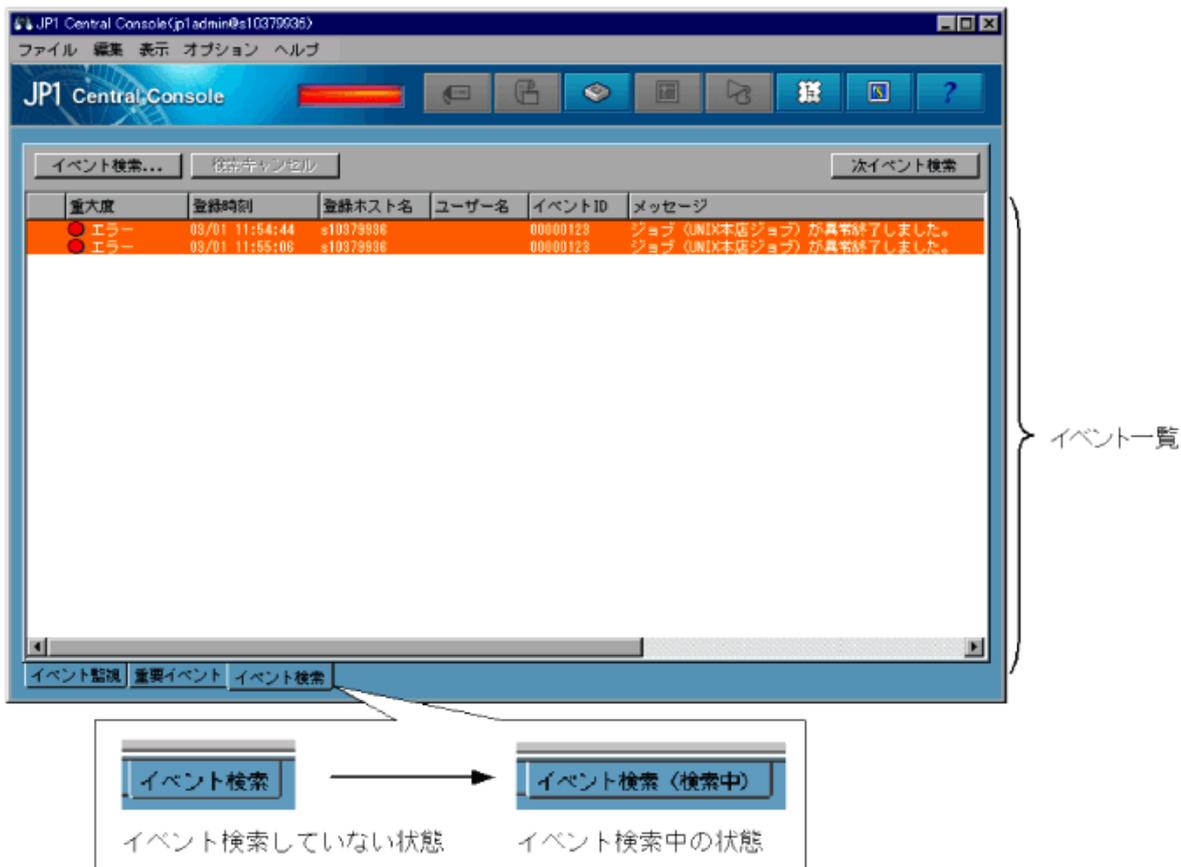
なお、表示項目の中の[登録ホスト名]は、[イベント詳細]画面では[発行元イベントサーバ名]と表示されます。

一度に対処状況を変更できるイベント件数は、最大 2,000 件です。WWW ページ版の JP1/IM - View の場合は、最大 1,000 件です。

5. [イベント検索]ページ

[イベントコンソール]画面の[イベント検索]ページには、[イベント検索条件設定]画面でJP1 イベントを検索したときの検索結果が表示されます。検索結果は、検索条件と一致するイベントが検索された時点で順次、表示されます。また、検索の途中で検索処理をキャンセルできます。[イベント検索]ページを次に示します。

図 1-9 [イベントコンソール]画面([イベント検索]ページ)



表示項目を次に示します。

[イベント検索]

JP1 イベントを検索する条件を設定します。

[検索キャンセル]

JP1 イベントの検索をキャンセルします。

[次イベント検索]

検索条件に一致するJP1 イベントが多く、検索結果が1回で取得しきれなかった場合に、次の検索結果を表示します。

次の場合には、このボタンを使用できません。

- [イベント検索]ページのイベント一覧にイベントが1件も表示されていない場合
- イベント検索でエラーが発生し、次に示すイベントIDのJP1 イベントがイベント一覧の先頭または最後に表示されている場合
3F03, 3F04, 3F05, 3F06
- イベント検索をキャンセルした場合
- 過去方向に検索を行い、イベントDBの先頭まで検索が終了した場合

イベント一覧

JP1 イベントの検索結果が表示されます。

なお、表示項目の中の[登録ホスト名]は、[イベント詳細]画面では[発行元イベントサーバ名]と表示されます。

イベントの対処状況を変更する場合、一度に対処状況を変更できるイベント件数は、最大 2,000 件です。WWW ページ版の JP1/IM - View の場合は、最大 1,000 件です。

[イベント検索]タブ

イベント検索をしていない時のタブは[イベント検索]と表示されます。

イベント検索中は[イベント検索(検索中)]に、タブの表示が変更されます。

6. [統合機能メニュー]画面

[統合機能メニュー]画面からは、JP1 シリーズのプログラムなどの関連プログラムを起動できます。この画面は、次の操作で表示されます。

- [イベントコンソール]画面で[オプション] - [統合機能メニュー起動]を選択する。
- [監視ツリー]画面で[オプション] - [統合機能メニュー起動]を選択する。
- [イベントコンソール]画面または[監視ツリー]画面のツールバーでボタンをクリックする。



WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合は、表示できません。[統合機能メニュー]画面を次に示します。

図 1-10 [統合機能メニュー]画面



表示項目を次に示します。

ツールバー

[統合機能メニュー]画面でよく使う機能をボタンにしています。ボタンは該当する製品がインストールされている場合にだけ表示されます。



ネットワークノードマネージャーを起動します。JP1/Cm2/NNMまたはHP OpenView NNMの画面が起動します。



Windows リモートコントロール機能が起動します。JP1/Remote Control Manager または JP1/NETM/DM の画面が起動します。



資産・配布管理機能が起動します。JP1/NETM/DM Manager の画面が起動します。

ツリー

起動できる機能がツリー上に表示されます。ツリーのアイコンをダブルクリックすると対応するプログラムの画面が表示されます。

[統合機能メニュー]画面から操作できる機能については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 22.3.2 [統合機能メニュー]画面から操作できる機能」を参照してください。

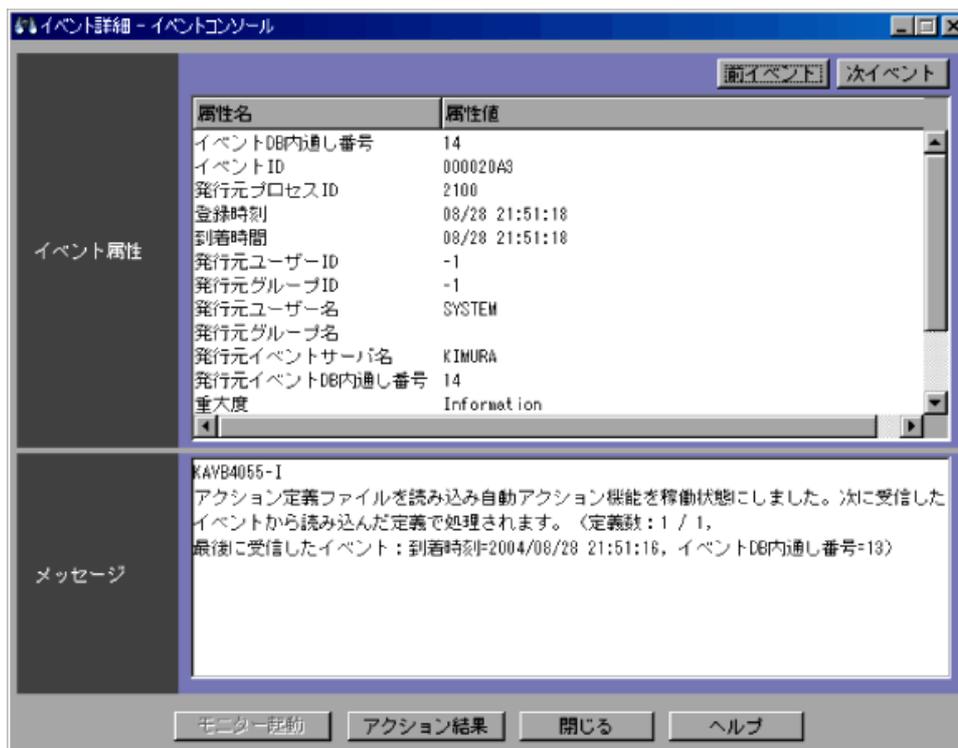
7. [イベント詳細]画面

[イベント詳細]画面には、JP1 イベントの詳細な属性情報が表示されます。この画面は、次の方法で表示できます。

- [イベントコンソール]画面で[表示]－[イベント詳細表示]を選択する。
- [関連イベント一覧]画面で JP1 イベントを一つ選択し、右クリックして表示されるポップアップメニューから[イベント詳細表示]を選択する。

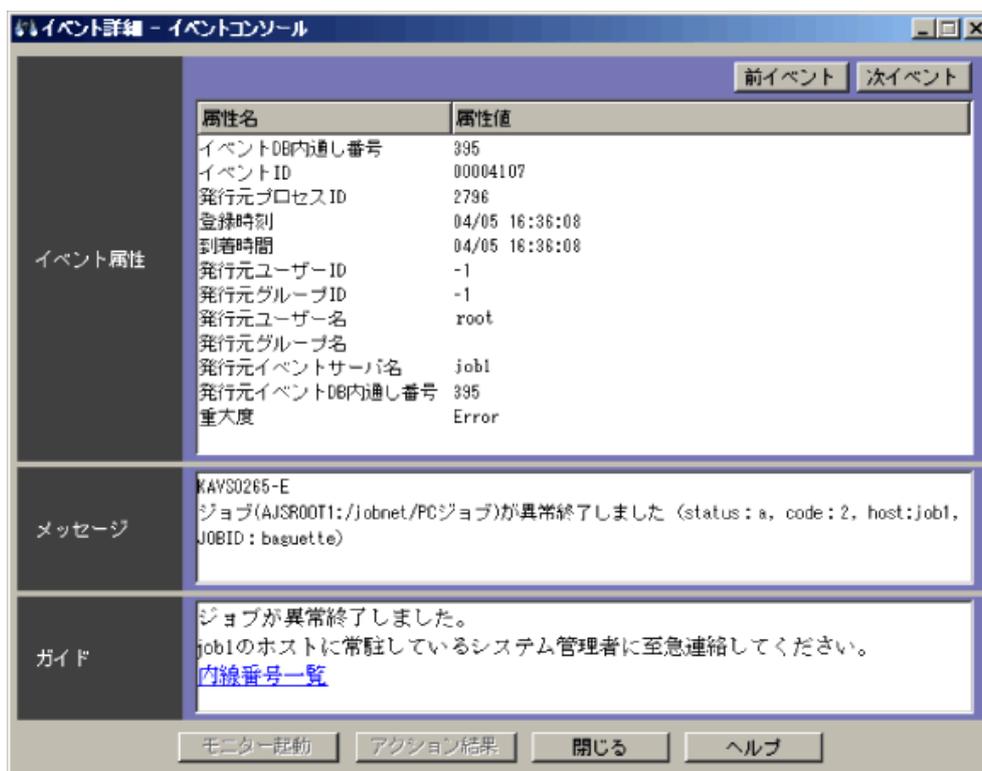
[イベント詳細]画面を次に示します。

図 1-11 [イベント詳細]画面



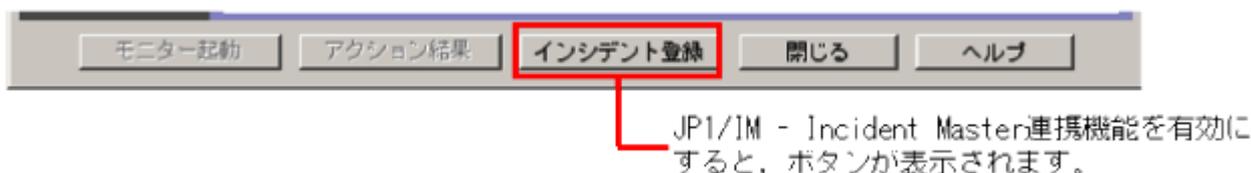
イベントガイド機能が有効の場合は、次のように表示されます。

図 1-12 [イベント詳細]画面(イベントガイド機能が有効の場合)



また、JP1/IM - Incident Master 連携機能が有効の場合は、次のように、[イベント詳細]画面下部のボタンに[インシデント登録]ボタンが追加された状態で表示されます。

図 1-13 [イベント詳細]画面(JP1/IM - Incident Master 連携機能が有効の場合)



表示項目を次に示します。

[前イベント]

イベント一覧で一つ上に表示されている JP1 イベントの詳細情報を表示します。なお、次の場合は、このボタンは非活性です。

- [イベントコンソール]画面で複数のイベントを選択している場合
- [イベントコンソール]画面でイベントを選択していない場合

[次イベント]

イベント一覧で一つ下に表示されている JP1 イベントの詳細情報を表示します。なお、次の場合は、このボタンは非活性です。

- [イベントコンソール]画面で複数のイベントを選択している場合
- [イベントコンソール]画面でイベントを選択していない場合

[イベント属性]

JP1 イベントの属性名と属性値が表示されます。属性の種類はイベントによって異なります。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストが表示されます。

[ガイド]

表示されている JP1 イベントに対応したイベントガイド情報が表示されます。なお、JP1 イベントに対応するイベントガイド情報がない場合は、「KAVB1588-I ガイド情報はありません」が表示

されます。

イベントガイド機能が無効になっている場合は、[ガイド]は表示されません。

[ガイド]に表示されるイベントガイド情報は、あらかじめイベントガイド情報ファイルに記述しておく必要があります。詳細については、「[イベントガイド情報ファイル\(jco_guide.txt\)](#)」(3. 定義ファイル)を参照してください。

[モニター起動]

表示されている JP1 イベントのモニター画面を起動します。このボタンは、WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。また、モニター画面が設定されていない JP1 イベントが表示されているときは、クリックできません。

[アクション結果]

表示されているイベントに自動アクションが設定されている場合に、アクションの結果を表示します。ボタンをクリックすると、[アクション結果]画面が表示されます。

[インシデント登録]

表示されている JP1 イベントをインシデントとして登録するために、JP1/IM - Incident Master の [インシデントの登録]画面を起動します。このボタンは、JP1/IM - Incident Master 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。JP1/IM - Incident Master 連携用の設定をしていない場合には表示されません。

JP1/IM - Incident Master 連携用の設定の詳細は、以下を参照してください。

JP1/IM - Incident Master の画面呼び出し設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.1 (4)JP1/IM - Incident Master 画面呼び出し設定」

関連定義ファイル

参照先:「[インシデント手動登録定義ファイル\(incident.conf\)](#)」(3. 定義ファイル)

また、次の場合、このボタンは非活性となります。

- JP1_Console_User 権限しか持たない JP1 ユーザー、またはどの権限も持たない JP1 ユーザーで JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続している場合
- [イベントコンソール]画面で JP1 イベントを選択していない場合
- [イベント検索]で接続先ホスト以外のホストを検索し、そのホストに登録された JP1 イベントの詳細を表示した場合

(備考)

「KAVB0291-E イベント詳細情報の取得に失敗しました」が[メッセージ]欄に表示されている場合、[インシデント登録]ボタンは非活性となります。

この現象は、JP1/Base のイベント DB がラップしたことによって JP1 イベント情報もラップした場合など、[イベント詳細]画面に表示するイベント詳細情報を取得できなかったときに発生します。

1.3.6 [関連イベント一覧(集約)]画面

繰り返しイベントの集約表示機能を使用している場合に、集約イベントの繰り返しイベントを一覧表示します。

繰り返しイベントの集約表示機能とは、JP1/IM - View が連続して受信する同一内容の JP1 イベントを一つに集約して、[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページに表示する機能です。

繰り返しイベントの集約表示機能では、同一内容の JP1 イベントを一つのイベントにまとめたイベントのことを**集約イベント**といいます。集約イベントには、集約を継続中のイベント(**集約中イベント**)と、集約が完了したイベント(**集約完了イベント**)の2種類があります。また、同一内容の JP1 イベントの中で最初に JP1/IM - View が受信した JP1 イベントのことを**集約開始イベント**、集約開始イベント以降に受信した集約開始イベントと同一内容の JP1 イベントを**繰り返しイベント**、繰り返しイベントがないためイベントが集約されないイベントを**非集約イベント**といいます。

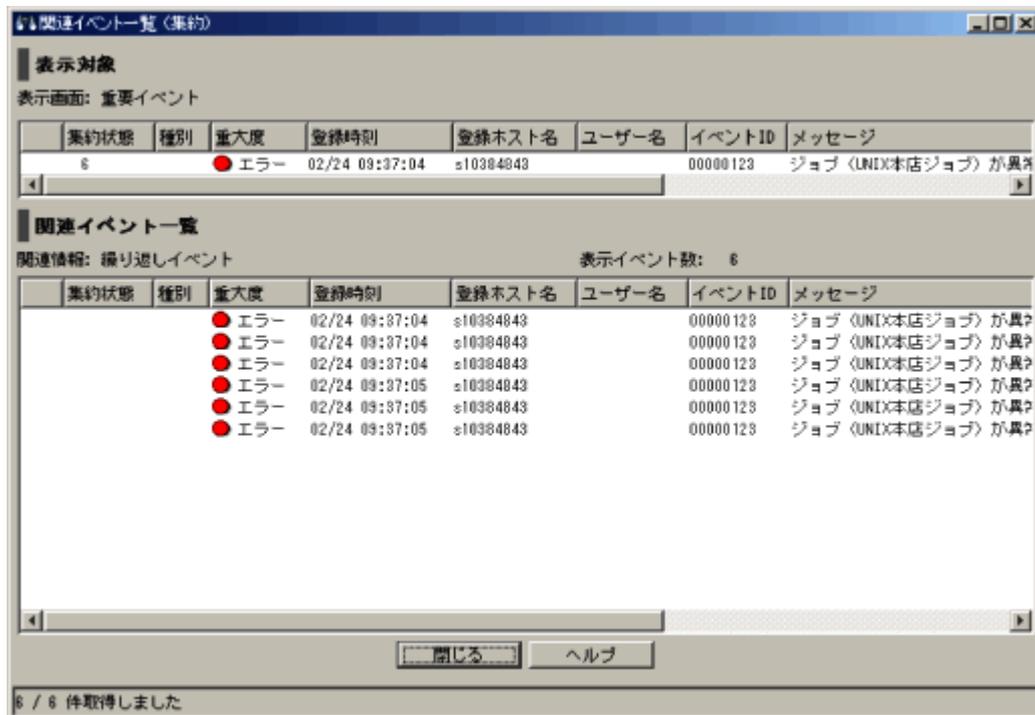
[関連イベント一覧(集約)]画面は次のどちらかの場合に表示されます。

- [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページおよび[重要イベント]ページ)で、集約イベントを一つ選択し、メニューの[表示]-[関連イベント一覧表示]を選択した場合。
- [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページおよび[重要イベント]ページ)で、集約イベントを一つ選択し、ポップアップメニューから[関連イベント一覧表示]を選択した場合。

なお、集約イベントがない場合、この画面は表示されません。

[関連イベント一覧(集約)]画面を次に示します。

図 1-14 [関連イベント一覧(集約)]画面



表示項目を次に示します。

[表示対象]

[イベントコンソール]画面([イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページ)で選択した集約イベントが表示されます。[表示対象]に表示される項目は、繰り返しイベントの集約表示機能が有効な場合の[イベントコンソール]画面に表示される項目と同じです。また、[イベントコンソール]画面同様に対処状況を変更できます。[重要イベント]ページから[関連イベント一覧]

画面を表示している場合は、集約イベントを削除できます。

[表示対象]の表示規則は次のとおりです。

- 対処状況を変更した場合、左端の列に対処状況マークが表示されます。また、[関連イベント一覧]に表示されているすべての繰り返しイベントの対処状況が変更されます(対処状況マークも表示されます)。
- [関連イベント一覧]に表示されている集約開始イベントの対処状況を変更した場合、[表示対象]に表示されている集約イベントの左端の列に同じ対処状況マークが表示されます。
- [関連イベント一覧]に表示されている各繰り返しイベントの対処状況が異なる場合、[表示対象]に表示されている集約イベントの左端の列に「！」が表示されます。
- 集約イベントを削除した場合、[表示対象]の集約状態に「削除」と表示され、グレー表示になります。また、[関連イベント一覧]に表示されているすべての繰り返しイベントが削除されます。
- [関連イベント一覧]に表示されている集約開始イベントを削除した場合、[表示対象]に表示されている集約イベントの集約状態に「削除」と表示され、グレー表示になります。
- [ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[表示対象]の表示項目も変更されます。

[表示画面]

[表示画面]には[関連イベント一覧 (集約)]画面を呼び出した元の画面名が、次の形式で表示されます。

表示画面:**呼び出し元の画面**

呼び出し元の画面に表示される画面名を次に示します。

表 1-8 呼び出し元の画面に表示される画面名

項番	画面名(文字列)	表示条件
1	イベント監視	[関連イベント一覧(集約)]画面を[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページから呼び出したときに表示されます。
2	重要イベント	[関連イベント一覧(集約)]画面を[イベントコンソール]画面の[重要イベント]ページから呼び出したときに表示されます。

[関連イベント一覧]

[イベントコンソール]画面([イベント監視]ページまたは[重要イベント]ページ)で、選択している集約イベントの集約開始イベントと繰り返しイベントが表示されます。[関連イベント一覧]に表示される項目は、繰り返しイベントの集約表示機能が有効な場合の[イベントコンソール]画面に表示される項目と同じです。ただし、[集約状態]には、何も表示されません。また、[イベントコンソール]画面同様に対処状況を変更できます。[重要イベント]ページから[関連イベント一覧(集約)]画面を表示している場合は、集約イベントの集約開始イベントと繰り返しイベントを削除できます。

[関連イベント一覧]の表示規則は次のとおりです。

- 対処状況を変更した場合、左端の列に対処状況マークが表示されます。

- 選択した繰り返しイベントを削除した場合、削除した繰り返しイベントは[関連イベント一覧]に表示されなくなります。
- [ユーザー環境設定]画面の[カラーリング]の設定は、無効となるため、重大度(「緊急」、「警戒」、「致命的」、「エラー」、「警告」)別の背景色は付きません。
- [ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[関連イベント一覧]の表示項目も変更されます。

注意事項

- [関連イベント一覧]に集約開始イベントまたは繰り返しイベントを表示できない場合、次のダミーイベント(イベント DB に登録されないイベント)がグレー表示されます。
 - JP1/IM - Manager, JP1/Base で例外が発生したために集約開始イベントまたは繰り返しイベントが取得できなかった場合(メッセージ KAVB0352-E のダミーイベント)
 - 集約開始イベントまたは繰り返しイベントがイベント DB にない場合(メッセージ KAVB0341-W のダミーイベント)
 - 集約開始イベントまたは繰り返しイベントがユーザーフィルターでフィルタリングされている場合(メッセージ KAVB0342-W のダミーイベント)
- [関連イベント一覧(集約)]画面の表示内容を更新したい場合は、[関連イベント一覧(集約)]画面を一度閉じてから開き直してください。
- [表示対象]の集約イベントを変更したい場合は、[イベントコンソール]画面で表示したい集約イベントを選択して[表示] - [関連イベント一覧表示]を選択し直してください。
- ほかの画面で[関連イベント一覧(集約)]画面に表示しているイベントの対処状況を変更しても[関連イベント一覧(集約)]画面での表示は変わりません。最新の状態を表示したい場合、[関連イベント一覧(集約)]画面を一度閉じてから開き直してください。

[関連情報]

[関連イベント一覧(集約)]画面に表示中の集約開始イベントおよび繰り返しイベントの情報を表示します。「繰り返しイベント」と表示されます。

[表示イベント数]

集約開始イベントおよび繰り返しイベントの総数が表示されます。

[進捗度表示]

集約開始イベントおよび繰り返しイベントの取得の進捗度が表示されます。分子は取得が完了した集約開始イベントおよび繰り返しイベントの数、分母は集約開始イベントおよび繰り返しイベントの総数です。[関連イベント一覧]に表示されるイベントの順次表示に合わせて分子の数値が増加します。

集約開始イベントおよび繰り返しイベントの取得中にエラーが発生して、処理が中止された場合は「関連イベントの取得を中止しました」が表示されます。

1.3.7 [関連イベント一覧(相関)]画面

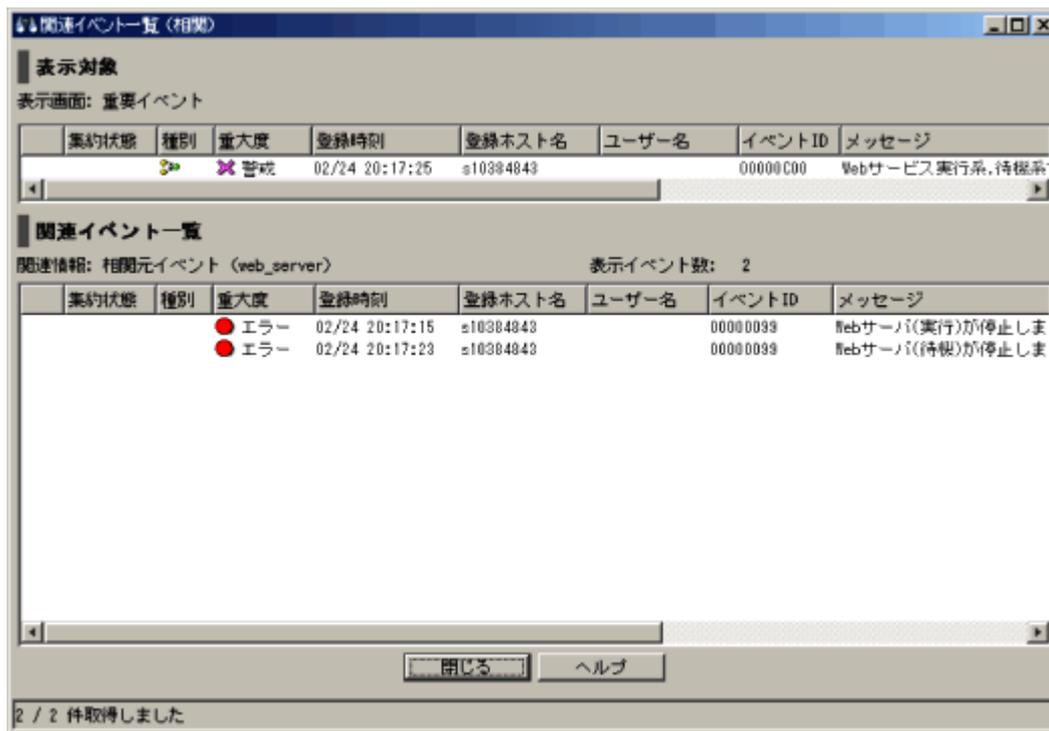
相関イベント発行機能を使用している場合に、相関イベントの相関元イベントを一覧表示します。

[関連イベント一覧(相関)]画面は次のどれかの場合に表示されます。

- [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページ, [重要イベント]ページおよび[イベント検索]ページ)で、相関イベントを一つ選択し、メニューの[表示] - [関連イベント一覧表示]を選択した場合。
- [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページ, [重要イベント]ページおよび[イベント検索]ページ)で、相関イベントを一つ選択し、ポップアップメニューから[関連イベント一覧表示]を選択した場合。
- 次の手順を実施した場合。
 1. [イベントコンソール]画面([イベント監視]ページ, [重要イベント]ページおよび[イベント検索]ページ)で、集約された相関イベントを一つ選択する。
 2. メニューの[表示] - [関連イベント一覧表示]を選択して、[関連イベント一覧(集約)]を表示する。
 3. [関連イベント一覧]から相関イベントを一つ選択して、ポップアップメニューから[関連イベント一覧表示]を選択する。

[関連イベント一覧(相関)]画面を次に示します。

図 1-15 [関連イベント一覧(相関)]画面



表示項目を次に示します。

[表示対象]

[イベントコンソール]画面([イベント監視]ページ, [重要イベント]ページおよび[イベント検索]ページ)または[関連イベント一覧(集約)]画面で、選択した相関イベントが表示されます。[表示対象]に表示される項目は、[イベントコンソール]画面に表示される項目と同じです。[ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[表示対象]の表示項目も変更されます。また、[表示対象]に表示される相関イベントは、[イベントコンソール]画面と同様にイベントの詳細を表示したり、対処状況を変更したりできます。対処状況を変更すると、左端の列に対処状況マークが表示されます。

なお、イベント検索を行い JP1/IM - View からログインしているホストとは別のホストにある関連イベントを[表示対象]に表示している場合、次に示す操作はできません。

- 対処状況の変更
- JP1/IM - Incident Master へのインシデント登録

また、対処状況を「削除」に変更する場合、[重要イベント]ページを起点として、[関連イベント一覧(相関)]画面を表示している必要があります。[表示画面]の表示が次のどちらかであることを確認してください。

- 重要イベント
- 重要イベント - 関連イベント一覧(集約)

削除した関連イベントは背景色がグレーに変更されます。

[表示対象]の表示規則は次のとおりです。

- [ユーザー環境設定]画面の[カラーリング]の設定は、無効となるため、重大度(「緊急」、「警戒」、「致命的」、「エラー」、「警告」)別の背景色は付きません。
- [ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[関連イベント一覧]の表示項目も変更されます。

[表示画面]

[表示画面]には[関連イベント一覧(相関)]画面を呼び出した元の画面名が、次の形式で表示されます。

表示画面:呼び出し元の画面

呼び出し元の画面に表示される画面名を次に示します。

表 1-9 呼び出し元の画面に表示される画面名

項番	画面名(文字列)	表示条件
1	イベント監視	[関連イベント一覧(相関)]画面を[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページから呼び出したときに表示されます。
2	重要イベント	[関連イベント一覧(相関)]画面を[イベントコンソール]画面の[重要イベント]ページから呼び出したときに表示されます。
3	イベント検索	[関連イベント一覧(相関)]画面を[イベントコンソール]画面の[イベント検索]ページから呼び出したときに表示されます。
4	呼び出し元の画面' - 関連イベント一覧(集約)	[イベントコンソール]画面で集約された関連イベントから、[関連イベント一覧(集約)]画面を呼び出し、さらに関連イベントの一覧から[関連イベント一覧(相関)]画面を呼び出したときに表示されます。 なお、呼び出し元の画面'に表示される画面名は項番 1, 2 のどちらかです。

[関連イベント一覧]

[表示対象]に表示している関連イベントの相関元イベントが一覧で表示されます。[関連イベント一覧]に表示される項目は、[イベントコンソール]画面に表示される項目と同じです。[ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[関連イベント一覧]の表示項目も変更されます。

また、[関連イベント一覧]に表示される相関元イベントは、[イベントコンソール]画面と同様にイベントの詳細を表示したり、対処状況を変更したりできます。対処状況を変更すると、左端の

列に対処状況マークが表示されます。

関連イベントを発行したホストが、JP1/IM - View でログインしているホストと別ホストだった場合は、関連イベントを発行したホストから関連元イベントが取得されます。

なお、イベント検索を行いJP1/IM - View からログインしているホストとは別のホストにある関連イベントを[表示対象]に表示している場合、[関連イベント一覧]に表示されている関連元イベントに対して、次に示す操作はできません。

- 対処状況の変更
- JP1/IM - Incident Master へのインシデント登録

また、対処状況を「削除」に変更する場合、[重要イベント]ページを起点として[関連イベント一覧(相関)]画面を表示している必要があります。[表示画面]の表示が次のどちらかであることを確認してください。

- 重要イベント
- 重要イベント - 関連イベント一覧(集約)

削除した関連元イベントは背景色がグレーに変更されます。

[関連イベント一覧]の表示規則は次のとおりです。

- [ユーザー環境設定]画面の[カラーリング]の設定は、無効となるため、重大度(「緊急」、「警戒」、「致命的」、「エラー」、「警告」)別の背景色は付きません。
- [ユーザー環境設定]画面で表示項目を変更した場合、[関連イベント一覧]の表示項目も変更されます。

注意事項

- [表示対象]に表示されている関連イベント、[関連イベント一覧]に表示されている関連元イベントのどちらの対処状況を変更しても、他方の対処状況は変更されません。関連イベントと関連元イベントは別の事象を表すイベントであるためです。
- [関連イベント一覧]に関連元イベントを表示できない場合、次のダミーイベントが表示されます。
 - JP1/IM - Manager, JP1/Base で例外が発生したために関連元イベントを取得できなかった場合(メッセージ KAVB0352-E のダミーイベント)。
 - 関連元イベントがイベント DB にない場合(メッセージ KAVB0341-W のダミーイベント)
 - 関連元イベントがユーザーフィルターでフィルタリングされている場合(メッセージ KAVB0342-W のダミーイベント)
- [表示対象]の関連イベントを変更したい場合は、[イベントコンソール]画面で表示したい関連イベントを選択して[表示] - [関連イベント一覧表示]を選択し直してください。
- [関連イベント一覧(相関)]画面を[関連イベント一覧(集約)]から表示している場合、[関連イベント一覧(集約)]画面に表示する集約イベントを変更すると、[関連イベント一覧(相関)]画面は自動的に閉じます。
- ほかの画面で[関連イベント一覧(相関)]画面に表示しているイベントの対処状況を変更しても[関連イベント一覧(相関)]画面での表示は変わりません。最新の状態を表示したい場合、[関連イベント一覧(相関)]画面を一度閉じてから開き直してください。

[関連情報]

[関連イベント一覧(相関)]画面に表示中の関連元イベントの情報が表示されます。「関連元イベント(発行条件名)」と表示されます。

[表示イベント数]

関連元イベントの総数が表示されます。

[進捗度表示]

関連元イベントの取得の進捗度が表示されます。分子は取得が完了した関連元イベント数、分母は関連元イベントの総数です。[関連イベント一覧]に表示されるイベントの順次表示に合わせて分子の数値が増加します。

関連元イベントの取得中にエラーが発生して処理が中止された場合は、「関連イベントの取得を中止しました」が表示されます。

8. [重要イベント定義]画面

[重要イベント定義]画面では、どの JP1 イベントを重要イベントとするかを定義します(重要イベントフィルターの設定)。重要イベントの定義には、JP1_Console_Admin 権限が必要です。この画面は、[イベントコンソール]画面で、[オプション]－[重要イベント定義]を選択すると、表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

この画面でフィルター条件を設定し、[OK]ボタンをクリックすると、設定した内容がフィルター条件文に変換され、設定が有効になります。なお、フィルター条件文の最大長は 64 キロバイトです。最大長を超えていた場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ (KAVB0246-E のメッセージ) が表示されます。この場合は、設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

なお、この画面で設定する条件群の中に、条件を何も設定していない([条件一覧]以下の項目を設定していない)条件群がある場合、すべての JP1 イベントを表示(取得)対象とします。フィルターをかけた場合は、設定した条件群それぞれに対し、必ず一つ以上の条件を設定してください。

[重要イベント定義]画面を次に示します。

図 1-16 [重要イベント定義]画面

表示項目を次に示します。

条件を設定するには、項目名の前のチェックボックスをチェックして、値を指定してください。

[一覧表示]／[一覧非表示]

条件群一覧の表示・非表示を切り替えます。すでに条件群一覧が表示されている場合、ボタンの名称は[一覧非表示]になります。

[一覧]

条件群の一覧が表示されます。条件群を選択すると、条件群の名称は[条件群名]に、条件内容は条件一覧に表示され、編集できるようになります。

設定できる条件群の数は、最大 30 です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[追加]

新規に条件群を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、条件群が「条件群 1」、「条件群 2」...という名称で追加されます。また、条件群を追加すると、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[複製]

選択している条件群を複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している条件群と同じ条件を持った条件群が複製されます。複製された条件群名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできる条件群名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「**コピー半角数字複製元の条件群名**」となります。半角数字は 2 から始まり、条件群名が複製されるたびに 2, 3, 4 と昇順に増えていきます。また、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[削除]

選択している条件群を削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0257-I この条件群を削除してよろしいですか?」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、条件群が削除されます。

[条件群名]

条件群の名称を指定します。

既存の条件群を選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。

既存の条件群と同じ名称を指定した場合は、「KAVB0256-E 指定した条件群名はすでに設定されています」のダイアログが表示されます。

[クリア]

条件一覧に指定されている内容をすべてクリアします。

[選択イベント条件入力]

[イベントコンソール]画面で選択している JP1 イベントの属性値を、条件一覧に入力します。

[選択イベント条件入力]をクリックしたときの動作は次のようになります。

- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれる場合
制御文字の直前の文字までが、条件一覧の条件値として反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は、[から始まる]が選択されます。
- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれない場合
イベント属性値がすべて反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は[と一致する]が選択されます。

なお、選択している JP1 イベントの情報がイベント情報マッピング定義でマッピングされている場合は、マッピングしている表示項目の属性値および固有の拡張属性値は、条件一覧に入力さ

れません。イベント情報マッピング定義の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 20.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する」を参照してください。

[登録ホスト名]

JP1 イベントが発生したホストのホスト名(イベントサーバ名)を指定します。複数のホストを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のホスト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントのユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]

[から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかが選択できますが、[から始まる]または[を含む]を選択することを推奨します。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストに使われている制御コードが式に含まれないように注意してください。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を指定します。

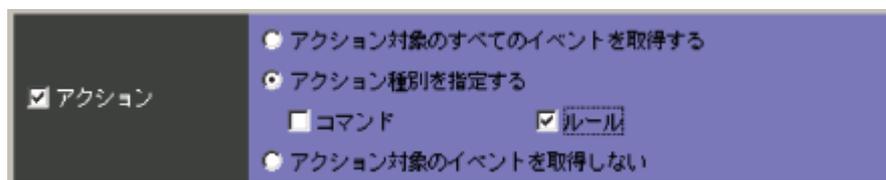
複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

[アクション]

自動アクションが定義されている JP1 イベントの場合に、自動アクションが実行されたかどうかを条件とします。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、次のように、[アクション]の選択項目が追加された状態で表示されます。



JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、アクションの種別をフィルター条件に指定できます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

9. [システム環境設定]画面

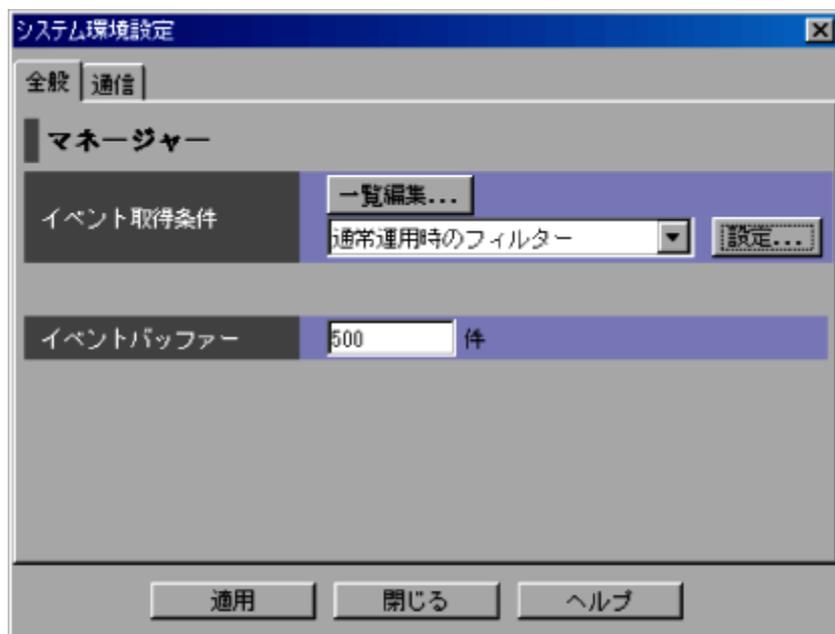
[システム環境設定]画面では、イベント取得時のフィルター条件やバッファサイズなど、JP1/IMの基本動作を設定します。[システム環境設定]画面は、WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

[システム環境設定]画面を表示するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション]—[システム環境設定]を選択すると表示されます。[システム環境設定]画面には、[全般]および[通信]の2種類のページがあり、タブを選択することで表示を切り替えられます。

(1) [全般]ページ

[システム環境設定]画面の[全般]ページを次に示します。

図 1-17 [システム環境設定]画面([全般]ページ)



表示項目を次に示します。

[一覧編集]

イベント取得フィルター一覧を編集するための画面を表示します。

[一覧編集]をクリックすると、[イベント取得条件一覧]画面が表示されます。

なお、イベント取得フィルターが互換モードで動作している場合は、このボタンは非活性になります。

[イベント取得条件]ドロップダウンリスト

現在使用しているイベント取得フィルターが表示されます。

イベント取得フィルターを変更する場合、適用するイベント取得フィルターをドロップダウンリストから選択して、[適用]をクリックすると、選択したイベント取得フィルターがイベント取得条件として使用されます。

なお、イベント取得フィルターが互換モードで動作している場合は、ドロップダウンリストは非活性となり、ドロップダウンリストには「既存のフィルター条件」と表示されます。

[設定]

イベントサービスからイベントを取得する場合のフィルター(イベント取得フィルター)条件を設

定・変更するための画面を表示します。

[イベント取得条件]ドロップダウンリストから、変更するイベント取得フィルターを選択して[設定]をクリックすると、[イベント取得条件設定]画面または[イベント取得条件設定]画面(互換用)が表示されます。

[イベント取得条件設定]画面(互換用)は、イベント取得フィルターの互換用を使用している場合に表示されます。

[イベントバッファ]

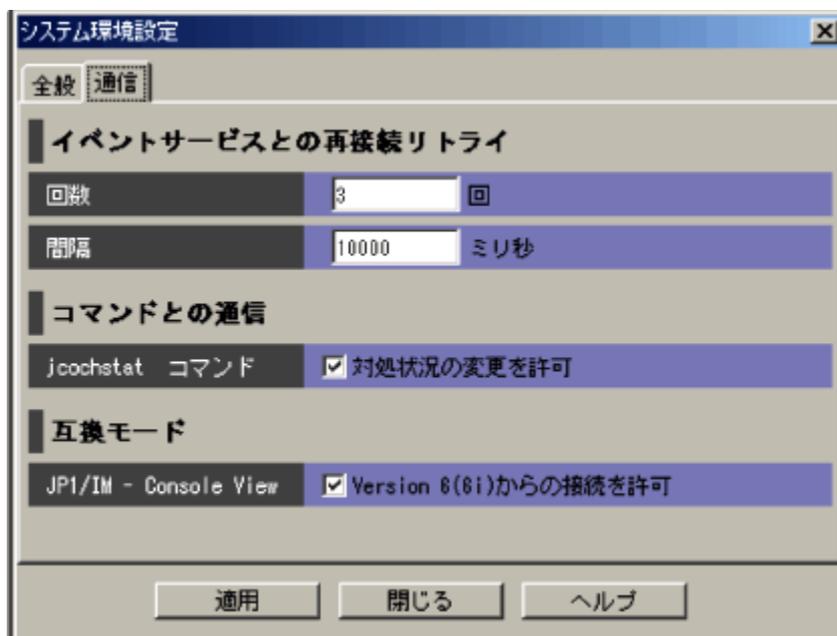
イベントサービスからイベントを抽出して JP1/IM - Manager 上にバッファリングするときのイベント件数の上限を設定します。指定できる値は 10～2,000 件、デフォルトは 500 件です。

この値を小さくし過ぎると、[イベントコンソール]画面で表示するイベントに抜けが発生する場合があります。

(2) [通信]ページ

[システム環境設定]画面の[通信]ページを次に示します。

図 1-18 [システム環境設定]画面([通信]ページ)



表示項目を次に示します。

[回数]

イベントサービスと接続ができなかった、または接続が切断された場合に自動的に再接続するリトライ回数を指定します。指定できる値は 0～100 回、デフォルトは 3 回です。

[間隔]

イベントサービスと接続ができなかった、または接続が切断された場合に自動的に再接続するリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。指定できる値は 1～86,400,000 ミリ秒、デフォルトは 10,000 ミリ秒です。

[jcochstat コマンド]

jcochstat コマンドが使用できるようにするかどうかを指定します。

イベントの対処状況を変更するためには jcochstat コマンドを使うこともできますが、jcochstat コマンドを使って対処状況を変更されたくない場合は、jcochstat コマンドが使用できないように設定します。

jcochstat コマンドを使用できるようにする場合は、[対処状況の変更を許可]をチェックします。

[JP1/IM - Console View]

バージョン 7 以降の JP1/IM でだけ設定できる項目です。

JP1/IM - Manager またはバージョン 7 の JP1/IM - Central Console に対してバージョン 6 の JP1/IM - Console View との接続ができるようにするかどうかを指定します。

バージョン 6 の JP1/IM - Console View で JP1/IM - Manager またはバージョン 7 の JP1/IM - Central Console に接続した場合、JP1 ユーザーに JP1_Console_User 権限を設定していても JP1_Console_Operator 権限でシステムの操作ができます。また、どの JP1 権限レベルも設定しなかった場合も JP1_Console_Operator 権限でシステムの操作ができます。バージョン 6 の JP1/IM - Console View からのシステムの操作を制限したい場合は、バージョン 6 の JP1/IM - Console View との接続ができないように設定します。

バージョン 6 の JP1/IM - Console View との接続ができるようにする場合は、[Version 6 (6i)からの接続を許可]をチェックします。

10. [イベント取得条件設定]画面

[イベント取得条件設定]画面では、イベントサービスからイベントを取得するときのフィルター(イベント取得フィルター)条件を設定します。

この画面の表示方法を次に示します。

- [システム環境設定]画面で、[イベント取得条件]ドロップダウンリストから、変更するイベント取得フィルターを選択して[設定]をクリックする。
- [イベント取得条件一覧]画面で、フィルター一覧から項目を選択し、[編集]をクリックする。
- [イベント取得条件一覧]画面で、[追加]をクリックする。

なお、[システム環境設定]画面を表示するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。

この画面でフィルター条件を設定し、[OK]ボタンをクリックすると、設定した内容がフィルター条件文に変換されます(設定が有効になるのは[システム環境設定]画面で[適用]ボタンをクリックしたあととなります)。なお、フィルター条件文の最大長は 60 キロバイトです。最大長を超えていた場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ(KAVB0246-E のメッセージ)が表示されます。この場合は、設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

なお、この画面で設定する条件群の中に、条件を何も設定していない([条件一覧]以下の項目を設定していない)条件群がある場合、すべての JP1 イベントを表示(取得)対象とします。フィルターをかけた場合は、設定した条件群それぞれに対し、必ず一つ以上の条件を設定してください。

(備考)

- 接続先ホストの JP1/IM - Manager でイベント取得フィルター(互換用)を使用している場合、この画面は表示されず、[イベント取得条件設定]画面(互換用)が表示されます。
- [イベント取得条件設定]画面(互換用)では次の条件を 1 画面で表現できますが、[イベント取得条件設定]画面では複数の条件群を設定しないと表現できません。
 - 特定の重大度を指定したイベントと JP1/SES イベントの両方を取得する。

例えば、重大度「エラー」のイベントと JP1/SES イベントの両方を取得したいときには、次のように条件群を設定します。

2. 重大度「エラー」のイベントを取得するための条件群「条件群 1」を作成し、[重大度]の属性指定で[重大度を指定する]ラジオボタンを選択し、[エラー]チェックボックスにチェックを付ける。
3. JP1/SES イベントを取得するための条件群「条件群 2」を作成し、[重大度]の属性指定で[JP1/SES イベントを取得する]ラジオボタンを選択する。

[イベント取得条件設定]画面を次に示します。

図 1-19 [イベント取得条件設定]画面

表示項目を次に示します。

[フィルター名]

イベント取得フィルターを追加する場合、フィルター名を入力します。

イベント取得フィルターを編集する場合、フィルター一覧から選択したイベント取得フィルターのフィルター名が表示されます。フィルター名を変更すると、フィルター名が変更した名称に更新されます。新しいイベント取得フィルターが作成されるわけではありませんので、注意してください。

注意事項

- フィルター名の最初および最後に空白がある場合、空白は文字として認識されます。したがって、フィルター名の最初または最後に空白があるフィルターと空白がないフィルターは、別名のフィルターと認識されます。
- すでに指定されているフィルター名を重複して指定できません。

[フィルターID]

イベント取得フィルターのフィルターID をドロップダウンリストから選択します。

イベント取得フィルターを追加する場合、イベント取得フィルター一覧の中で未使用のフィルターID が、数値の小さい順に自動的に割り振られます。

イベント取得フィルターを編集する場合、フィルター一覧から選択したイベント取得フィルターのフィルターID が表示されます。フィルターID を変更すると、フィルターID が変更した ID に更新されます。新しいイベント取得フィルターが作成されるわけではありませんので、注意してください。

注意事項

- すでに指定されているフィルターID を重複して指定できません。

[一覧表示]／[一覧非表示]

条件群一覧の表示・非表示を切り替えます。すでに条件群一覧が表示されている場合、ボタンの名称は[一覧非表示]になります。

[一覧]

条件群の一覧が表示されます。条件群を選択すると、条件群の名称は[条件群名]に、条件内容は条件一覧に表示され、編集できるようになります。

設定できる条件群の数は、最大 30 です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[追加]

新規に条件群を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、条件群が「条件群 1」、「条件群 2」...の形式で追加されます。また、条件群を追加すると、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[複製]

選択している条件群を複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している条件群と同じ条件を持った条件群が複製されます。複製された条件群名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできる条件群名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「コピー**半角数字** 複製元の条件群名」となります。半角数字は 2 から始まり、条件群名が複製されるたびに 2, 3, 4 と昇順に増えていきます。また、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[削除]

選択している条件群を削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0257-I この条件群を削除してよろしいですか?」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、条件群が削除されます。

[条件群名]

条件群の名称を指定します。

既存の条件群を選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。

既存の条件群と同じ名称を指定した場合は、「KAVB0256-E 指定した条件群名はすでに設定されています」のダイアログが表示されます。

[クリア]

条件一覧に指定されている内容をすべてクリアします。

[選択イベント条件入力]

[イベントコンソール]画面で選択している JP1 イベントの属性値を、条件一覧に入力します。

[選択イベント条件入力]をクリックしたときの動作は次のようになります。

- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれる場合
制御文字の直前の文字までが、条件一覧の条件値として反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は、[から始まる]が選択されます。
- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれない場合
イベント属性値がすべて反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は[と一致する]が選択されます。

なお、選択しているJP1 イベントの情報がイベント情報マッピング定義でマッピングされている場合は、マッピングしている表示項目の属性値および固有の拡張属性値は、条件一覧に入力されません。イベント情報マッピング定義の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 20.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する」を参照してください。

[登録ホスト名]

JP1 イベントが発生したホストのホスト名(イベントサーバ名)を指定します。複数のホストを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のホスト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[重大度]

取得するイベントの重大度を指定します。

重大度が設定されているすべてのイベントを取得する場合は[重大度が定義されているすべてのイベントを取得する]をチェックします。

重大度が設定されているイベントのうち、特定のイベントを取得する場合は[重大度を指定する]をチェックし、緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

JP1/SES イベントを取得する場合は、[JP1/SES イベントを取得する]をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントのユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかが選択できますが、[から始まる]または[を含む]を選択することを推奨します。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

11. [イベント取得条件設定]画面(互換用)

この画面は、[システム環境設定]画面で[イベント取得条件]の[設定]をクリックし、イベント取得フィルター(互換用)を使用している場合に表示されます。

[イベント取得条件設定]画面(互換用)では、イベントサービスからイベントを取得するときのフィルター条件を設定します。[イベント取得条件設定]画面(互換用)を次に示します。

図 1-20 [イベント取得条件設定]画面(互換用)



表示項目を次に示します。

[JP1/SES イベント]

JP1/SES イベントを取得するかどうかを指定します。JP1/SES イベントを取得する場合は、[取得する]をチェックします。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[重大度]にチェックがない場合は、重大度が定義されているすべてのイベントが対象になります。

[イベントID]

JP1 イベントの ID を指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

なお、ここで設定した各条件は、「JP1/SES イベントとイベントIDのAND条件」、または「重大度とイベントIDのAND条件」としてイベントサービスに渡されます。

12. [イベント取得条件一覧]画面

[イベント取得条件一覧]画面では、イベント取得条件を一覧表示します。また、イベント取得条件の追加・編集・複製・削除ができます。

この画面は、[システム環境設定]画面で[一覧編集]をクリックすると表示されます。

注意事項

[イベント取得条件一覧]画面で設定した内容は、[イベント取得条件一覧]画面で[OK]をクリックしたあと、[システム環境設定]画面で[適用]をクリックすることによって保存されます。

[システム環境設定]画面で[適用]をクリックしなかった場合は、設定が無効となりますので、注意してください。

[イベント取得条件一覧]画面で[OK]をクリックすると、[イベント取得条件一覧]画面が閉じられ、[システム環境設定]画面に戻ります。

[イベント取得条件一覧]画面を次に示します。

図 1-21 [イベント取得条件一覧]画面



表示項目を次に示します。

[適用中のフィルター]

現在、適用しているイベント取得フィルターのフィルターIDとフィルター名が表示されます。

[フィルター一覧]

現在、設定されているイベント取得条件が一覧表示されます。

一つの項目を選択し、ダブルクリックすると[イベント取得条件設定]画面が表示され、選択した項目を編集できます。項目は、複数選択できません。

フィルター一覧に登録できるイベント取得条件は、最大 50 件です。

フィルター一覧の[適用]、[ID]、[フィルター]の項目名で、ソート表示できます。項目名をクリックすると、項目名の横に「△」が表示されます。さらにクリックを繰り返すと、「▽」、「」（表示なし）、「△」の順で表示が変更されます。「△」または「▽」が表示されている状態で、ほかの項目名をクリックすると、前のソートは解除され、新しくクリックした項目のソート順で表示されます。

- 「」（表示なし）の場合、イベント取得フィルターは登録順に表示されます。
- 「△」の場合、イベント取得フィルターは、項目名の昇順に表示されます。

- 「▽」の場合、イベント取得フィルターは、項目名の降順に表示されます。

[適用]

選択したイベント取得フィルターが適用中のフィルターとなります。

[ID]

イベント取得フィルターのフィルターIDが表示されます。フィルターIDは、[イベント取得条件設定]画面で変更できます。

[フィルター名]

イベント取得フィルターのフィルター名が表示されます。フィルター名は、[イベント取得条件設定]画面で変更できます。

[追加]

新規にイベント取得フィルターを追加する場合は、[追加]をクリックします。[追加]をクリックすると、[イベント取得条件設定]画面が表示され、新規のイベント取得フィルターを設定できます。イベント取得フィルターは、最大50件まで追加できます。イベント取得フィルターが50件まで登録されると、[追加]は非活性になります。

[編集]

選択しているイベント取得フィルターを編集する場合は、[編集]をクリックします。一つのフィルターを選択し、[編集]をクリックすると、[イベント取得条件設定]画面が表示され、選択したフィルターを編集できます。

[複製]

選択しているイベント取得フィルターを複製する場合は、[複製]をクリックします。一つのイベント取得フィルターを選択し、[複製]をクリックすると、選択しているイベント取得フィルターと同じ条件を持ったイベント取得フィルターが複製され、[フィルター一覧]に追加されます。

複製されたイベント取得フィルターのフィルターIDは、イベント取得フィルター一覧の中で、未使用のフィルターIDが数値の小さい順に自動的に割り振られます。

複製されたイベント取得フィルターのフィルター名は、複製元のフィルター名の先頭に「コピー」の文字列が追加され、「コピー **複製元のフィルター名**」となります。すでに、複製したあとにできるフィルター名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「コピー **半角数字 複製元のフィルター名**」となります。半角数字は2から始まり、イベント取得フィルター名が複製されるたびに2, 3, 4と昇順に増えていきます。

[複製]をクリックした場合、新しく複製されたフィルターが、適用フィルターとして選択状態になります。

イベント取得フィルターが50件まで登録されると、[複製]は非活性になります。

[削除]

選択しているイベント取得フィルターを削除する場合は、[削除]をクリックします。

[削除]をクリックすると、「KAVB0250-I このフィルターを削除してよろしいですか？」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、[フィルター一覧]から選択したイベント取得フィルターが削除されます。

13. [ユーザー環境設定]画面

[ユーザー環境設定]画面では、[イベントコンソール]画面のイベント一覧の表示を自動的に更新するかどうか、およびイベント一覧に表示する項目を設定します。

この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション]－[ユーザー環境設定]を選択すると表示されます。[ユーザー環境設定]画面を次に示します。

図 1-22 [ユーザー環境設定]画面



表示項目を次に示します。

[表示内容の自動更新]

[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページと[重要イベント]ページの表示内容を自動的に更新するかどうかを指定します。

自動更新をする場合は、[する]を選択し、[更新間隔]を入力します。

[更新間隔]に指定できる範囲は、1～10,000 秒です。デフォルトは 5 秒です。

自動更新をしない場合は、[しない]を選択します。

[スクロールバッファ]

[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページと[重要イベント]ページ、および「イベント検索」ページに表示するイベント件数の最大値を指定します。

この値を小さくすると、一部の JP1 イベントが表示されないことがありますので、注意してください。

指定できる範囲は、10～2,000 件です。デフォルトは 500 件です。

WWW ページ版の JP1/IM - View の場合は、10～1,000 件です。デフォルトは、100 件です。

[更新時のイベント取得件数]よりも大きい値を指定してください。

この値を現在の値より大きくすると、設定した値は、画面の自動更新や[最新情報に更新]で、次に画面が更新されたときから有効になります。

[更新時のイベント取得件数]

[イベントコンソール]画面の表示内容を更新するときに、1 回の通信でイベントコンソールサービスから取得するイベントの件数を指定します。更新されるタイミングは、この画面の[表示内容の自動更新]で指定した秒数が経過したとき、または[イベントコンソール]画面のメニューで[表示] - [最新情報に更新]を選択したときにです。

なお、自動更新を設定した場合、更新はイベントコンソールサービスのイベントバッファ上にて未取得の JP1 イベントがなくなるまで繰り返して実行されます。

指定できる値は、1～200 件、デフォルトは、20 件です。

[スクロールバッファ]よりも小さい値を指定してください。

[検索時のイベント取得件数]

イベント検索実行時に 1 回のイベント検索で取得するイベントの件数を指定します。

指定できる値は、1～2,000 件、デフォルトは、20 件です。

WWW ページ版の JP1/IM - View の場合は、1～1,000 件、デフォルトは 20 件です。

[スクロールバッファ]よりも小さい値を指定してください。

[表示項目]

[イベントコンソール]画面のイベント一覧に表示する項目を指定します。

イベント一覧に表示される項目は[表示項目]に、イベント一覧に表示されない項目は[表示できる項目]ボックスに入っています。表示するかどうかの設定を切り替えるには、項目を選択して、[→]または[←]をクリックします。

[表示項目]ボックス内の項目の表示順序は、イベント一覧での表示順序を表します。表示順序を変更したい場合は、項目を選択して、[上へ移動]または[下へ移動]をクリックして、項目名を移動させます。

この画面で表示を設定できる項目は、次のとおりです。

- 重大度、登録時刻、登録ホスト名、ユーザー名、メッセージ、オブジェクトタイプ、イベント ID、開始時刻、終了時刻、プロダクト名、オブジェクト名、登録名タイプ、登録名、到着時刻、アクション、事象種別、イベント DB 内通し番号、発行元プロセス ID、発行元ユーザー ID、発行元グループ ID、発行元ユーザー名、発行元グループ名、発行元イベント DB 内通し番号、種別、およびアクション種別

なお、[イベントコンソール]画面および[関連イベント一覧]画面では、この画面での設定にかかわらず、イベントの対処状況がイベント一覧の先頭の項目になります。

また、繰り返しイベントの集約表示機能が有効になっている場合は、「集約状態」が「対処状況」の次に表示されます。集約表示機能を有効から無効に変更しても、再ログインするまで「集約状態」は表示されたままになります。

[表示列の幅]

[イベントコンソール]画面の各ページのイベント一覧に表示される項目の列幅の大きさを JP1/IM - View のログアウト時に保存するかどうかを指定します。

イベント一覧に表示される項目の列幅は、マウスでドラッグすることによって任意の幅に変更できます。一つのページ(例:[イベント監視]ページ)で列幅を変更すると、ほかの二つのページ(例:[重要イベント]ページおよび[イベント検索]ページ)の列幅も変更されます。ログアウト時

にそのときの列幅の大きさを保存する場合は、[画面を閉じた時の状態を保存する]をチェックします。

[カラーリング]

[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページおよび[イベント検索]ページに表示される特定のイベントに、背景色を付けるかどうかを指定します。背景色が付く対象となるイベントは、重大度が「緊急」、「警戒」、「致命的」、「エラー」および「警告」のイベントです。

背景色を付ける場合は、[有効]をチェックします。

背景色については、「[1.3 \[イベントコンソール\]画面](#)」を参照してください。

[集約表示]

繰り返しイベントの集約表示をするかどうかを設定します。

[ユーザー環境設定]画面の[OK]ボタンをクリックすると、集約中のイベントは集約完了します。

[有効]

繰り返しイベントを集約する場合に、[有効]チェックボックスをチェックします。繰り返しイベントの集約表示は、[ユーザー環境設定]画面での設定が反映されたあと受信したイベントから適用されます。設定が反映される前に受信したイベントは、繰り返しイベントの集約表示の対象とはなりませんので注意してください。

デフォルトは、チェックが付いていない状態です。

[タイムアウト時間]

繰り返しイベントを集約する場合のタイムアウト時間を指定します。指定できる値は 1～3,600 秒、デフォルトは 60 秒です。

集約開始イベントと受信イベントの到着時刻の差がタイムアウト時間を過ぎた場合、イベントの集約が完了します。

[実行結果表示行数]

[コマンド実行]画面に表示する実行結果の行数を指定します。

指定できる値は 100～10,000 行、デフォルトは 100 行です。

WWW ページ版の JP1/IM - View の場合、この項目は非活性です。

また、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限がない場合、この項目は非活性です。

14. [イベント検索条件設定]画面

[イベント検索条件設定]画面では、JP1 イベントを検索するときの検索条件を設定します。イベントを検索した結果は、[イベントコンソール]画面の[イベント検索]ページに表示されます。この画面は、[イベントコンソール]画面で[表示]－[イベント検索]を選択すると、表示されます。この画面を2回目以降に表示したときは、前回の検索条件がデフォルトで表示されます。

この画面で検索条件を設定したあと、[OK]ボタンをクリックすると、設定した条件がフィルター条件文に変換され、検索が実行されます。なお、フィルター条件文の最大長は64キロバイトです(検索対象ホストのイベントサービスのバージョンが06-00以前の場合、フィルター条件文の最大長は4キロバイトです)。最大長を超えていた場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ(KAVB0246-Eのメッセージ)が表示されます。この場合は、設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

なお、この画面で設定する条件群の中に、条件を何も設定していない([条件一覧]以下の項目を設定していない)条件群がある場合、すべてのJP1 イベントを表示(取得)対象とします。フィルターをかけた場合は、設定した条件群それぞれに対し、必ず一つ以上の条件を設定してください。

(備考)

- 検索対象ホストにあるJP1/Baseのイベントサービスのバージョンが06-51以前の場合、検索条件に次の条件を指定した検索はできません。

- [正規表現]を指定した検索

また、検索対象ホストにあるJP1/Baseのイベントサービスのバージョンが06-00以前の場合、上記制限に加え次の条件を指定した検索はできません。

- [を含む][を含まない]を指定した検索
- [重要イベント]に複数の対処状況を同時に指定した検索

[イベント検索条件設定]画面を次に示します。

図 1-23 [イベント検索条件設定]画面

表示項目を次に示します。

[検索ホスト名]

JP1 イベントを検索するホスト名 (検索対象とするイベントサーバ名) を指定します。
デフォルトでは、接続しているホスト名が指定されます。

[検索方向]

JP1 イベントを検索する方向を指定します。

[過去方向] を選択した場合は、イベント DB に登録された JP1 イベントの最後尾から (新しいイベントから古いイベント方向に) 検索します。

[未来方向] を選択した場合は、イベント DB に登録された JP1 イベントの先頭から (古いイベント

から新しいイベント方向に)検索します。

デフォルトでは、[過去方向]が指定されます。

[一覧表示]／[一覧非表示]

条件群一覧の表示・非表示を切り替えます。すでに条件群一覧が表示されている場合、ボタンの名称は[一覧非表示]になります。

[一覧]

条件群の一覧が表示されます。条件群を選択すると、条件群の名称は[条件群名]に、条件内容は条件一覧に表示され、編集できるようになります。

設定できる条件群の数は、最大 5 です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[追加]

新規に条件群を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、条件群が「条件群 1」、「条件群 2」...の形式で追加されます。また、条件群を追加すると、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[複製]

選択している条件群を複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している条件群と同じ条件を持った条件群が複製されます。複製された条件群名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできる条件群名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「コピー**半角数字** 複製元の条件群名」となります。半角数字は 2 から始まり、条件群名が複製されるたびに 2, 3, 4 と昇順に増えていきます。また、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[削除]

選択している条件群を削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0257-I この条件群を削除してよろしいですか?」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、条件群が削除されます。

[条件群名]

条件群の名称を指定します。

既存の条件群を選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。

既存の条件群と同じ名称を指定した場合は、「KAVB0256-E 指定した条件群名はすでに設定されています」のダイアログが表示されます。

[クリア]

条件一覧に指定されている内容をすべてクリアします。

[選択イベント条件入力]

[イベントコンソール]画面で選択している JP1 イベントの属性値を条件一覧に入力します。[選択イベント条件入力]をクリックしたときの動作は次のようになります。

- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれる場合
制御文字の直前の文字までが、条件一覧の条件値として反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は、[から始まる]が選択されます。
- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれない場合
イベント属性値がすべて反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は[と一致する]が選択されます。

なお、選択している JP1 イベントの情報がイベント情報マッピング定義でマッピングされている場

合は、マッピングしている表示項目の属性値および固有の拡張属性値は、条件一覧に入力されません。イベント情報マッピング定義の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 20.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する」を参照してください。

[登録ホスト名]

JP1 イベントが発生したホストのホスト名(イベントサーバ名)を指定します。

複数のホストを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のホスト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけを設定できます。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけを設定できます。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントのユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー

名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけを設定できます。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択できますが、[から始まる]または[を含む]を選択することを推奨します。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

[開始時刻]

開始時刻に対して、検索対象とする範囲を指定します。開始時刻の範囲を指定するには、基準時刻と期間を指定するか、基準時刻と範囲終了の日時を指定します。

基準時刻と期間を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[期間指定]を選択し、基準時刻の前または後の何分間(何時間, 何日間)を対象とするかを指定します。

基準時刻と範囲終了の日時を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[日時指定]を選択し、検索対象範囲の終了日時を指定します。

基準時刻に現在の時刻を指定する場合は、[現在時刻]をクリックします。

[終了時刻]

終了時刻に対して、検索対象とする範囲を指定します。終了時刻の範囲を指定するには、基準時刻と期間を指定するか、基準時刻と範囲終了の日時を指定します。

基準時刻と期間を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[期間指定]を選択し、基準時刻の前または後の何分間(何時間, 何日間)を対象とするかを指定します。

基準時刻と範囲終了の日時を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[日時指定]を選択し、検索対象範囲の終了日時を指定します。

基準時刻に現在の時刻を指定する場合は、[現在時刻]をクリックします。

[登録時刻]

JP1 イベントが発行元ホストのイベント DB に登録された時刻に対して、検索対象とする範囲を指定します。登録時刻の範囲を指定するには、基準時刻と期間を指定するか、基準時刻と範囲終了の日時を指定します。

基準時刻と期間を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[期間指定]を選択し、基準時刻の前または後の何分間(何時間, 何日間)を対象とするかを指定します。

基準時刻と範囲終了の日時を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[日時指定]を選択

し、検索対象範囲の終了日時を指定します。

基準時刻に現在の時刻を指定する場合は、[現在時刻]をクリックします。

[到着時刻]

JP1 イベントが検索ホストに到着した時刻に対して、検索対象とする範囲を指定します。到着時刻の範囲を指定するには、基準時刻と期間を指定するか、基準時刻と範囲終了の日時を指定します。

基準時刻と期間を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[期間指定]を選択し、基準時刻の前または後の何分間(何時間, 何日間)を対象とするかを指定します。

基準時刻と範囲終了の日時を指定する場合は、基準時刻を入力してから、[日時指定]を選択し、検索対象範囲の終了日時を指定します。

基準時刻に現在の時刻を指定する場合は、[現在時刻]をクリックします。

[重要イベント]

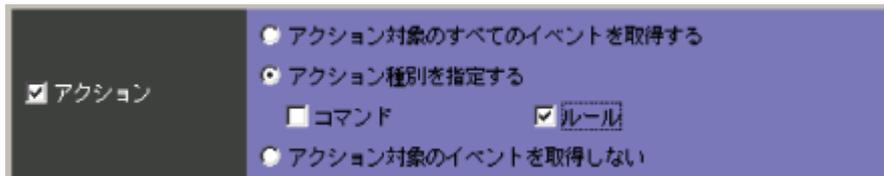
重要イベントの対処状況を条件として指定します。複数の対処状況を指定できます。

[未対処]を選択した場合は、重要イベント以外の JP1 イベントも検索対象になります。

[アクション]

自動アクションが定義されている JP1 イベントの場合に、自動アクションが実行されたかどうかを条件とします。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、次のように、[アクション]の選択項目が追加された状態で表示されます。



JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、アクションの種別を検索条件に指定できます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

[固有の拡張属性]

固有の拡張属性を条件として指定する場合に、[設定]をクリックします。[固有の拡張属性条件設定]画面が表示されます。

15. [固有の拡張属性条件設定]画面

[固有の拡張属性条件設定]画面では、イベント検索の条件としてJP1 イベントの拡張属性の固有情報を設定します。

この画面は、[イベント検索条件設定]画面で、[固有の拡張属性]の[設定]をクリックすると表示されます。[固有の拡張属性条件設定]画面を次に示します。

図 1-24 [固有の拡張属性条件設定]画面



表示項目を次に示します。

[拡張属性条件一覧]

すでに設定されている固有の拡張属性条件の一覧が表示されます。一覧には、属性名、属性値、および条件が表示されます。

1行に一つの固有の拡張属性条件が表示されます。五つまでの条件を設定できます。

一つの固有の拡張属性条件をダブルクリックすると、[固有の拡張属性条件詳細設定]画面が表示されます。

[追加]

新規に固有の拡張属性条件を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、[固有の拡張属性条件詳細設定]画面が表示されます。

[編集]

既存の固有の拡張属性条件を編集する場合は、編集したい条件を[拡張属性条件一覧]で選択し、[編集]をクリックします。クリックすると、[固有の拡張属性条件詳細設定]画面が表示されます。

[削除]

既存の固有の拡張属性条件を削除する場合は、削除したい条件を[拡張属性条件一覧]で選択し、[削除]をクリックします。

1.3.16 [固有の拡張属性条件詳細設定]画面

[固有の拡張属性条件詳細設定]画面では、イベント検索の条件として固有の拡張属性を設定する場合の条件を設定します。

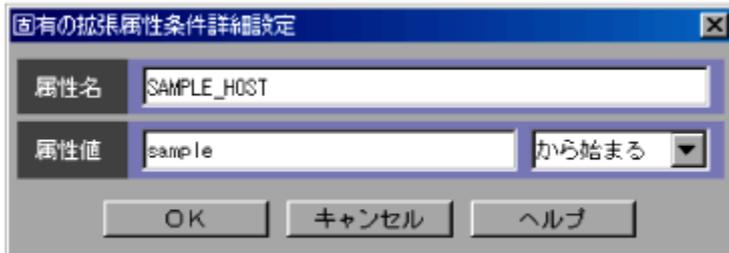
[固有の拡張属性条件詳細設定]画面では、一つの固有の拡張属性条件を設定できます。

一つの固有の拡張属性条件には、一つの固有の拡張属性名と一つの属性値を設定できます。

この画面は、[固有の拡張属性条件設定]画面で、[追加]または[編集]をクリックするか、[拡張属性条件一覧]から固有の拡張属性条件を選択してダブルクリックすると表示されます。

[固有の拡張属性条件詳細設定]画面を次に示します。

図 1-25 [固有の拡張属性条件詳細設定]画面



表示項目を次に示します。

[属性名]

固有の拡張属性の名称を指定します。

属性名は、先頭が英大文字で、英大文字、数字、およびアンダーバー(_)から構成される 32 バイトまでの名称を指定できます。

一つの属性には、一つの条件だけ設定できます。

[属性値]

属性値を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

16. [表示フィルター設定]画面

[表示フィルター設定]画面は、表示フィルターを適用したときに表示するイベントの種類を設定します。この画面で設定した内容は、[イベントコンソール]画面の[表示]－[表示フィルターの適用]を選択、または[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページの[表示フィルター]チェックボックスをチェックすることで有効になります。

この画面は次の操作で表示されます。

- [イベントコンソール]画面で[表示]－[表示フィルター編集]を選択する。
- [イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページで[表示フィルター編集]をクリックする。
- [表示フィルター一覧]画面で[追加]をクリックする。
- [表示フィルター一覧]画面で表示フィルターを選択し、[編集]をクリックする。

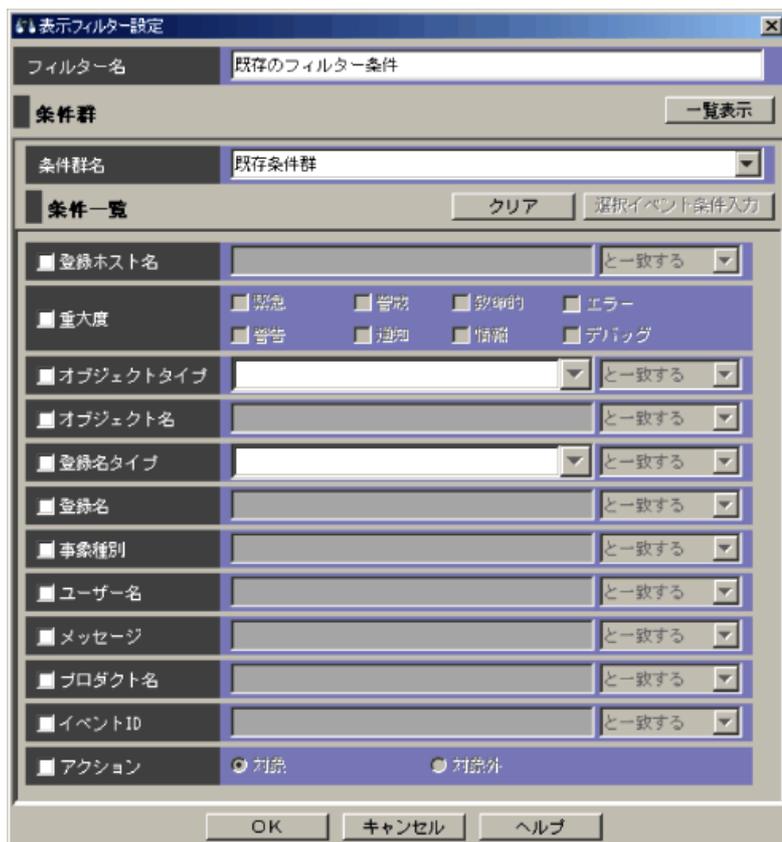
[表示フィルター一覧]画面を経由せずにこの画面を表示し、フィルター条件を設定後[OK]ボタンをクリックすると、設定した内容がフィルター条件文に変換され、設定が有効になります*。フィルター条件文の最大長は各JP1ユーザーにつき1メガバイトです(表示フィルターを複数設定していた場合はその合計値)。最大長を超えていた場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ(KAVB0246-Eのメッセージ)が表示されます。この場合は、設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

注※ [表示フィルター一覧]画面を経由した場合は、[表示フィルター一覧]画面で[OK]ボタンをクリックしたときに設定が有効になります。

なお、この画面で設定する条件群の中に、条件を何も設定していない([条件一覧]以下の項目を設定していない)条件群がある場合、すべてのJP1イベントを表示(取得)対象とします。フィルターをかけた場合は、設定した条件群それぞれに対し、必ず一つ以上の条件を設定してください。

[表示フィルター設定]画面を次に示します。

図 1-26 [表示フィルター設定]画面



表示項目を次に示します。

[フィルター名]

表示フィルターの名称を指定します。指定できる文字数は、1～50 バイトです。

既存の表示フィルターを選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。既存の表示フィルター名を指定した場合は、「KAVB0259-E 指定したフィルター名はすでに存在します」のダイアログが表示されます。

[一覧表示]／[一覧非表示]

条件群一覧の表示・非表示を切り替えます。すでに条件群一覧が表示されている場合、ボタンの名称は[一覧非表示]になります。

[一覧]

条件群の一覧が表示されます。条件群を選択すると、条件群の名称は[条件群名]に、条件内容は条件一覧に表示され、編集できるようになります。

設定できる条件群の数は、最大 5 です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[追加]

新規に条件群を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、条件群が「条件群 1」、「条件群 2」...の形式で追加されます。また、条件群を追加すると、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[複製]

選択している条件群を複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している条件群と同じ条件を持った条件群が複製されます。複製された条件群名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできる条件群名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「**コピー半角数字複製元の条件群名**」となります。半角数字は 2 から始まり、条件群名が複製されるたび

に 2, 3, 4 と昇順に増えていきます。また、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[削除]

選択している条件群を削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0257-I この条件群を削除してよろしいですか?」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、条件群が削除されます。

[条件群名]

条件群の名称を指定します。

既存の条件群を選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。

既存の条件群と同じ名称を指定した場合は、「KAVB0256-E 指定した条件群名はすでに設定されています」のダイアログが表示されます。

[クリア]

条件一覧に指定されている内容をすべてクリアします。

[選択イベント条件入力]

[イベントコンソール]画面で選択している JP1 イベントの属性値を条件一覧に入力します。[選択イベント条件入力]をクリックしたときの動作は次のようになります。

- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれる場合
制御文字の直前の文字までが、条件一覧の条件値として反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は、[から始まる]が選択されます。
- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれない場合
イベント属性値がすべて反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は[と一致する]が選択されます。

なお、選択している JP1 イベントの情報がイベント情報マッピング定義でマッピングされている場合は、マッピングしている表示項目の属性値および固有の拡張属性値は、条件一覧に入力されません。イベント情報マッピング定義の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 20.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する」を参照してください。

[登録ホスト名]

JP1 イベントが発生したホストのホスト名(イベントサーバ名)を指定します。

複数のホストを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のホスト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントを発行したユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択できますが、[から始まる]または[を含む]を選択することを推奨します。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

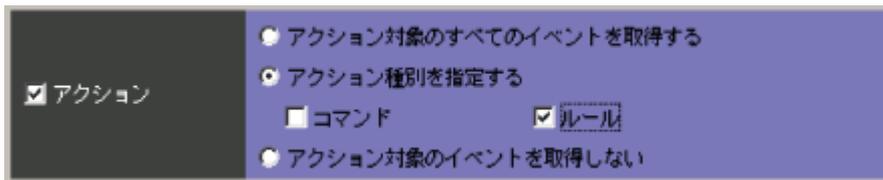
右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

[アクション]

自動アクションが定義されている JP1 イベントの場合に、自動アクションが実行されたかどうかを

条件とします。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、次のように、[アクション]の選択項目が追加された状態で表示されます。



JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、アクションの種別をフィルター条件に指定できます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

17. [表示フィルター一覧]画面

[表示フィルター一覧]画面では、表示フィルターの一覧を表示します。ここで設定した内容が[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページの[フィルター名]リストボックスに表示されます。

この画面は、[イベントコンソール]画面で[表示]－[表示フィルター一覧]を選択すると表示されます。

[表示フィルター設定]画面でフィルター条件を設定したあと、[表示フィルター一覧]画面で[OK]ボタンをクリックすると、設定した内容がフィルター条件文に変換され、設定が有効になります。なお、フィルター条件文の最大長は各JP1ユーザーにつき1メガバイトです(表示フィルターを複数設定していた場合はその合計値)。最大長を超えていた場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ(KAVB0246-Eのメッセージ)が表示されます。この場合は、[表示フィルター設定]画面で設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

[表示フィルター一覧]画面を次に示します。

図 1-27 [表示フィルター一覧]画面



表示項目を次に示します。

[表示フィルター一覧]

表示フィルターの一覧を表示します。

設定できる表示フィルターの数は、各JP1ユーザーにつき最大50です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[上へ移動]

一覧で選択した表示フィルターを、1行上へ移動します。頻繁に使用する表示フィルターを最上行に指定しておくこと[イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページの[フィルター名]リストボックスが操作しやすくなります。

[下へ移動]

一覧で選択した表示フィルターを、1行下へ移動します。

[追加]

新規にフィルターを追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、[表示フィルター設定]画面が表示されます。

[編集]

既存の表示フィルターを編集する場合は、編集したい表示フィルターを一覧で選択し、[編集]をクリックします。クリックすると、[表示フィルター設定]画面が表示されます。

[複製]

選択している表示フィルターを複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している表示フィルターと同じ条件を持った表示フィルターが複製されます。複製された表示フィルター名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできるフィルター名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「**コピー半角数字 複製元のフィルター名**」となります。半角数字は2から始まり、フィルター名が複製されるたびに2, 3, 4と昇順に増えていきます。名称を変更する場合は[編集]をクリックします。

[削除]

選択している表示フィルターを削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0503-I この行を削除してよろしいですか？」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、表示フィルターが削除されます。

18. [ユーザーフィルター設定]画面

[ユーザーフィルター設定]画面は、各ユーザーが監視できる JP1 イベントを制限するために使用します。ユーザーフィルターは、最大 128 個設定できます。

[ユーザーフィルター設定]画面を表示するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。

この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション]–[ユーザーフィルター設定]を選択すると、表示されます。WWW ページ版の JP1/IM – View では使用できません。

[ユーザーフィルター詳細設定]画面でフィルター条件を設定したあと、[ユーザーフィルター設定]画面で[適用]ボタンをクリックすると、設定した内容がフィルター条件文に変換され、設定が有効になります。なお、フィルター条件文の最大長は 1 メガバイトです(ユーザーフィルターを複数設定していた場合はその合計値)。最大長を超えていた場合は、[適用]ボタンをクリックしたときにエラーダイアログ (KAVB0246-E のメッセージ)が表示されます。この場合は、[ユーザーフィルター詳細設定]画面で設定した内容を見直してください。フィルター条件文の長さは、リリースノートを参照して見積もってください。

[ユーザーフィルター設定]画面を次に示します。

図 1-28 [ユーザーフィルター設定]画面



表示項目を次に示します。

[設定一覧]

すでに設定されているユーザーフィルターの一覧を表示します。一覧には、フィルター名と対象ユーザー名が表示されます。

設定できるユーザーフィルターの数は、システム(一つの JP1/IM – Manager)につき最大 128 です(最大数設定すると、[追加]が非活性になります)。

[追加]

新規にユーザーフィルターを作成する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、[ユーザーフィルター詳細設定]画面が表示されます。

[編集]

既存のユーザーフィルターを編集する場合は、編集したいユーザーフィルターを[設定一覧]で選択し、[編集]をクリックします。クリックすると、[ユーザーフィルター詳細設定]画面が表示

されます。

[削除]

既存のユーザーフィルターを削除する場合は、削除したいユーザーフィルターを[設定一覧]で選択し、[削除]をクリックします。

19. [ユーザーフィルター詳細設定]画面

[ユーザーフィルター詳細設定]画面は、ユーザーフィルターの条件を指定するために使用します。この画面は、[ユーザーフィルター設定]画面で[追加]または[編集]をクリックすると表示されます。なお、この画面で設定する条件群の中に、条件を何も設定していない([条件一覧]以下の項目を設定していない)条件群がある場合、すべてのJP1 イベントを表示(取得)対象とします。フィルターをかけた場合は、設定した条件群それぞれに対し、必ず一つ以上の条件を設定してください。[ユーザーフィルター詳細設定]画面を次に示します。

図 1-29 [ユーザーフィルター詳細設定]画面

表示項目を次に示します。

[フィルター名]

ユーザーフィルターの名称を指定します。設定した条件を識別するために、任意の名称を付けます。

ここで指定した名称は、[ユーザーフィルター設定]画面の[設定一覧]に表示されます。

[対象ユーザー名]

ユーザーフィルターによる制限の対象となるユーザー名を指定します。複数のユーザーを指定する場合は、ユーザー名をコンマで区切って指定します。

[一覧表示]／[一覧非表示]

条件群一覧の表示・非表示を切り替えます。すでに条件群一覧が表示されている場合、ボタンの名称は[一覧非表示]になります。

[一覧]

条件群の一覧が表示されます。条件群を選択すると、条件群の名称は[条件群名]に、条件内容は条件一覧に表示され、編集できるようになります。

設定できる条件群の数は、最大 30 です(最大数設定すると、[追加]、[複製]が非活性になります)。

[追加]

新規に条件群を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、条件群が「条件群 1」、

「条件群 2」...の形式で追加されます。また、条件群を追加すると、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[複製]

選択している条件群を複製する場合は、[複製]をクリックします。クリックすると、選択している条件群と同じ条件を持った条件群が複製されます。複製された条件群名の先頭に「コピー」が付加され、一覧に追加されます。すでに、複製したあとにできる条件群名が登録されている場合には、「コピー」の後ろに半角数字を付加し、「コピー半角数字 複製元の条件群名」となります。半角数字は 2 から始まり、条件群名が複製されるたびに 2, 3, 4 と昇順に増えていきます。また、フォーカスが[条件群名]に移り、名称を指定できるようになります。

[削除]

選択している条件群を削除する場合は、[削除]をクリックします。クリックすると、「KAVB0257-I この条件群を削除してよろしいですか？」のダイアログが表示され、[はい]をクリックすると、条件群が削除されます。

[条件群名]

条件群の名称を指定します。

既存の条件群を選択した状態で名称を変更した場合は、新しく指定した名称で上書きされます。

既存の条件群と同じ名称を指定した場合は、「KAVB0256-E 指定した条件群名はすでに設定されています」のダイアログが表示されます。

[クリア]

条件一覧に指定されている内容をすべてクリアします。

[選択イベント条件入力]

[イベントコンソール]画面で選択している JP1 イベントの属性値を条件一覧に入力します。[選択イベント条件入力]をクリックしたときの動作は次のようになります。

- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれる場合
制御文字の直前の文字までが、条件一覧の条件値として反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は、[から始まる]が選択されます。
- イベント属性値に改行やタブなどの制御文字が含まれない場合
イベント属性値がすべて反映されます。オプション条件を指定できる属性の場合は[と一致する]が選択されます。

なお、選択している JP1 イベントの情報がイベント情報マッピング定義でマッピングされている場合は、マッピングしている表示項目の属性値および固有の拡張属性値は、条件一覧に入力されません。イベント情報マッピング定義の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 20.1.3 JP1 イベントの固有の拡張属性を表示する」を参照してください。

[登録ホスト名]

JP1 イベントが発生したホストのホスト名(イベントサーバ名)を指定します。

複数のホストを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のホスト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[重大度]

イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントのユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択できますが、[から始まる]または[を含む]を選択することを推奨します。正規表現で指定する場合は、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない]のどちらかを選択します。

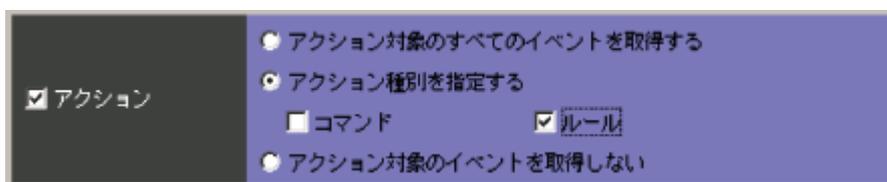
[重要イベント]

重要イベントの対処状況を指定します。[対処済]を指定した場合、対処状況を対処済みにしたイベントがフィルターの対象となります。[未対処]を選択した場合は、対処状況を未対処にしたイベントがフィルター対象になります。

[アクション]

自動アクションが定義されている JP1 イベントの場合に、自動アクションが実行されたかどうかを条件とします。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、次のように、[アクション]の選択項目が追加された状態で表示されます。



JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合は、アクションの種別をフィルター条件に指定できます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

20. [アクション設定]画面

[アクション設定]画面は、自動アクションの設定一覧を表示します。自動アクションを設定するには、この画面から[アクション詳細設定]画面を呼び出します。

[アクション設定]画面を表示するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。

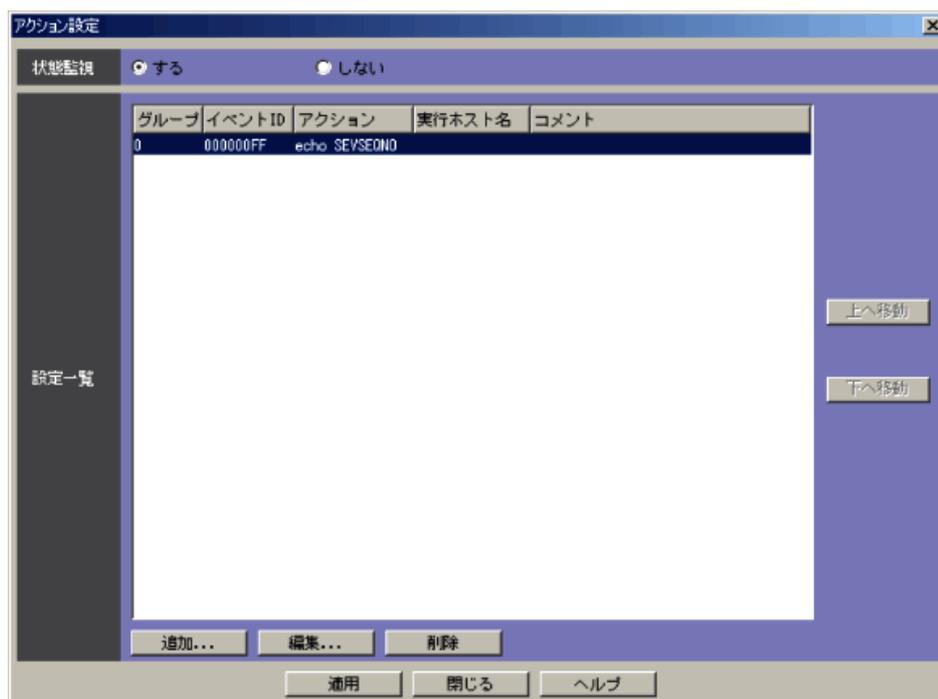
また、次の場合、[アクション設定]画面が表示されません。

- 自動アクション定義ファイルの自動アクション定義ファイルバージョンが、1 または 2 でない。
- 自動アクション定義ファイルの自動アクション定義パラメーターのサイズが最大長を超過している。
- JP1/IM - Rule Operation 連携機能が無効になっている状態で、自動アクション定義ファイルに JP1/IM - Rule Operation へのルール起動要求を定義している。

自動アクション定義ファイルの記述内容によって[アクション設定]画面が表示されない場合、テキストエディターで自動アクション定義ファイルを編集してください。「自動アクション定義パラメーター」の詳細については、「自動アクション定義ファイル(actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[説明](#)」を参照してください。

この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション] - [自動アクション設定]を選択すると表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。[アクション設定]画面を次に示します。

図 1-30 [アクション設定]画面



また、JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合は、次のように、[アクション設定]画面の設定一覧に[種別]が追加された状態で表示されます。

図 1-31 [アクション設定]画面(JP1/IM – Rule Operation 連携機能が有効の場合)



表示項目を次に示します。

[状態監視]

アクションの状態の監視するかどうかを設定します。

- [する]:アクションの状態を監視します。
- [しない]:アクションの状態を監視しません。

デフォルトは[しない]です。

アクションの状態を監視する場合、アクションが異常状態(「実行不可」,「実行失敗」)になったときに、異常状態を通知するために、JP1 イベントの発行または通知コマンドの実行が実施されます。なお、通知方法は、自動アクション通知定義ファイル(actnotice.conf)であらかじめ設定しておく必要があります。自動アクション通知定義ファイル(actnotice.conf)については、「[自動アクション通知定義ファイル\(actnotice.conf\)](#)」(3. 定義ファイル)を参照してください。

アクションの状態は、[アクション結果]画面、[アクション結果一覧]画面、[アクション結果詳細]画面で確認できます。また、アクションが異常状態であるかどうかを、[イベントコンソール]画面で確認できます。

アクションの状態監視は、設定後に監視条件に一致したアクションに対して有効になります。それ以前のアクションに対しては、変更前の設定に従います。

[設定一覧]

すでに設定されている自動アクション定義の一覧を表示します。上に表示されている自動アクション定義ほど、優先順位が高くなります。

自動アクションは、1,000 件まで登録できます。

[設定一覧]の[種別]の列は、JP1/IM – Rule Operation 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。

JP1/IM – Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM – Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM – Rule Operation 連携機能の有効設定」

[上へ移動]

一覧で選択した自動アクション定義を、1行上へ移動します。自動アクション定義の優先順位を変更するために使用します。

[下へ移動]

一覧で選択した自動アクション定義を、1行下へ移動します。自動アクション定義の優先順位を変更するために使用します。

[追加]

新規に自動アクション定義を作成する場合に、[追加]をクリックします。クリックすると、[アクション詳細設定]画面が表示されます。

なお、自動アクションが 1,000 件以上定義されている場合は、このボタンは非活性です。

[編集]

既存の自動アクション定義を編集する場合に、編集したい自動アクション定義を[設定一覧]で選択し、[編集]をクリックします。

[削除]

既存の自動アクション定義を削除する場合に、削除したい自動アクション定義を[設定一覧]で選択し、[削除]をクリックします。

[適用]

設定内容を反映します。ただし、[適用]をクリックすると、すべての抑止の設定が初期化されます。

21. [アクション詳細設定]画面

[アクション詳細設定]画面は、自動アクションの実行条件および実行内容を設定するために使用します。この画面は、[アクション設定]画面で[追加]または[編集]をクリックすると表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。

なお、[アクション詳細設定]画面で設定した内容は、[アクション設定]画面で[適用]ボタンをクリックすることによって有効になります(自動アクション定義ファイルの「自動アクション定義パラメーター」に変換されます)。その際に、作成された「自動アクション定義パラメーター」の長さが最大値*を超えていた場合は、エラーダイアログ (KAVB5060-W, KAVB5068-W, または KAVB5069-W のメッセージ) が表示されます。この場合は、[アクション詳細設定]画面で設定した内容を見直してください。

注※

一つの「自動アクション定義パラメーター」で設定できる長さは、接続先ホストの JP1/IM のバージョンに依存します。

- JP1/IM - Manager (08-00 以降) : 5,706 バイト
- JP1/IM - Central Console (07-11~07-51) : 1,040 バイト
- JP1/IM - Central Console (07-10 以前) : 1,023 バイト

「自動アクション定義パラメーター」の詳細については、「自動アクション定義ファイル (actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[説明](#)」を参照してください。

[アクション詳細設定]画面を次に示します。

図 1-32 [アクション詳細設定]画面

また、JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合は、次のように、[アクション詳細設定]画面の実行内容に[種別]が追加された状態で表示されます。

図 1-33 [アクション詳細設定]画面(JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合)

表示項目を次に示します。

[パラメーターグループ]

パラメーターグループを指定します。0～9 の 1 けたの数字か「&」を指定します。「&」は AND 条件を表します。

[イベント ID]

自動アクションの実行条件とするイベント ID を指定します。

[指定]を選択して、テキストボックスに ID を入力します。イベント ID の基本部と拡張部を 8 バイト以内の 16 進数で指定し、基本部と拡張部の間は「:」で区切ります。拡張部は省略できます。すべてのイベントを対象にしたい場合は、[すべて]を選択します。

[メッセージ]

自動アクションの実行条件とするメッセージテキストを正規表現で指定します。このとき、メッセージテキストの制御コード以外の部分を記述するようにしてください。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。

正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

[イベント基本情報]

自動アクションの実行条件とする JP1 イベントの基本情報を正規表現で指定します。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

[イベント詳細情報]

自動アクションの実行条件とする JP1 イベントの詳細情報を正規表現で指定します。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

[イベント拡張情報]

自動アクションの実行条件として JP1 イベントの拡張情報を指定する場合には、[有効]をチェックし、[設定]をクリックします。

[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面が表示されます。

[種別]

実行するアクションの種別を指定します。

- [コマンド]: コマンドを実行する場合に選択します。このとき、[アクション]に「<RULE>」は指定できません。
- [ルール]: JP1/IM – Rule Operation へのルール起動要求の通知条件設定をする場合に選択します。[ルール]を選択した場合、[アクション]には固定で「<RULE>」が指定されます。[実行ユーザー名]、[実行ホスト名]、および[環境変数ファイル]は非活性になり、編集できません。

この項目は、JP1/IM – Rule Operation 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。

JP1/IM – Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM – Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1) JP1/IM – Rule Operation 連携機能の有効設定」

[実行ユーザー名]

アクションを実行する JP1 ユーザー名を 31 バイト以内で指定します。空白を含む名称は指定できません。

また、受信した JP1 イベントの属性情報を、変数を使って指定することもできます。例えば、イベントを発行したユーザーの名前でアクションを実行したい場合は、「\$EVUSR」と指定します。指定できる変数の詳細は「自動アクション定義ファイル(actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[アクション定義で使用できる変数](#)」を参照してください。

[実行ホスト名]

アクションを実行するホスト名を 255 バイト以内で指定します。空白を含む名称は指定できません。実行ホスト名にはシステム構成の定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。ホスト名には、ホストグループ名も指定できます。ホストグループ定義ファイル中に定義したホストグループ名を指定してください。

また、受信した JP1 イベントの属性情報を、変数を使って指定できます。例えば、イベント発行元のホストでアクションを実行したい場合は、「\$EVHOST」と指定します。指定できる変数の詳細は「自動アクション定義ファイル(actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[アクション定義で使用できる変数](#)」を参照してください。

[アクション]

アクションとして実行するコマンドを指定します。受信した JP1 イベントの属性情報などをコマンドのパラメーターとして渡すことができます。

指定できる変数の詳細は「自動アクション定義ファイル(actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[アクション定義で使用できる変数](#)」を参照してください。

なお、「¥」で終わるアクションは指定できません。

指定できるコマンドの種類を次に示します。

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル(.com, .exe)
- バッチファイル(.bat)
- JP1/Script のスクリプトファイル(.spt) (ただし.spt ファイルが実行可能なよう関連づけが設定されていること)

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- UNIX のコマンド
- シェルスクリプト

ただし、次のようなコマンドは実行できません。

- 対話操作を必要とするコマンド
- 画面を表示するコマンド
- エスケープシーケンスや制御コードを伴うコマンド
- デーモンなどの、終了しないコマンド
- Windows メッセージ機構や DDE など、デスクトップとの対話が必要なコマンド (Windows の場合)
- shutdown や halt など、OS をシャットダウンするコマンド

なお、アクションとして実行できるコマンドの長さは、4,096 バイトまでです。アクション定義で使用できる変数(\$EVMSG など)の変換後の情報を含めたコマンドの長さが 4,096 バイトを超えた場合、コマンドは実行されません。アクションの状態は「実行不可」になります。[アクション結果詳細]画面の[メッセージ]欄には、「KAVB4421-W コマンドラインが長過ぎるためアクションが実行できませんでした」が表示されます。

また、アクション中に、文字として認識できないコード(ASCII コードおよび環境設定で指定した日本語文字コードの文字集合に含まれない部分)が含まれた場合、実行先ホストのシェルなどの仕様で実行されない、または実行されても結果が不正になることがあります。この場合、アクションは実行失敗にならず、終了状態になります。変数を指定している場合には、アクションの実行時に変数を置き換えるので、不正なコードが含まれるおそれがあります。変数に置き換えられる値については、JP1 イベントを発行する製品のマニュアルなどを事前に確認してください。

注意事項

アクションとして実行できるコマンドの長さは、JP1/IM, JP1/Base を運用しているシステムによって変わります。

自動アクションの実行経路上のホスト(実行元マネージャーホスト, 実行先ホスト含む)にバージョン 6, バージョン 7 の JP1/IM, JP1/Base がある場合には、コマンドの長さは、最大 1,024 バイトまでに抑える必要があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 6.4(2) 注意事項」を参照してください。

[環境変数ファイル]

コマンド実行先ホストに保存されている環境変数ファイルの名称を 255 バイト以内で、フルパスで指定します。

また、受信した JP1 イベントの属性情報を、変数を使って指定できます。指定できる変数の詳細は「自動アクション定義ファイル(actdef.conf)」(3. 定義ファイル)の「[アクション定義で使用できる変数](#)」を参照してください。

[抑止]

自動アクションを抑止するかどうかを設定します。

- [する]:自動アクションを抑止します。
[する]を選択した場合, [抑止時間]に何秒単位で自動アクションを抑止するかを指定します。指定できる値は1~3,600秒, デフォルトは300秒です。
- [しない]:自動アクションを抑止しません。
[しない]を選択した場合, [抑止時間]が非活性になります。

デフォルトは[しない]です。

次の条件に一致する場合は, この項目は非活性になります。

- [パラメーターグループ]に「&」を指定した場合
- [アクション]が未入力の場合

[遅延監視]

自動アクションの遅延監視をするかどうかを設定します。

- [する]:アクションの実行遅延を監視します。
[する]を選択した場合, [監視時間]に秒数を指定します。指定した時間内にアクションが完了しない場合, 遅延と判定されます。指定できる値は1~86,400秒, デフォルトは600秒です。
- [しない]:アクションの実行遅延を監視しません。

デフォルトは[しない]です。

自動アクションの遅延監視をする場合, アクションの遅延が発生したときに, 遅延を通知するために, JP1 イベントの発行または通知コマンドの実行が実施されます。なお, 通知方法は, 自動アクション通知定義ファイル(actnotice.conf)であらかじめ設定しておく必要があります。

アクションの遅延状況は, [アクション結果]画面, [アクション結果一覧]画面, [アクション結果詳細]画面で確認できます。また, アクションが遅延しているかどうかを, [イベントコンソール]画面で確認できます。

注意事項

自動アクションの遅延監視をする場合には, 適切な遅延監視時間を設定してください。

[コメント]

自動アクション定義に対するコメントを入力します。

22. [アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面

[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面は、自動アクションの実行条件にイベント拡張情報を指定する場合に使用します。この画面は、[アクション詳細設定]画面で[設定]をクリックすると表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面を次に示します。

図 1-34 [アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面



表示項目を次に示します。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[拡張属性]

JP1 イベントの重大度以外の拡張属性を指定します。この項目で指定した拡張属性の複数の条件、および[重大度]で指定した条件は、すべて AND 条件として扱われます。指定できる拡張属性の属性名および内容の詳細については、「[4.1.2 拡張属性](#)」を参照してください。

上の二つのボックスは、設定を追加するときに使います。

下の大きなボックスには、すでに設定されている条件が一覧表示されます。

条件を追加する場合は、左上のボックスに属性名を入力し、右上のボックスに属性値を正規表現で入力して、[追加]をクリックします。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

属性名は、先頭が英大文字で、英大文字、数字、およびアンダーバー(_)から構成される 32 バイトまでの名称を指定できます。英小文字が入力されると、自動的に英大文字に変換されます。

最大 100 組指定できます。

条件を削除する場合は、下のボックスで削除したい条件を選択して、[削除]をクリックします。また、下のボックスに表示されている条件の内容を編集したい場合は、[拡張属性編集]画面で編集します。[拡張属性編集]画面は、下のボックスで編集したい条件を選択してから[編集]をクリックするか、編集したい条件をダブルクリックすると表示されます。

23. [拡張属性編集]画面

[拡張属性編集]画面では、[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面に表示されている、自動アクションの実行条件としてのイベント拡張属性の内容を編集する場合に使用します。この画面は、[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面の下のボックスで編集したい条件を選択してから[編集]をクリックするか、編集したい条件をダブルクリックすると表示されます。[拡張属性編集]画面を次に示します。

図 1-35 [拡張属性編集]画面



表示項目を次に示します。

左側のボックス

[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面で選択した条件の属性名が表示されるので、必要に応じて編集します。

右側のボックス

[アクション詳細設定(イベント拡張情報)]画面で選択した条件の属性値が表示されるので、必要に応じて編集します。属性値は正規表現で入力します。正規表現で「/」を表す場合は、「¥/」と記述してください。

24. [アクション結果]画面

[アクション結果]画面は、自動アクションの実行結果の一覧を表示します。この画面は、自動アクションが設定されているイベントを[イベントコンソール]画面で選択し、[表示] - [自動アクション実行結果表示]を選択すると表示されます。

[アクション結果]画面を次に示します。

図 1-36 [アクション結果]画面



また、JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合は、次のように、[アクション結果]画面の実行結果一覧に[種別]が追加され、[ルール結果詳細]ボタンが追加された状態で表示されます。

図 1-37 [アクション結果]画面 (JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合)



表示項目を次に示します。

[イベント ID]

選択した JP1 イベントの ID が表示されます。

[実行結果一覧]

選択した JP1 イベントに設定されている自動アクションの実行結果の一覧が表示されます。複数選択したアクションに対して行える操作は[アクションキャンセル]だけです。アクションを一つ選択してダブルクリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示されます。

[更新]

[実行結果一覧]の表示内容を更新します。

選択状態にある項目のうち、アクションが再実行された項目は、[更新]をクリックすると、選択状

態が解除されます。

[抑止契機詳細]

[実行結果一覧]でアクション状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、「-RUD」が付加されている項目を選択した場合に、抑止を開始する契機となったアクションの詳細を表示します。アクション状態に「-RD」、「-RUD」、「-D」が付加される項目の内容は、次のとおりです。

- 「-RD」
jcoimdef コマンドで -r オプションに OFF 以外を指定し、自動アクションサービス起動時に抑止されたアクションについてコマンドを再実行した場合。または、アクション再実行用ファイルに出力された場合。(例:「終了-RD」)
- 「-RUD」
抑止されたアクションについて、[アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面の[再実行]をクリックして、アクションが再実行された場合。(例:「終了-RUD」)
- 「-D」
抑止されたアクションでアクションの状態が「実行不可」の場合は「実行不可」の状態の後ろに「-D」が付く。(例:実行不可-D)

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[抑止契機詳細]をクリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示され、アクションの詳細を確認できます。

詳細を表示できる項目は、アクションの状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、「-RUD」が付加されている項目です。

なお、次の場合は、このボタンは非活性です。

- アクション状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、「-RUD」が付加されている項目以外の項目を選択した場合
- 複数の項目を選択した場合

[詳細]

実行結果の詳細な内容を表示します。

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[詳細]をクリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示されます。

なお、複数の項目を選択した場合は、このボタンは非活性となります。

[再実行]

[実行結果一覧]に表示されているアクションの再実行を要求します。

再実行できるアクションの状態は、「キャンセル」、「強制終了」、「実行失敗」、「抑止」、「終了」です。

このボタンを使用して再実行要求をするには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[再実行]をクリックします。再実行要求をするかどうかの確認ダイアログが表示されます。[OK]をクリックすると、選択した自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。

アクションの再実行を要求した場合は、[更新]をクリックして、アクションの状態を確認することをお勧めします。

なお、次の場合は、このボタンは非活性です。

- 「キャンセル」、「強制終了」、「実行失敗」、「抑止」、「終了」以外のアクション状態の項目を選択した場合
- 複数の項目を選択した場合

[アクションキャンセル]

アクションのキャンセルができる項目のアクションの状態は、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」です。ただし、アクション実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-00 以前である場合には、キャンセル処理が失敗します。

このボタンを使用してアクションのキャンセルを要求するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[実行結果一覧]から項目を選択して[アクションキャンセル]をクリックします。アクションのキャンセルを要求するかどうかの確認ダイアログが表示されます。

[OK]をクリックすると、選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。ただし、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」以外のアクション状態の項目に対してはキャンセル要求をしません。

アクションのキャンセルを要求した場合は、[更新]をクリックして、アクションの状態を確認することをお勧めします。

なお、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」のアクション状態の項目を選択していない場合、このボタンは非活性です。

[ルール結果詳細]

JP1/IM - Rule Operation ヘルパー起動要求を通知したルールの実行結果を参照するために、JP1/IM - Rule Operation の[ルール結果詳細]画面を起動します。

このボタンは、JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

また、次の場合、このボタンは非活性となります。

- 選択したアクションの種別が「ルール」でない場合
- 選択したアクションの終了コードが 0 でない場合
- 複数のアクションを選択した場合
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合

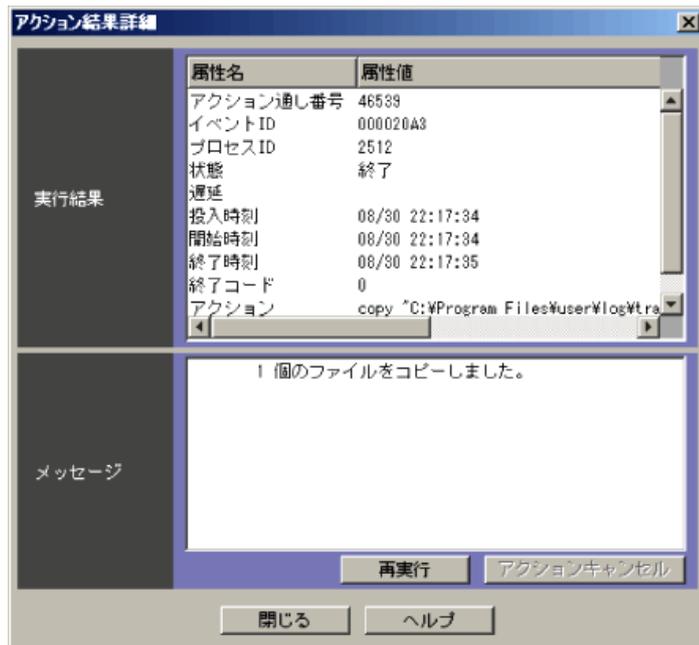
25. [アクション結果詳細]画面

[アクション結果詳細]画面は、自動アクションの実行結果の詳細な内容を表示します。

この画面は、[アクション結果]画面で、[実行結果一覧]から項目を一つ選択してから[詳細]をクリックするか、選択した項目をダブルクリックすると表示されます。または、[アクション結果一覧]画面で、[実行結果一覧]から項目を一つ選択してから[詳細]をクリックするか、選択した項目をダブルクリックすると表示されます。

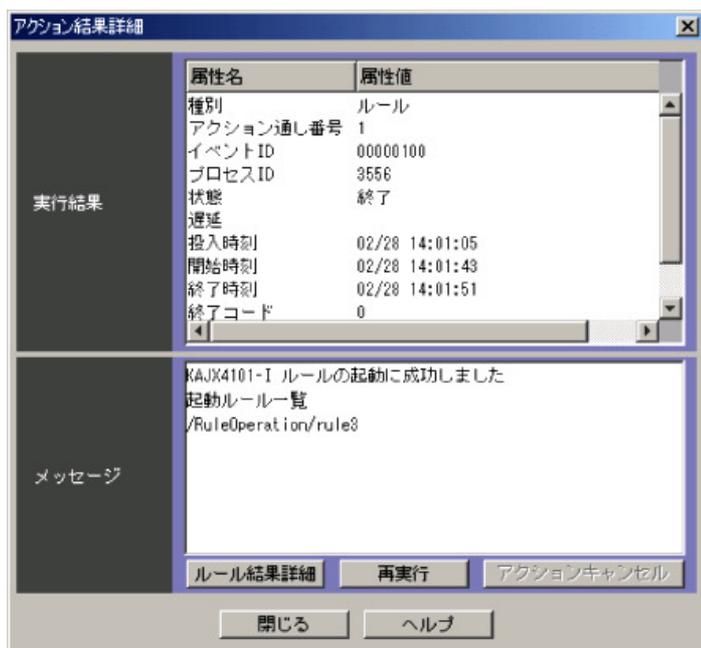
[アクション結果詳細]画面を次に示します。

図 1-38 [アクション結果詳細]画面



また、JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合は、次のように、[アクション結果詳細]画面に[ルール結果詳細]ボタンが追加された状態で表示されます。

図 1-39 [アクション結果詳細]画面(JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合)



表示項目を次に示します。

[実行結果]

自動アクションの実行結果が表示されます。表示される項目を次に示します。

表 1-10 自動アクションの実行結果詳細

項目	説明
種別	アクションの種別を示す。属性値には、コマンドを実行した場合は「コマンド」、JP1/IM - Rule Operation ヘルール起動要求を通知した場合は「ルール」と表示される。JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合にだけ表示される。
アクション通し番号	アクションを識別するための番号。
イベント ID	受信した JP1 イベントのイベント ID。
イベント DB 内通し番号	受信した JP1 イベントのイベント DB 内通し番号。 ただし、[アクション結果一覧]画面から[アクション結果詳細]画面を表示した場合だけ表示される。
イベント登録時刻	受信した JP1 イベントの登録時刻。 ただし、[アクション結果一覧]画面から[アクション結果詳細]画面を表示した場合だけ表示される。
イベント到着時刻	受信した JP1 イベントが自サーバに到着した時刻。 ただし、[アクション結果一覧]画面から[アクション結果詳細]画面を表示した場合だけ表示される。
プロセス ID	実行したアクションのプロセス ID。 系切り替えが発生して、アクション再実行用ファイルにアクションの情報が記述された場合は、「OUTPUT」と表示される。
状態	アクションの実行状態を表す次の文字列のどれか。 実行中, 終了, 状態不明(コマンドの実行結果が不明), 実行不可(コマンド実行前のエラー), 実行失敗(コマンド実行時のエラー), キューイング(先行

	<p>コマンドの終了待ち), 送信中, 送信待機, 抑止, キャンセル, 強制終了 なお, アクションを再実行した場合, またはアクション再実行用ファイルに出力した場合には, 次に示すように, 状態の後ろに再実行の内容を示す文字列が表示される。</p> <p>「-R」: jcoimdef コマンドで-r オプションに OFF 以外を指定し, 自動アクションサービス起動時にコマンドを再実行した場合。または, アクション再実行用ファイルに出力された場合。(例:「終了-R」)</p> <p>「-RU」: [アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面の[再実行]をクリックして, アクションを再実行した場合。(例:「終了-RU」)</p> <p>「-RD」: jcoimdef コマンドで-r オプションに OFF 以外を指定し, 自動アクションサービス起動時に抑止されたアクションについてコマンドを再実行した場合。または, アクション再実行用ファイルに出力された場合。(例:「終了-RD」)</p> <p>「-RUD」: 抑止されたアクションについて, [アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面の[再実行]をクリックして, アクションを再実行した場合。(例:「終了-RUD」)</p> <p>「-D」: 抑止されたアクションでアクションの状態が「実行不可」の場合は「実行不可」の状態の後ろに「-D」が付く。(例:実行不可-D)</p>
遅延	アクションの遅延が発生しているかを表示する。遅延した場合は「遅延」と表示される。
開始時刻	実行先ホストからアクションの実行を開始したことを受信した時刻。
投入時刻	実行先ホストへアクションを送信した時刻。
終了時刻	実行先ホストからアクションの実行を終了したことを受信した時刻。
終了コード	実行したアクションの終了コード。
アクション	アクションとして実行したコマンド。
ホスト名	アクションを実行したホスト。

[メッセージ]

アクションを実行したときに出力されたメッセージを表示します。

[再実行]

表示しているアクションの再実行を要求します。

再実行できるアクションの状態は, 「キャンセル」, 「強制終了」, 「実行失敗」, 「抑止」, 「終了」です。このボタンを使用して再実行要求をするには, JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[再実行]をクリックすると, 再実行要求をするかどうかの確認ダイアログが表示されます。[OK]をクリックすると, 自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。

アクションの再実行を要求した場合は, この画面を閉じて元の画面([アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面)に戻り, [更新]をクリックして, アクションの状態を確認することを

お勧めします。

なお、元の画面([アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面)から「キャンセル」、「強制終了」、「実行失敗」、「抑止」、「終了」以外のアクション状態を選択してこの画面を表示した場合、このボタンは非活性です。

[アクションキャンセル]

表示しているアクションのキャンセルを要求します。

キャンセルができるアクションの状態は、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」です。ただし、アクション実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-00 以前の場合には、キャンセル処理が失敗します。

このボタンを使用してアクションのキャンセルを要求するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[アクションキャンセル]をクリックすると、アクションのキャンセルを要求するかどうかの確認ダイアログが表示されます。[OK]をクリックすると、自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。

アクションのキャンセルを要求した場合は、この画面を閉じて元の画面([アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面)に戻り、[更新]をクリックして、アクションの状態を確認することをお勧めします。

なお、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」以外のアクション状態の項目を選択した場合、このボタンは非活性です。

[ルール結果詳細]

JP1/IM - Rule Operation ヘルパー起動要求を通知したルールの実行結果を参照するために、JP1/IM - Rule Operation の[ルール結果詳細]画面を起動します。

このボタンは、JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

また、次の場合、このボタンは非活性となります。

- 選択したアクションの種別が「ルール」でない場合
- 選択したアクションの終了コードが 0 でない場合
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合

26. [アクション結果一覧]画面

[アクション結果一覧]画面は、ログインしているJP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console)で設定した自動アクションの実行結果の一覧を表示します。この画面は、[イベントコンソール]画面で[表示] - [自動アクション結果一覧表示]を選択すると表示されます。

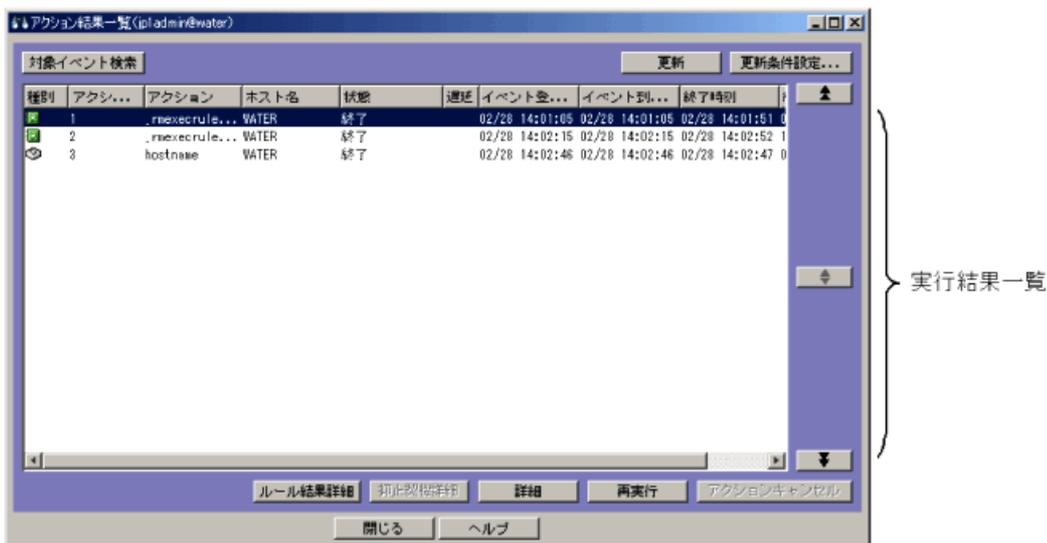
[アクション結果一覧]画面を次に示します。

図 1-40 [アクション結果一覧]画面



また、JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合は、次のように、[アクション結果一覧]画面の実行結果一覧に[種別]が追加され、[ルール結果詳細]ボタンが追加された状態で表示されます。

図 1-41 [アクション結果一覧]画面 (JP1/IM - Rule Operation 連携機能が有効の場合)



表示項目を次に示します。

[実行結果一覧]

ログインしているJP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console)で設定した自動アクションの実行結果の一覧が表示されます。1行に一つのアクションの実行結果が表示されます。

アクション結果の表示件数は、[アクション結果更新条件設定]画面で指定した表示件数に従います。

複数選択したアクションに対して行える操作は[アクションキャンセル]だけです。アクションを一つ選択してダブルクリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示されます。

[対象イベント検索]

[実行結果一覧]で選択した項目のアクションの契機となったイベントを検索します。

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[対象イベント検索]をクリックすると、[イベントコンソール]画面の[イベント検索]ページにアクションの契機となったイベントが表示されます。

なお、次の場合には、このボタンは非活性となります。

- 複数のアクションを選択した場合
- アクションを選択しない場合

[更新]

[更新]をクリックすると、自動アクションの実行結果の表示内容が更新されます。「

「

[更新条件設定]

[更新条件設定]をクリックすると、自動アクションを表示するための条件を変更する[アクション結果更新条件設定]画面が表示されます。



[実行結果一覧]に表示されている項目より前のアクション結果を表示します。アクション結果の表示件数は、[アクション結果更新条件設定]画面で指定した表示件数に従います。

「



[実行結果一覧]に表示されているアクション結果を更新します。「

「

なお、「



[実行結果一覧]に表示されている項目よりあとのアクション結果を表示します。アクション結果の表示件数は、[アクション結果更新条件設定]画面で指定した表示件数に従います。

「

[抑止契機詳細]

[実行結果一覧]でアクション状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、「-RUD」が付加されている項目を選択した場合に、抑止を開始する契機となったアクションの詳細を表示します。アクション状態に「-RD」、「-RUD」、「-D」が付加される項目の内容は、次のとおりです。

- 「-RD」
jcoimdef コマンドで-r オプションに OFF 以外を指定し、自動アクションサービス起動時に抑止されたアクションについてコマンドを再実行した場合。または、アクション再実行用ファイルに出力された場合。(例:「終了-RD」)
- 「-RUD」
抑止されたアクションについて、[アクション結果]画面または[アクション結果一覧]画面の[再実行]をクリックして、アクションが再実行された場合。(例:「終了-RUD」)
- 「-D」
抑止されたアクションでアクションの状態が「実行不可」の場合は「実行不可」の状態の後ろに「-D」が付く。(例:実行不可-D)

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[抑止契機詳細]をクリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示され、アクションの詳細を確認できます。

詳細を表示できる項目は、アクションの状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、
「-RUD」が付加されている項目です。

なお、次の場合には、このボタンは非活性です。

- アクション状態が「抑止」、またはアクション状態に「-RD」、
「-RUD」が付加されている項目以外の項目を選択した場合
- 複数の項目を選択した場合

[詳細]

実行結果の詳細な内容を表示します。

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[詳細]をクリックします。クリックすると、[アクション結果詳細]画面が表示されます。

[再実行]

[実行結果一覧]に表示されているアクションの再実行を要求します。

再実行できるアクションの状態は、「キャンセル」、「強制終了」、「実行失敗」、「抑止」、「終了」です。

このボタンを使用して再実行要求をするには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[実行結果一覧]から項目を一つ選択して[再実行]をクリックします。再実行要求をするかどうかの確認ダイアログが表示されます。[OK]をクリックすると、選択した自動アクションの再実行要求の受け付けが完了します。

アクションの再実行を要求した場合は、[更新]をクリックして、アクションの状態を確認することをお勧めします。

なお、次の場合は、このボタンは非活性です。

- 「キャンセル」、「強制終了」、「実行失敗」、「抑止」、「終了」以外のアクション状態の項目を選択した場合
- 複数の項目を選択した場合

[アクションキャンセル]

[実行結果一覧]で選択した項目のアクションのキャンセルを要求します。

アクションのキャンセルができる項目のアクションの状態は、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」です。ただし、アクション実行先ホストの JP1/Base のバージョンが 07-00 以前である場合には、キャンセル処理が失敗します。

このボタンを使用してアクションのキャンセルを要求するには、JP1_Console_Admin 権限または

JP1_Console_Operator 権限が必要です。

[実行結果一覧]から項目を選択して[アクションキャンセル]をクリックします。アクションのキャンセルを要求するかどうかの確認ダイアログが表示されます。[OK]をクリックすると、選択した自動アクションのキャンセル要求の受け付けが完了します。ただし、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」以外のアクション状態の項目に対してはキャンセル要求をしません。

アクションのキャンセルを要求した場合は、[更新]をクリックして、アクションの状態を確認することをお勧めします。

なお、「送信待機」、「キューイング」、「実行中」のアクション状態の項目を選択していない場合は、このボタンは非活性です。

[ルール結果詳細]

JP1/IM - Rule Operation ヘルパー起動要求を通知したルールの実行結果を参照するために、JP1/IM - Rule Operation の[ルール結果詳細]画面を起動します。

このボタンは、JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定をした場合にだけ表示されます。

JP1/IM - Rule Operation 連携用の設定の詳細は、次を参照してください。

JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定手順

参照先: マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 15.2

(1)JP1/IM - Rule Operation 連携機能の有効設定」

また、次の場合、このボタンは非活性となります。

- 選択したアクションの種別が「ルール」でない場合
- 選択したアクションの終了コードが 0 でない場合
- 複数のアクションを選択した場合
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合

なお、[アクション結果一覧]画面を更新した場合に、選択していたアクション結果が再実行されているときは、選択が解除されます。

また、実行したアクションの情報量がアクション情報ファイルの設定容量を超えた場合は、[アクション結果一覧]画面に表示されているアクション結果の情報が消えることがあります。これは、実行したアクションの情報量がアクション情報ファイルの設定容量を超えると、アクション情報ファイルが上書きされるためです。このようなことが頻発し、運用に差し支える場合は、アクション情報ファイルの容量を大きくすることを検討してください。アクション情報ファイルの容量の設定、見積もり方法については、「自動アクション環境定義ファイル(action.conf.update)」(3. 定義ファイル)を参照してください。

27. [アクション結果更新条件設定]画面

[アクション結果更新条件設定]画面は、[アクション結果一覧]画面に自動アクションの実行結果を表示するための条件を変更するために使用します。

この画面は、[アクション結果一覧]画面で[更新条件設定]をクリックすると表示されます。

バージョン 07-10 以前の JP1/IM - Central Console に接続している場合は、互換用の画面が表示されます。互換用の画面については、旧バージョンのマニュアルを参照してください。また、バージョン 07-10 以前からバージョンアップインストールした JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Console) に接続しても、バージョン 07-10 以前の [アクション結果更新条件設定] 画面に設定していた内容は引き継がれません。

[アクション結果更新条件設定]画面を次に示します。

図 1-42 [アクション結果更新条件設定]画面

表示項目を次に示します。

[更新方法]

[更新内容]を更新する方法を、自動更新または手動更新のどちらかを指定します。

自動更新する場合は、[自動更新]を選択して[更新間隔]に何分単位で自動更新するかを指定します。指定できる値は 1～1,440 分、デフォルトは 1 分です。

自動更新をしない場合は、[手動更新]を選択します。この場合、[更新間隔]は非活性です。

更新方法のデフォルトは、[手動更新]です。

[更新内容]

アクション結果の取得方法を、次の四つの中から指定します。

[最新のアクション結果]

最新のアクション結果を取得する場合は、[最新のアクション結果]を選択します。最新のアクシ

アクション結果が[表示件数]で指定した件数分取得されます。

[アクション通し番号指定]

指定したアクション通し番号のアクション実行結果を取得する場合は、[アクション通し番号指定]を選択して、アクション通し番号を指定します。その後、指定したアクション通し番号を基準に、そのアクションの以前または以降のどちらを表示対象とするかを指定します。アクション通し番号で指定できる値は1～2,147,483,647です。

[以前]を指定した場合は、基準アクション通し番号以前に登録されたアクション結果、新しいものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

[以降]を指定した場合は、基準アクション通し番号以降に登録されたアクション結果、古いものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

[イベント登録時刻指定]

指定した時刻内に登録されたイベントのアクション実行結果を取得する場合は、[イベント登録時刻指定]を選択して、JP1 イベントが発行元ホストのイベント DB に登録された時刻を指定します。

基準時刻を入力し、その時刻の以前または以後のどちらを対象とするかを指定します。

[以前]を指定した場合は、基準時刻以前に登録されたイベントのアクション結果が、新しいものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

[以後]を指定した場合は、基準時刻以後に登録されたイベントのアクション結果が、古いものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

指定できる時刻は、GMT 1970/01/01 00:00:00 から GMT 2038/01/19 03:14:07 までです。ただし、画面上で入力できる時刻の範囲は、使用しているマシンでのデフォルトのタイムゾーンです。

例えば、GMT+9(日本時刻)のマシンで入力できる範囲は、次のようになります。

1970/01/01 09:00:00～2038/01/19 12:14:07

[イベント到着時刻指定]

指定した時刻内に到着したイベントのアクション実行結果を取得する場合は、[イベント到着時刻指定]をチェックして、JP1 イベントが自サーバに到着した時刻を指定します。

基準時刻を入力し、その時刻の以前または以後のどちらを対象とするかを指定します。

[以前]を指定した場合は、基準時刻以前に到着したイベントのアクション結果が、新しいものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

[以後]を指定した場合は、基準時刻以後に到着したイベントのアクション結果が、古いものから[表示件数]で指定した件数分取得されます。

指定できる時刻は、GMT 1970/01/01 00:00:00 から GMT 2038/01/19 03:14:07 までです。ただし、画面上で入力できる時刻の範囲は、使用しているマシンでのデフォルトのタイムゾーンです。

例えば、GMT+9(日本時刻)のマシンで入力できる範囲は、次のようになります。

1970/01/01 09:00:00～2038/01/19 12:14:07

[表示件数]

[アクション結果一覧]画面に表示するアクションの最大数を指定します。指定できる値は1～200件、デフォルトは20件です。

[ホスト名]

アクションを実行したホスト名を指定する場合は、[ホスト名]をチェックしてから、255バイト以内で指定します。複数のホスト名を指定する場合は、コンマで区切って指定します。最大10個の

ホスト名を指定できます。

使用できる文字は、半角英数字、半角アンダーバー(_), 半角ハイフン(-), 半角ピリオド(.), 半角コンマ(,), および全角文字です。半角コンマ(,)は、複数のホスト名を指定するときの文字区切り文字として使用します。

なお、ホストグループ名は指定できません。

[状態]

アクションの実行状態を指定する場合は、[状態]をチェックしてから、必要な状態の項目をチェックします。複数の状態を指定できます。

状態の項目には、「送信待機」「送信中」「キューイング」「実行中」「キャンセル」「強制終了」「実行不可」「実行失敗」「抑止」「その他」および「終了」があります。それぞれの状態には、「-R」, 「-RU」, 「-RD」, 「-RUD」, または「-D」が付いた状態も含まれます。例えば、[実行中]をチェックすると、「実行中」, 「実行中-R」, 「実行中-RU」, 「実行中-RD」, および「実行中-RUD」の状態のアクションが表示されます。

状態の詳細については、「[1.3.26\[アクション結果詳細\]画面](#)」の[実行結果]の状態を参照してください。

「終了」を指定した場合は、終了コードの条件を指定できます。[0][0以外][指定なし]のどれかを選択できます。

[キャンセル状態]

アクションの状態が「キャンセル中」および「キャンセル失敗」のアクションを[アクション結果一覧]画面に表示する場合は、[キャンセル状態]をチェックしてから、「キャンセル中」および「キャンセル失敗」のアクションを表示するかどうかを選択します。

「キャンセル中」および「キャンセル失敗」のアクションを表示する場合は、[含む]を選択して、表示するアクションの状態のチェックボックスにチェックを付けます。[キャンセル中]チェックボックスと[キャンセル失敗]チェックボックスは、複数指定できます。

アクションの状態が「キャンセル中」および「キャンセル失敗」のアクションを表示しない場合は、[含まない]を選択します。

デフォルトは[含まない]です。

28. [コマンド実行]画面

[コマンド実行]画面は、監視対象ホストにコマンドを実行するために使用します。

[コマンド実行]画面を起動するには、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション]－[コマンド実行]を選択すると表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合には使用できません。[コマンド実行]画面を次に示します。

図 1-43 [コマンド実行]画面



表示項目を次に示します。

[実行ホスト名]

コマンドを実行するホスト名を 255 バイト以内で指定します。実行ホスト名にはシステム構成の定義で管理対象ホストに設定したホスト名を指定します。

ホスト名には、ホストグループ名も指定できます。ホストグループ定義ファイル中に定義したホストグループ名を指定してください。

過去に指定したホストをリストボックスから選択できます。

[実行コマンド]

実行するコマンドラインを指定します。

指定できるコマンドラインは、最大 4,096 バイトです。ただし、JP1/IM - View から実行できるコマンドの長さは、JP1/IM、JP1/Base を運用しているシステムによって変わります。

コマンド実行の実行経路上のホスト(実行元マネージャホスト、実行先ホスト含む)にバージョン 6、バージョン 7 の JP1/IM、JP1/Base がある場合には、コマンドの長さは、最大 1,024 バイトまでに抑える必要があります。1,024 バイトを超える値を指定していた場合、コマンド実行に失敗します。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 6.3.3(1) 注意事項」を参照してください。

指定できるコマンドの種類を次に示します。

コマンドを実行するホストが Windows の場合

- 実行形式ファイル(.com, .exe)
- バッチファイル(.bat)
- JP1/Script のスクリプトファイル(.spt) (ただし.spt ファイルが実行可能なよう関連づけが設定されていること)

コマンドを実行するホストが UNIX の場合

- UNIX のコマンド
- シェルスクリプト

ただし、次のようなコマンドは実行できません。

- 対話操作を必要とするコマンド
- 画面を表示するコマンド
- エスケープシーケンスや制御コードを伴うコマンド
- デーモンなどの、終了しないコマンド
- Windows メッセージ機構や DDE など、デスクトップとの対話が必要なコマンド (Windows の場合)
- shutdown や halt など、OS をシャットダウンするコマンド

過去に指定したコマンドラインは、リストボックスから選択もできます。

[履歴のクリア]

過去に指定したコマンドラインをリストボックスから削除します。過去に使用したコマンドの履歴を残したくない場合に使用します。

[環境変数ファイル]

コマンド実行先ホストに保存されている環境変数ファイルの名称を 255 バイト以内で、フルパスで指定します。

指定したファイルに従って環境変数を設定してから、コマンドが実行されます。

[実行]

指定したコマンドを実行します。

[実行結果]

コマンドの実行結果が表示されます。コマンドを実行した時刻、実行したホスト名、コマンドの標準出力メッセージ、コマンドの標準エラー出力メッセージが表示されます。時刻、ホスト名、メッセージの項目をクリックすることで、各項目でソート表示できます。

[コマンド実行]画面を終了しないで、続けてコマンドを実行した場合は、前の実行結果に続けて、結果を表示します。

[実行結果]ボックスには、最大で[ユーザー環境設定]画面の[実行結果表示行数]で指定した行まで、実行結果が表示されます。最大行数を超えた場合は、ソート表示中でも古い実行結果から消去されます。

[クリア]

[実行結果]に表示されているコマンドの実行結果を削除します。

29. [イベント情報マッピング定義]画面

[イベント情報マッピング定義]画面では、イベント一覧の表示項目の欄に固有の拡張属性の内容を表示するために、表示項目と固有の拡張属性とのマッピングを設定します。

[イベント情報マッピング定義]画面を起動するには、JP1_Console_Admin 権限が必要です。この画面は、[イベントコンソール]画面で[オプション]－[イベント情報マッピング定義]を選択すると表示されます。WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。[イベント情報マッピング定義]画面を次に示します。

図 1-44 [イベント情報マッピング定義]画面



表示項目を次に示します。

[マッピング]

表示項目と固有の拡張属性とのマッピングを有効にするかどうかを指定します。有効にする場合は、[する]をチェックします。

[定義一覧]

設定済みのイベント情報マッピング定義の一覧が表示されます。1行に一つのマッピング定義が表示されます。最大16個のイベント情報マッピング定義を設定できます。

一つのイベント情報マッピング定義をダブルクリックすると、[イベント情報マッピング詳細定義]画面が表示されます。

[追加]

新規にイベント情報マッピング定義を追加する場合は、[追加]をクリックします。クリックすると、[イベント情報マッピング詳細定義]画面が表示されます。

[編集]

既存のイベント情報マッピング定義を編集する場合は、編集したいイベント情報マッピング定義を[定義一覧]で選択し、[編集]をクリックします。クリックすると、[イベント情報マッピング詳細定義]画面が表示されます。

[削除]

既存のイベント情報マッピング定義を削除する場合は、削除したいイベント情報マッピング定義

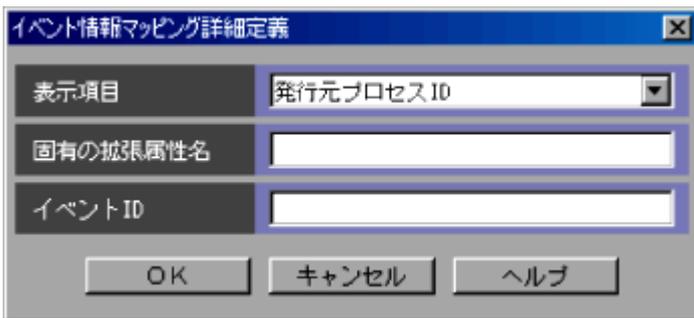
を[定義一覧]で選択し, [削除]をクリックします。

30. [イベント情報マッピング詳細定義]画面

[イベント情報マッピング詳細定義]画面では, 表示項目と固有の拡張属性とのマッピングを設定するために, 個々のイベント情報マッピングを定義します。

この画面は, [イベント情報マッピング定義]画面で, [追加]または[編集]をクリックするか, [定義一覧]からイベント情報マッピング定義を選択してダブルクリックすると表示されます。[イベント情報マッピング詳細定義]画面を次に示します。

図 1-45 [イベント情報マッピング詳細定義]画面



表示項目を次に示します。

[表示項目]

イベント一覧のどの表示項目に固有の拡張属性をマッピングするかを選択します。

選択できる項目は, [イベントコンソール]画面の[イベント監視]ページ, [重要イベント]ページ, および[イベント検索]ページのイベント一覧に表示できる次の項目です。

発行元プロセスID, 到着時刻, 発行元ユーザーID, 発行元グループID, 発行元ユーザー名, 発行元グループ名, 登録ホスト名, 発行元イベントDB内通し番号, 重大度, ユーザー名, プロダクト名, オブジェクトタイプ, オブジェクト名, 登録名タイプ, 登録名, 事象種別, 開始時刻, 終了時刻

指定例:登録ホスト名

[固有の拡張属性名]

マッピングする固有の拡張属性の名前を指定します。固有の拡張属性名については, 「JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張 付録 A JP1 イベントの属性の設定基準」を参照してください。

指定できる文字は, 32 バイトまでの, 半角英大文字, 半角数字, および半角のアンダーバー () です。英小文字が入力されると, 自動的に英大文字に変換されます。先頭の文字は, 英大文字にします。拡張属性を表す「E」は不要です。

一つの表示項目には, 一つだけの固有の拡張属性をマッピングできます。

到着時刻, 開始時刻, および終了時刻に固有の拡張属性をマッピングするときは, 属性値が数値(UTC 1970年1月1日00:00:00からの秒数0~2,147,483,647)である属性名を指定します。数値以外, または範囲外の数値を持つ属性を指定した場合は, 元の属性が表示されます。

指定例:LOGHOST

[イベントID]

マッピングを行う JP1 イベントのイベント ID を指定します。

8 桁以内の 16 進数で指定します。指定できる範囲は、0～7FFFFFFF です。

複数のイベント ID を指定する場合は、コンマで区切って 100 個まで指定できます。

指定例 1:3FFF

指定例 2:12345B,7FFFFFFF

31. [監視ツリー]画面

[ログイン]画面で[セントラルスコープ]を選択し、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)にログインするか、[イベントコンソール]画面のツールバーで  をクリックすると、[監視ツリー]画面が表示されます。この節で説明する内容は、WWW ページ版の JP1/IM - View では使用できません。なお、ログインしている JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のバージョンによっては、非活性であったり、非表示であったりする画面、ボタンおよび項目があります。詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 H 下位バージョンとの接続性」を参照してください。

[監視ツリー]画面は、ツリーによって視覚的にシステムの状態を一元監視するための画面です。監視対象を業務やサーバ単位でグループ化できるため、システム管理者は、これらの画面で障害が発生しているアイコンをドリルダウンすることによって、障害原因の特定や、障害の影響を受ける業務を分析することができます。また、関連プログラムも[監視ツリー]画面から起動できます。

[監視ツリー]画面の表示例を次に示します。

図 1-46 [監視ツリー]画面



表示項目を次に示します。

アラームランプ

監視している業務システムで何らかの障害が発生した場合に点滅します。

アラームランプが点滅する条件を次の表に示します。

表 1-11 アラームランプが点滅する条件

最上位監視ノードの設定		アラームランプ
監視／非監視	状態	
監視	警告, 正常, デバッグ, 初期状態	消灯
監視	緊急, 警戒, 致命的, エラー	点滅
非監視	初期状態*	消灯

注※ 非監視の監視ノードの状態は常に初期状態です。

ツールバー

[監視ツリー]画面でよく使う機能をボタンにしています。



[ツリーを最新状態に更新]ボタン

接続先のJP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)からツリー構成情報を読み込み, 監視ツリーを最新の状態に更新して表示します。監視ツリーを開いていた場合, ツリーを更新すると, 最上位監視ノードの一つ下の監視ノードだけが(下位監視ノードは閉じて)表示されます。



[ビジュアル監視]ボタン

[ビジュアル監視画面を開く]画面を表示します。



[統合機能メニュー起動]ボタン

[統合機能メニュー]画面を表示します。



[セントラルコンソール起動]ボタン

[イベントコンソール]画面を表示します。



[ヘルプ]ボタン

オンラインマニュアルを表示します。

[監視ツリー]画面のツールバーは, 三つの定義ファイルを編集することで, カスタマイズできます。詳細については, 下記を参照してください。

参照先:「起動プログラム定義ファイル(!JP1_CS_APP0.conf)」(3. 定義ファイル)

参照先:「ツールバー定義ファイル(!JP1_CS_FTOOL0.conf)」(3. 定義ファイル)

参照先:「アイコン動作定義ファイル(!JP1_CS_FTREE0.conf)」(3. 定義ファイル)

ツリー表示領域

監視する業務システムを構成している要素をツリー構造で表示します。ツリー表示領域に表示される項目を次に示します。

表 1-12 ツリー表示領域の項目

表示項目	説明
+	監視グループ下に監視ノードがあるときに監視グループの横に表示される記号です。 +を選択すると、監視グループ下のツリーが展開されます。ツリーが展開されると-に変わります。
-	監視グループ下に監視ノードがあるときに監視グループの横に表示される記号です。 -を選択すると、展開されたツリーが閉じます。ツリーを閉じると+アイコンに変わります。
監視グループ	配下に監視ノードがあるときは、+記号または-記号が横に表示されます。 監視グループを選択すると、詳細表示領域にその監視グループの子ノードが表示されます。子ノードがない場合は、詳細表示領域には何も表示されません。 監視グループ下のツリーが閉じた状態で監視グループをダブルクリックすると、ツリーが展開されます。 監視グループ下のツリーが展開された状態で監視グループをダブルクリックすると、ツリーが閉じます。
監視オブジェクト	+記号-記号が横に表示されません。 監視オブジェクトを選択すると、詳細表示領域にその監視オブジェクトの詳細情報が表示されます。 監視オブジェクトをダブルクリックすると、その監視オブジェクトの属性([プロパティ]画面)が表示されます。
仮想ルートノード	監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合、ツリーの最上位に、  (または ) が表示されます。 仮想ルートノードを選択すると、詳細表示領域に仮想ルートノードの子ノードが表示されます。子ノードがない場合は、詳細表示領域には何も表示されません。

詳細表示領域

ツリー表示領域で選択した監視グループ(または仮想ルートノード)の子ノード、またはツリー表示領域で選択した監視オブジェクトの詳細(監視ノード名、監視ノード種別、状態、監視、状態

更新日時)が表示されます。 をクリックするとマップ表示に、 をクリックすると詳細表示に切り替えることができます。

監視グループをダブルクリックすると、その子ノードが表示されます。また、ツリー表示領域もダブルクリックした監視グループの下のツリーが展開された状態になります。

監視オブジェクトをダブルクリックすると、その監視オブジェクトの属性([プロパティ]画面)が表示されます。

詳細表示の状態では、メニューから[表示]-[ソートステータス]の[ソート済み]にチェックしている場合は、状態によってソート表示されます。状態は、「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」「警告」「正常」「デバッグ」「初期状態」の順になります。

詳細表示領域に表示される項目を次に示します。

表 1-13 詳細表示領域の項目

表示項目	説明
アイコン	監視ノードのアイコンが表示されます。 なお、マップ表示時に、ほかのアイコンと重なったアイコンがあった場合、監視ノード ID の大きい方が前面に表示されます。[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合、[監視ツリー(編集中)]で設定した順序で表示されます。
ビジュアルアイコン	[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合、監視ノードのビジュアルアイコンが表示されます。 この項目は、マップ表示時だけ表示されます。 なお、ほかのビジュアルアイコンと重なったビジュアルアイコンがあった場合、[監視ツリー(編集中)]で設定した順序で表示されます。
監視ノード名	監視ノードの名称が表示されます。
監視ノード種別	監視ノードの種別が表示されます。監視グループの場合は「監視グループ」、監視オブジェクトの場合は「AJS2 監視」「SSO 監視」「汎用オブジェクト」と表示されます。この項目は、マップ表示時には表示されません。
状態	監視ノードの状態が表示されます。表示される状態は「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」「警告」「正常」「デバッグ」「初期状態」のどれかです。 この項目は、マップ表示時には表示されません。
監視	監視ノードの監視状態が表示されます。監視状態は「監視」「非監視」のどちらかです。 この項目は、マップ表示時には表示されません。
状態更新	監視ノードの状態が更新された日付が表示されます。 この項目は、マップ表示時には表示されません。



[上の監視グループへ]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視ノードの親監視ノードを選択します。ツリー表示領域内では、フォーカスが移動し、詳細表示領域では、フォーカスが移動した監視グループの詳細が表示されます。



[アイコン表示]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視グループまたは監視オブジェクトの情報を詳細表示領域にマップ表示します。アイコンは、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。この画面でもアイコンの位置を動かすことはできますが、この画面をいったん閉じて再度表示させた場合は、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。



[詳細表示]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視ノードの情報を詳細表示領域に詳細表示します。



[矩形選択]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択する場合にクリックします。このボタンが選択された状態で、マップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。詳細表示されている場合は、このボタンは非活性です。



[等間隔に整列]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを、一時的に等間隔に整列します。この画面をいったん閉じて、再度表示させた場合は、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。詳細表示されている場合は、このボタンは非活性です。

[状態変更イベント検索]

ユーザーフィルターで設定されている条件に従い、状態変更の原因となったイベントを[イベントコンソール]画面に表示します。ユーザーフィルターの設定については[ユーザーフィルター設定]画面で確認してください。仮想ルートノードを選択している場合は、このボタンは非活性です。

ポップアップメニュー

ツリー表示領域および詳細表示領域では監視ノードを選択してマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューを表示できます。仮想ルートノードを選択している場合、ポップアップメニューは表示されますが、選択できるメニュー項目はありません。

なお、次のポップアップメニューは、特定の条件を満たした場合だけ表示されます。

[表示順序]

[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合に選択できます。複数の監視ノードが選択されている場合でも、このメニューは選択できます。

監視ノードの表示順序を次のメニューから一時的に変更できます。この画面をいったん閉じて、再度表示させた場合は、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された表示順序に戻ります。

•[最前面へ移動]

選択している監視ノードを最前面に表示します。

•[前面へ移動]

選択している監視ノードを前面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り上げます。

•[背面へ移動]

選択している監視ノードを背面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り下げます。

•[最背面へ移動]

選択している監視ノードを最背面に表示します。

そのほかのポップアップメニュー項目については、次のメニュー項目の説明を参照してください。

次に、[監視ツリー]画面のメニュー項目を説明します。

表 1-14 [監視ツリー]画面のメニュー項目

メニュー	コマンド	機能
ファイル	監視ツリーの状態を保存	表示している監視ノードの状態(正常, エラーなど)および共通条件を、ツリー構成ファイルとして CSV 形式のファイルでローカルに保存できます。監視ツリーの監視範囲設定が有効になっている場合、このメニューは選択できません。
	セントラルコンソール起動	[イベントコンソール]画面を起動します。 [イベントコンソール]画面の起動時, JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログイン中の JP1 ユーザーでログインします。このとき, [ログイン]画面は表示されません。 同一プロセスで[イベントコンソール]画面が表示中の場合は, [イベントコンソール]画面が最前面に表示されます。
	閉じる	<p>[ファイル] - [セントラルコンソール起動], または  ボタンを使って [イベントコンソール] 画面を表示している場合は, 次のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [監視ツリー]画面が非表示になります。 • [統合機能メニュー]画面が表示されている場合は, その画面は表示されたままになります。 <p>[ファイル] - [セントラルコンソール起動], または  ボタンを使って [イベントコンソール] 画面を表示していない場合は, 次のように動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「KAVB0122-I このウィンドウを閉じると終了(ログアウト)します。よろしいですか?」のダイアログが表示され, [はい]をクリックすると, ログアウトします。 • [統合機能メニュー]画面が表示されている場合, その画面は閉じます。
	終了(ログアウト)	接続中の JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) からログアウトし, 表示中の画面を終了します。[イベントコンソール]画面が表示されている場合は, [監視ツリー]画面終了後に [イベントコンソール]画面を終了します。
操作	状態変更	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの状態をチェックマークで表示します。チェックマークの付いていない状態を選択することで, 監視ノードの状態を変更できます。
	監視状態変更	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの監視状態をチェックマークで表示します。 監視状態は次の 2 種類です。 <ul style="list-style-type: none"> • 監視 監視ノードを監視に設定します。 • 非監視

		<p>監視ノードを非監視に設定します。</p> <p>チェックマークの付いていない監視状態を選択することで、監視ノードの監視状態を変更できます。</p> <p>子ノードを持つ親監視ノードの監視状態を変更した場合、すべての子ノードの監視状態も変更されます。</p>
表示	アイコン表示	<p>[監視ツリー]画面で選択している監視グループまたは監視オブジェクトの情報を、詳細表示領域にマップ表示します。</p> <p>アイコンは、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。</p> <p>この画面でもアイコンの位置を動かすことはできますが、この画面をいったん閉じて再度表示させた場合は、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。</p>
	詳細表示	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの情報を、詳細表示領域に詳細表示します。
	ビジュアルアイコンを使用	<p>ビジュアルアイコンを使用するかどうかをチェックマークで表示します。</p> <p>チェックマークを付けている場合は、詳細表示領域(マップ表示時)および[ビジュアル監視]画面で、監視グループまたは監視オブジェクトに設定しているビジュアルアイコンを表示できます。</p>
	等間隔に整列	<p>監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを、一時的に等間隔に整列します。この画面をいったん閉じて、再度表示させた場合は、[監視ツリー(編集中)]画面で設定された位置に従います。</p>
	ビジュアル監視	[ビジュアル監視画面を開く]画面を表示します。
	検索	<p>[監視ツリー]画面で、監視グループが選択されている場合に、[検索]画面を表示します。</p> <p>すでに[検索]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。</p> <p>[監視ツリー]画面で、監視オブジェクトまたは仮想ルートノードが選択されている場合、このメニューは選択できません。</p>
	ガイド	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの[ガイド]画面を表示します。対応するガイド情報がない場合、[ガイド]画面は表示されません。
	状態変更イベント検索	<p>ユーザーフィルターで設定されている条件に従い、状態変更の原因となったイベントを[イベントコンソール]画面に表示します。すでに[イベントコンソール]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。</p> <p>ユーザーフィルターの設定については[ユーザーフィルター設定]画面で確認してください。</p>
	ツリーを最新状態に変更	<p>接続先の JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) からツリー構成情報を読み込み、最新の状態で再表示します。[監視ツリー]画面の構成が変更された場合、[監視ツリー]画面の最上位の監視ノードが初期選択されます。</p>
	プロパティ	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[全般]ページが表示された状態で表示します。
	ソートステータス	<p>状態更新日時の順に表示されている監視ノードの一覧を、状態によってソートします。[ソート済み]にチェックマークを付けている場合は、「緊</p>

		<p>急」「警戒」「致命的」「エラー」「警告」「正常」「デバッグ」「初期状態」の順にソート表示されます。同じ状態の場合は、状態更新日時の順に表示されます。[未ソート]にチェックマークを付けている場合は、状態更新日時の順に表示されます。</p> <p>ソート表示の対象となる画面は、[監視ツリー]画面の詳細表示領域、[検索]画面の検索結果一覧です。</p>
オプション	矩形選択	監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択します。チェックマークで選択した状態でマップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。
	基本情報	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[基本情報]ページが表示された状態で表示します。
	状態変更条件	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[状態変更条件]タブが選択された状態で表示します。
	共通条件設定	[共通条件設定]画面を表示します。[共通条件設定]画面では、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) が管理する共通条件を追加、削除、編集または参照できます。 このメニューは、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
	イベント発行条件	[監視ツリー]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[イベント発行条件]タブが選択された状態で表示します。
	ツリー編集	[監視ツリー(編集中)]画面が表示されます。[監視ツリー(編集中)]画面では、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) に接続していない状態で監視ツリーを編集できます。
	ログインユーザー一覧	[ログインユーザー一覧]画面を表示します。JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) にログイン中のユーザー一覧が表示されます。
	統合機能メニュー起動	[統合機能メニュー]画面を表示します。
ヘルプ	目次	ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報	JP1/IM - View のバージョン情報を表示します。

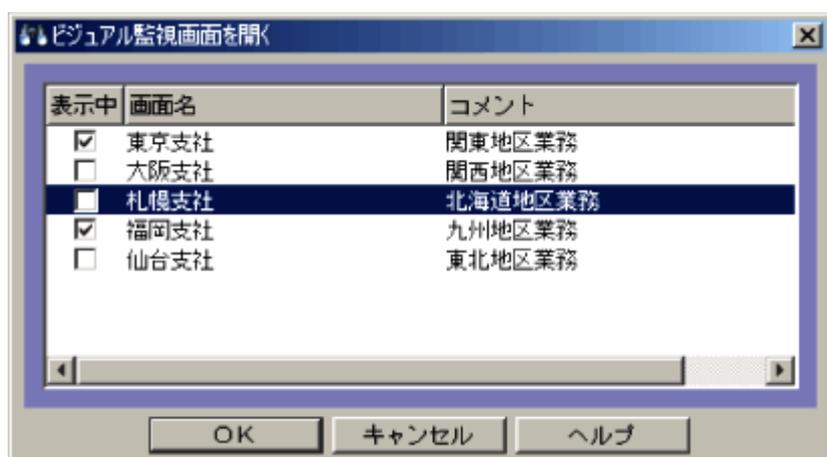
32. [ビジュアル監視画面を開く]画面

[ビジュアル監視画面を開く]画面は、ビジュアル監視データに登録されているビジュアル監視画面を一覧表示し、どの画面を開くか一覧から選択できます。この画面は、次の操作で表示されます。

- [監視ツリー]画面で[表示]－[ビジュアル監視]を選択する。
- [監視ツリー]画面のツールバーで  をクリックする。
- [ビジュアル監視(編集中)]画面の  をクリックする。

[ビジュアル監視画面を開く]画面を次に示します。なお、[ビジュアル監視(編集中)]画面からこの画面を表示した場合、[表示中]列は表示されません。

図 1-47 [ビジュアル監視画面を開く]画面



一覧から表示したい画面名を選択し、[OK]をクリックすると、指定したビジュアル監視画面が表示されます。

すでに表示されているビジュアル監視画面がある場合に、[ビジュアル監視画面を開く]画面を[監視ツリー]画面から表示したときは、画面名の前にチェックマークが付きます。

監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合、表示できる監視ノードが一つも配置されていないビジュアル監視画面は、一覧に表示されません。

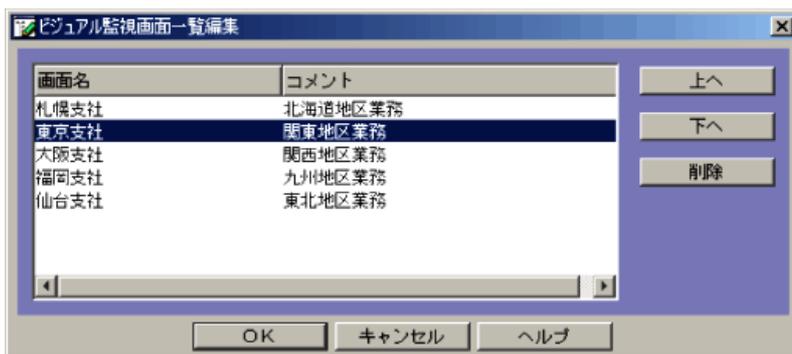
33. [ビジュアル監視画面一覧編集]画面

[ビジュアル監視画面一覧編集]画面は、ビジュアル監視データに登録されているビジュアル監視画面を一覧表示し、一覧で選択したビジュアル監視画面を削除したり、表示する順序を変更したりできます。削除、および表示する順序の変更は、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。

この画面は、[監視ツリー(編集)]画面で[編集] - [ビジュアル監視画面一覧編集]を選択すると表示されます。

[ビジュアル監視画面一覧編集]画面を次に示します。

図 1-48 [ビジュアル監視画面一覧編集]画面



表示項目を次に示します。

[上へ]

選択したビジュアル監視画面名を1行上へ移動します。

[下へ]

選択したビジュアル監視画面名を1行下へ移動します。

[削除]

選択したビジュアル監視画面名を削除します。

[OK]

[上へ], [下へ]または[削除]をクリックした時点では、[ビジュアル監視画面一覧編集]画面の表示が変更されただけで、サーバ上のデータは変更されていません。[OK]をクリックすると、サーバ上のデータが更新され、[ビジュアル監視画面を開く]画面の表示も更新されます。

34. [ビジュアル監視(編集中)]画面

監視ノードを監視画面上にアイコンとして貼り付け、貼り付けたアイコンに相当する業務を画面上で監視できるようにした画面です。[監視ツリー(編集中)]画面から監視ノードをドラッグアンドドロップすることで監視ノードを配置できます。JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)からビジュアル監視データの取得、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope)へのビジュアル監視データの保存は、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。この画面は、[監視ツリー(編集中)]画面で[編集]-[新規ビジュアル監視画面作成]を選択すると表示されます。

[ビジュアル監視(編集中)]画面の背景画像は自由に設定できます。背景画像は、[背景画像設定]画面で指定してください。なお、作成した背景画像を使用する場合は、JP1/IM-Viewを使用するビューアーホストへ背景画像を配布してください。

[ビジュアル監視(編集中)]画面の表示例を次に示します。

図 1-49 [ビジュアル監視(編集中)]画面



表示項目を次に示します。



[矩形選択]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択する場合にクリックします。このボタンが選択された状態で、マップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。



[アイコン削除]ボタン

監視ポイント表示領域で選択した監視ノードアイコンを削除します。削除されるのは、監視ポイント表示領域のアイコンであり、監視ツリーからは削除されません。監視ノードが選択されている状態で使用できます。



[背景画像設定]ボタン

監視ポイント表示領域の背景画像を読み込みます。

読み込める背景画像は、**View** パス¥image¥map¥にある JPEG, GIF, PNG 形式の画像ファイルです。



[ビジュアル監視データを開く]ボタン

ローカルにあるビジュアル監視データを読み込みます。



[ビジュアル監視データを保存]ボタン

ビジュアル監視データをローカルファイルに保存します。



[サーバからビジュアル監視データを取得]ボタン

JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) 上のビジュアル監視データを読み込みます。JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。

また、[ログイン]画面が表示されますので、ログイン*してください。[ビジュアル監視画面を開く]画面が表示されます。



[サーバのビジュアル監視データを更新]ボタン

[ビジュアル監視 (編集中)]画面で編集したビジュアル監視データを JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) 上に反映します。JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。また、[ログイン]画面が表示されますので、ログイン*してください。

監視ポイント表示領域

[監視ツリー(編集中)]画面からドラッグアンドドロップで、監視ノードを最大 128 個まで配置できます。配置したアイコンはドラッグで移動できます。

背景の画像はマウスの左ボタンのドラッグで移動できます。

[画面名]

表示しているビジュアル監視画面の名称が表示されます。1~63 バイトの名称が入力できます。

[コメント]

表示しているビジュアル監視画面のコメントが表示されます。80 バイトまでのコメントが入力できます。

注※ [監視ツリー(編集中)]画面の[ファイル]-[ログイン情報を保持する]にチェックを付けておくと、一度ログインすれば、ログアウトするまでユーザー名・パスワード・接続ホスト名が保持されるため、以降のサーバ接続操作でのログイン画面は表示されません。

ポップアップメニュー

監視ポイント表示領域でマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューを表示できます。ポップアップメニュー項目を次に示します。

[監視状態変更]

選択している監視ノードの監視状態を[監視]または[非監視]に変更できます。

[表示順序]

[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合に選択できます。複数の監視ノードが選択されている場合でも、このメニューは選択できます。

監視ノードの表示順序を次のメニューから変更できます。

- [最前面へ移動]

選択している監視ノードを最前面に表示します。

- [前面へ移動]
選択している監視ノードを前面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り上げます。
- [背面へ移動]
選択している監視ノードを背面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り下げます。
- [最背面へ移動]
選択している監視ノードを最背面に表示します。

[アイコン削除]

監視ノードが選択されている場合に選択できます。をクリックしてできる操作と同じように、監視ノードアイコンを削除します。

[検索]

監視グループが選択されている場合に選択できます。[検索]画面を表示します。すでに[検索]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。監視オブジェクトが選択されている場合は選択できません。

[プロパティ]

監視ノードが選択されている場合に選択できます。監視ノードの[プロパティ]画面を、[全般]タブが選択された状態で表示します。

[背景画像設定]

監視ポイント表示領域の背景画像を読み込みます。をクリックしてできる操作と同じです。このポップアップメニューは、アイコンが選択されていない場合にだけ表示されます。

35. [ビジュアル監視]画面(監視用)

[ビジュアル監視(編集用)]画面で貼り付けられたアイコンに相当する業務を監視する画面です。必要に応じて監視ノードの状態変更, ガイド情報の表示, 検索などができます。

この画面は, [ビジュアル監視画面を開く]画面で画面名を選択し, [OK]をクリックすると表示されます。

監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合, ログインしているJP1ユーザーがアクセス権を持つ監視ノードのアイコンだけ表示されます。監視中にビジュアル監視画面を更新した結果, アクセス権のある監視ノードが一つもなくなった場合, ダイアログが表示されて[ビジュアル監視]画面が閉じます。

図 1-50 [ビジュアル監視]画面(監視用)



表示項目を次に示します。

アラームランプ

監視している業務システムで何らかの障害が発生した場合に点滅します。

アラームランプが点滅する条件を次の表に示します。

表 1-15 アラームランプが点滅する条件

[ビジュアル監視]画面上の監視ノードの設定		アラームランプ
監視/非監視	状態	
監視	警告, 正常, デバッグ, 初期状態	消灯
監視	緊急, 警戒, 致命的, エラー	点滅
非監視	初期状態*	消灯

注※ 非監視の監視ノードの状態は常に初期状態です。

監視ポイント表示領域

監視ノードのアイコンを表示します。

アイコンに対応する監視ノードに障害が発生すると, アイコンの背景色が変わります。アイコンをダブルクリックすると, [監視ツリー]画面の表示が, アイコンに対応した監視ノードが選択された状態になります。

なお, ほかのアイコンと重なったアイコンがあった場合, 監視ノードIDの大きい方が前面に表示

されます。[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合、[ビジュアル監視(編集中)]画面で設定した順序で表示されます。



[矩形選択]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択する場合にクリックします。このボタンが選択された状態で、マップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。

ポップアップメニュー

監視ポイント表示領域では、アイコンを選択してマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューを表示できます。ポップアップメニュー項目を次に示します。

[状態変更]

選択している監視ノードの状態をチェックマークで表示します。チェックマークの付いていない状態を選択することで、監視ノードの状態を変更できます。

[監視状態変更]

選択している監視ノードの監視状態を[監視]または[非監視]に変更できます。

[表示順序]

[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合に選択できます。複数の監視ノードが選択されている場合でも、このメニューは選択できます。

監視ノードの表示順序を次のメニューから一時的に変更できます。この画面をいったん閉じて、再度表示させた場合は、[ビジュアル監視(編集中)]画面で設定された表示順序に戻ります。

•[最前面へ移動]

選択している監視ノードを最前面に表示します。

•[前面へ移動]

選択している監視ノードを前面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り上げます。

•[背面へ移動]

選択している監視ノードを背面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り下げます。

•[最背面へ移動]

選択している監視ノードを最背面に表示します。

[検索]

監視グループが選択されている場合に選択できます。[検索]画面を表示します。すでに[検索]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。監視オブジェクトが選択されている場合は選択できません。

[ガイド]

選択している監視ノードの[ガイド]画面を表示します。対応するガイド情報がない場合、[ガイド]画面は表示されません。

[状態変更イベント検索]

ユーザーフィルターで設定されている条件に従い、状態変更の原因となったイベントを[イベントコンソール]画面に表示します。すでに[イベントコンソール]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。ユーザーフィルターの設定については[ユーザーフィルター設定]画面で確認してください。

[プロパティ]

選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[全般]タブが選択された状態で表示します。

36. [背景画像設定]画面

[ビジュアル監視]画面の背景, または[監視ツリー]画面の詳細表示領域を[アイコン表示]にしたときに表示される背景を設定する画面です。この画面は, 次の操作で表示されます。

[ビジュアル監視]画面の背景を設定する場合

[ビジュアル監視(編集中)]画面でをクリックする。

[監視ツリー]画面の詳細表示領域を[アイコン表示]にしたときに表示される背景を設定する場合

[プロパティ]画面の[全般]ページで[背景画像設定]をクリックする([監視ツリー(編集中)]画面でだけ, かつ, 監視グループでだけ行えます)。

[背景画像設定]画面の例を示します。

図 1-51 [背景画像設定]画面



背景として選択できる画像の格納場所, 形式, およびサイズは次のとおりです。

選択できる画像の格納場所

View パス ¥image¥map¥

指定できるファイル名の最大長は, ファイルの格納パスおよびファイル名(拡張子含む)を合わせて 260 バイトまでです。

選択できる画像の形式

- JPEG
- GIF
- PNG

選択できる画像のサイズ

2,048×2,048 ピクセル以内

ファイル一覧で選択すると, プレビューで画像, サイズが表示されます。なお, ファイル一覧で[背景画像なし]を選択すると, [ビジュアル監視]画面の背景, または[監視ツリー]画面の詳細表示領域を[アイコン表示]にしたときに表示される背景が白色の無地になります。

次のファイルは背景画像として設定できません。

- 画像の縦横どちらかのサイズが 2,048 ピクセルよりも大きい
- ファイル形式が, JPEG, GIF, PNG 以外

37. [検索]画面

検索条件で設定した条件に一致する監視ノードを検索する画面です。この画面は、次の操作で表示されます。

- [監視ツリー]画面で[表示]－[検索]を選択する。
- [監視ツリー(編集中)]画面で[編集]－[検索]を選択する。

検索条件に設定できるキーワードは次の九つです。また、これらのキーワード間の関係はすべて AND 検索です。

- 監視ノード名
- 監視ノード ID
- 監視ノード種別
- 状態
- JP1 資源グループ
- 監視状態
- 基本情報
- 状態変更条件
- イベント発行条件

[検索]画面の例を示します。

図 1-52 [検索]画面



表示項目を次に示します。

[検索開始位置]

検索を開始する監視ノードを示します。

[監視ノード名]

検索する監視ノード名を指定します。指定できる文字数は半角換算で1～1,280バイトです。

また、検索する監視ノード名は正規表現で入力します。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

[監視ノード ID]

検索する監視ノードの ID を 16 進数で指定します。指定できる文字数は 1～1,023 バイトです。指定できる監視ノード ID は 113 個までで、複数指定する場合は、コンマで区切って指定します。

[監視ノード種別]

検索する監視ノードの種別を指定します。指定する場合、監視オブジェクト、監視グループのどちらかにチェックを入れます。監視オブジェクトにチェックを入れた場合、リストボックスから汎用監視オブジェクト(汎用オブジェクト)、システム監視オブジェクト(AJS2 監視や SSO 監視など)、またはすべての監視オブジェクトを検索対象とするためのスペース(空白)を選択できます。

[状態]

監視ノードの状態を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、正常、デバッグ、初期状態の中から必要な項目をチェックします。

[JP1 資源グループ]

検索する JP1 資源グループ名を指定します。指定できる文字数は 1～1,280 バイトです。また、検索する JP1 資源グループ名は正規表現も使用できます。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management – Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

この項目は、監視ツリーの監視範囲設定が有効な場合に表示されます。

[監視状態]

監視ノードの監視状態を、[監視]、または[非監視]から選択します。

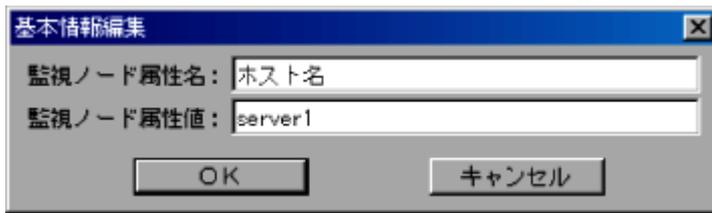
[基本情報]

監視ノードの基本情報を入力します。入力できる基本情報の数は最大 5 です。複数入力した場合は、AND 検索となります。

基本情報一つにつき入力できる文字数は、監視ノード属性名と監視ノード属性値それぞれ 1,023 バイトまでです。ただし、基本情報を複数入力する場合、監視ノード属性値として入力できる文字数は合計で 1,280 バイトまでとなるため、注意してください。また、基本情報は正規表現も使用できます。

基本情報リストで、監視ノード属性名、または監視ノード属性値を選択し、[編集]をクリックすると、[基本情報編集]画面が表示され、設定済みの情報を編集できます。[削除]をクリックすると、選択した行が削除されます。

図 1-53 [基本情報編集]画面



[状態変更条件]

監視ノードの状態変更条件を入力します。条件名に入力できる文字列は、1,023 バイトまでです。未入力の場合は、すべての監視ノードを検索対象とします。また、条件名は正規表現で入力します。

[イベント発行条件]

監視ノードのイベント発行条件を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、正常、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

検索結果一覧

[検索]ボタンをクリックすると、検索条件に一致した監視ノードがリスト表示されます。[監視ツリー]画面のメニュー[表示]–[ソートステータス]で[ソート済み]にチェックしている場合は、状態によってソート表示できます。状態は、「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」「警告」「正常」「デバッグ」「初期状態」の順になります。

ポップアップメニュー

[監視ツリー]画面または[監視ツリー(編集用)]画面から[検索]画面を表示した場合、ポップアップメニューを表示できます。検索結果一覧に表示されている監視ノードを選択し、マウスの右ボタンをクリックすると表示されます。ポップアップメニュー項目を次に示します。

[状態変更]

[監視ツリー]画面から[検索]画面を表示した場合に表示されます。検索結果一覧で選択している監視ノードの状態を変更します。また、監視ノードの状態をチェックマークで表示します。チェックマークの付いていない状態を選択することで、監視ノードの状態を変更できます。

- 緊急
- 警戒
- 致命的
- エラー
- 警告
- 正常
- デバッグ
- 初期状態

[監視状態変更]

検索結果一覧で選択している監視ノードの監視状態を変更します。また、監視ノードの監視状態をチェックマークで表示します。チェックマークの付いていない監視状態を選択することで、監視ノードの状態を変更できます。

- 監視
- 非監視

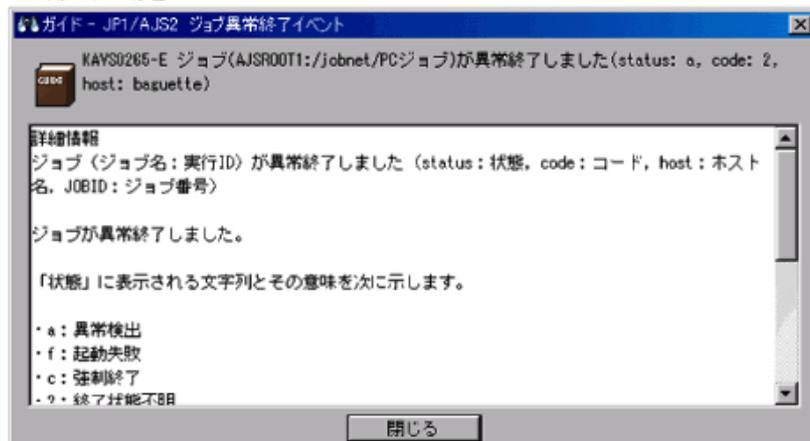
38. [ガイド]画面

監視ノードの状態に対応したガイドを表示します。選択した監視ノードに対応するガイド情報ファイルに記述されたタイトル、およびガイド情報ファイルに記述されたタイトルに対応したガイドを JP1/IM - Manager から読み込み、表示します。この画面は、[監視ツリー]画面で[表示]－[ガイド]を選択すると表示されます。

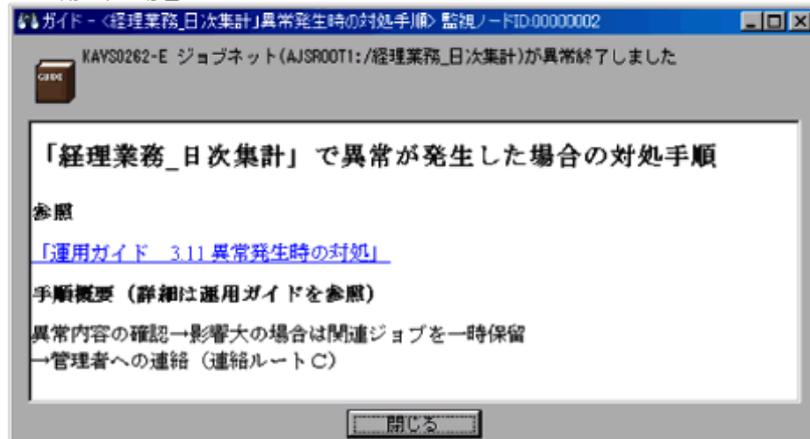
[ガイド]画面の例を示します。

図 1-54 [ガイド]画面

TXT形式の場合



HTML形式の場合



[ガイド]画面に表示されるガイドは、あらかじめガイド情報ファイルに記述しておく必要があります。詳細については、「[ガイド情報ファイル\(jcs_guide_***.txt\)](#)」(3. 定義ファイル)を参照してください。

39. [プロパティ]画面

[監視ツリー]画面で選択した監視ノードのすべての属性を表示したり、変更したりできます。なお、[プロパティ]画面から状態の変更はできません。

[プロパティ]画面には、[全般]、[基本情報]、[状態変更条件]、[イベント発行条件]の4種類のページがあり、タブを選択することで表示を切り替えられます。

ここでは、属性の表示について説明します。変更については表示の記述を読み変えてください。

[監視ツリー]画面から属性を変更する場合は、JP1_Console_Admin 権限または JP1_Console_Operator 権限が必要です。[監視ツリー(編集)]画面から属性を変更する場合は、必要になるユーザー権限は特に必要ありません。

<この項の構成>

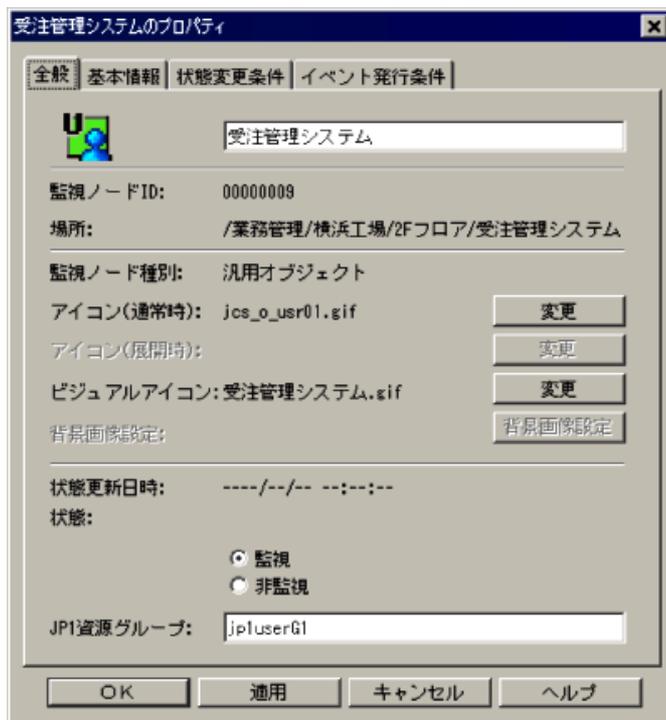
- (1) [全般]ページ
- (2) [基本情報]ページ
- (3) [状態変更条件]ページ
- (4) [イベント発行条件]ページ

(1) [全般]ページ

監視ノード名、アイコン、監視ノードの現在の監視状態、および JP1 資源グループを表示、変更できます。

[プロパティ]画面の[全般]ページを次に示します。

図 1-55 [プロパティ]画面([全般]ページ)



表示項目を次に示します。

アイコン、監視ノード名

選択した監視ノードの通常時のアイコン、および監視ノード名が表示されます。

[監視ノード ID]

選択した監視ノードのノード ID が表示されます。

[場所]

選択した監視ノードのあるツリー上の場所が、最上位から「/」で区切って表示されます。監視グ

ループが選択された場合は、最後に「/」が表示されます。

[監視ノード種別]

選択した監視ノードの種別が表示されます。

[アイコン(通常時)]

選択した監視ノードのアイコンのファイル名が表示されます。[変更]をクリックすると、[アイコン選択]画面が表示され、アイコンを変更できます。

[アイコン(展開時)]

監視グループ用の項目です。ツリーを展開したときに表示されるアイコンのファイル名が表示されます。[変更]をクリックすると、[アイコン選択]画面が表示され、アイコンを変更できます。

[ビジュアルアイコン]

選択した監視ノードのビジュアルアイコンのファイル名が表示されます。[変更]をクリックすると、[ビジュアルアイコン選択]画面が表示され、ビジュアルアイコンを変更できます。

なお、ビジュアルアイコンを設定していない監視ノードの場合、ファイル名は表示されません。

[背景画像設定]

[監視ツリー]画面の詳細表示領域を[アイコン表示]にしたときに表示される背景を変更できます。なお、背景の変更は、[監視ツリー(編集中)]画面でだけ、かつ、監視グループに対してだけ行えます。

このボタンをクリックすると、[背景画像設定]画面が表示されます。

[状態更新日時]

選択した監視ノードが更新された日時が表示されます。

[状態]

選択した監視ノードの正常、エラーなどの状態が表示されます。[監視]または[非監視]を選択することで、監視状態を変更できます。

[JP1 資源グループ]

設定している JP1 資源グループ名が表示されます。この項目は、監視ツリーの監視範囲設定を有効にしている場合にのみ表示されます。[監視ツリー]画面から表示した場合は非活性で、JP1 資源グループは変更できません。JP1 資源グループを変更したい場合は、[監視ツリー(編集中)]画面から設定してください。最上位の監視ノードの場合、JP1 資源グループを必ず設定してください。デフォルトでは、「JP1_Console」が設定されています。

JP1 資源グループを変更する場合は次の制限があります。

- 文字長は 0～64 バイト、ただし最上位の監視ノードの場合 1～64 バイト。
- 入力可能な文字種は印刷できる ASCII 文字だけ。ただし、「"/[] ; : = , + ? < >」, タブ, スペースおよび制御文字は使用できない。

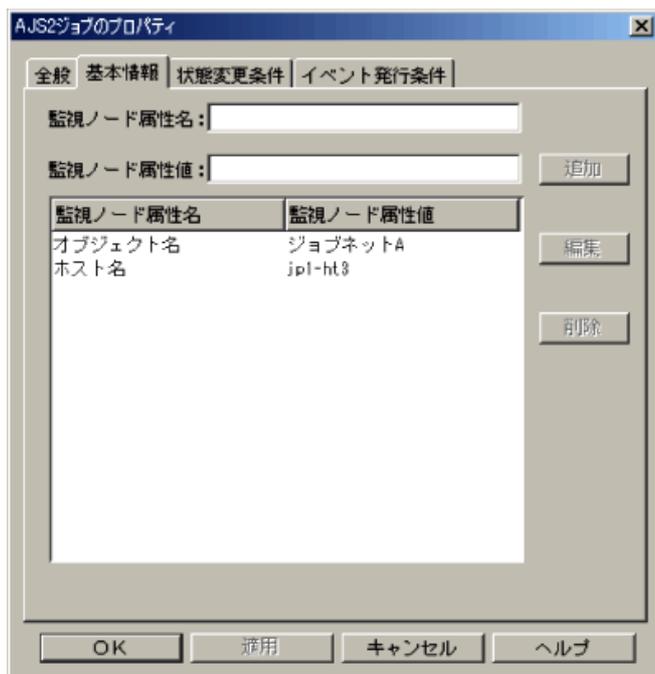
[全般] ページ内の表示項目の変更を反映したい場合は、[OK] または [適用] をクリックしてください。

(2) [基本情報] ページ

選択した監視ノードの基本情報を表示、設定します。

[プロパティ] 画面の [基本情報] ページを次に示します。

図 1-56 [プロパティ]画面([基本情報]ページ)



表示項目を次に示します。

[監視ノード属性名]および[監視ノード属性値]

[追加]をクリックすると、ここで入力した値が基本情報表示フィールドに表示されます。登録できる基本情報には次の制限があります。

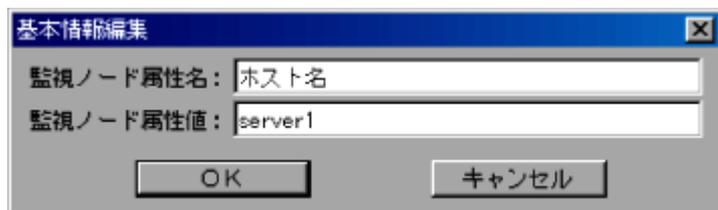
- 登録できる基本情報の数は最大 5
- 監視ノード属性名は一意(登録済みの監視ノード属性名は使用できません)
- 監視ノード属性名は 1～32 バイト
- 監視ノード属性値は 1～1,023 バイト
- 監視ノード属性値の合計値は 1,280 バイト以内

基本情報表示フィールド

選択した監視ノードの基本情報が表示されます。

基本情報表示フィールドで、監視ノード属性名、または監視ノード属性値を選択し、[編集]をクリックすると、[基本情報編集]画面が表示され、設定済みの値を変更できます。[削除]をクリックすると、選択した値は削除されます。

図 1-57 [基本情報編集]画面



(3) [状態変更条件]ページ

選択した監視ノードの状態を変更するためのイベント条件を表示、設定します。

[プロパティ]画面の[状態変更条件]ページを次に示します。

図 1-58 [プロパティ]画面([状態変更条件]ページ)



表示項目を次に示します。

状態変更条件表示フィールド

監視ノードの状態を変更するための条件が表示されます。表示される項目は、条件名、状態です。

状態変更条件表示フィールドで、条件を選択し、[編集]をクリックすると、監視ノードの状態を変更するための条件を設定する[状態変更条件設定]画面が表示されます。なお、[状態変更条件設定]画面には、条件として設定した内容が反映された状態で表示されます。

例えば、監視オブジェクトに設定した条件を選択していた場合、[状態変更条件設定]画面には、選択した監視イベントの条件が表示されます。

[追加]をクリックすると、監視ノードの状態を変更するための条件を設定する[状態変更条件設定]画面が表示されます。追加した条件はいちばん下に表示されます。

一つの監視オブジェクト、監視グループに対し、設定できる状態変更条件の数は最大で8です。

状態変更条件表示フィールドで、条件を選択し、[削除]をクリックすると、条件が削除されます。

(4) [イベント発行条件]ページ

選択した監視ノードの状態が変更するタイミングで、JP1 イベントを発行できます。[イベント発行条件]ページでは、JP1 イベントを発行する状態を条件として設定します。

ここで設定した条件が成立したとき、JP1/IM - Manager から状態変更イベントが送信されます。自動アクションを設定するには、JP1/IM - View でこのイベントを指定します。

[プロパティ]画面の[イベント発行条件]ページを次に示します。

図 1-59 [プロパティ]画面([イベント発行条件]ページ)



表示項目を次に示します。

イベント発行条件表示フィールド

監視ノードがどの状態に変化したときに、JP1 イベントを発行するかを指定します。JP1 イベントを発行する場合は、状態(緊急, 警戒, 致命的, エラー, 警告, 正常, デバッグ)横のチェックボックスにチェックを入れます。

40. [アイコン選択]画面

[監視ツリー]画面, および[ビジュアル監視]画面で使用する監視ノードのアイコンを選択する画面です。この画面は, [プロパティ]画面の[全般]ページで「アイコン」の[変更]をクリックすると表示されます。

[アイコン選択]画面の例を示します。

図 1-60 [アイコン選択]画面



[アイコン選択]画面の一覧に表示されたアイコンを選択し, [OK]をクリックすると, 指定した監視ノードのアイコンが変更されます。なお, 独自に作成したアイコンを[アイコン選択]画面に表示するには, 次を示す JP1/IM - View のフォルダに格納してください。また, 複数のホストで JP1/IM - View を使用する場合は, 作成したアイコンを各ビューアーホストへ配布してください。選択できる画像の格納場所, 形式, およびサイズは次のとおりです。

選択できる画像の格納場所

View パス¥image¥icon¥

指定できるファイル名の最大長は, ファイルの格納パスおよびファイル名 (拡張子含む) を合わせて 260 バイトまでです。

選択できる画像の形式

- JPEG
- GIF*
- PNG

注※ アニメーション GIF は使用できません。

選択できる画像のサイズ

16×16 ピクセル

参考

監視グループに状態変更条件を定義すると, [アイコン選択]画面で選択したアイコンにマークが付加されます。例えば, , , , のようになります。

41. [ビジュアルアイコン選択]画面

[監視ツリー]画面(詳細表示領域を[アイコン表示]にしたとき), および[ビジュアル監視]画面で使用する監視ノードのビジュアルアイコンを選択する画面です。この画面は, [プロパティ]画面の[全般]ページで「ビジュアルアイコン」の[変更]をクリックすると表示されます。

[ビジュアルアイコン選択]画面の例を示します。

図 1-61 [ビジュアルアイコン選択]画面



[ビジュアルアイコン選択]画面の一覧に表示されたビジュアルアイコンを選択し, [OK]をクリックすると, 指定した監視ノードのビジュアルアイコンが変更されます。なお, ビジュアルアイコンを[ビジュアルアイコン選択]画面の一覧に表示するには, 次に示す JP1/IM - View のフォルダを作成し, 事前にファイルを格納しておく必要があります。また, 複数のホストで JP1/IM - View を使用する場合は, ビジュアルアイコンを各ビューアーホストに配布してください。

ビジュアルアイコンとして使用する画像の格納場所, 形式, およびサイズは次のとおりです。

画像の格納場所

View パス¥image¥visual¥

指定できるファイル名の最大長は, ファイルの格納パスおよびファイル名(拡張子含む)を合わせて 260 バイトまでです。

画像の形式

- JPEG
- GIF*
- PNG

注※ アニメーション GIF は使用できません。

画像のサイズ

最小サイズ:24×24 ピクセル

最大サイズ:2,048×2,048 ピクセル

ファイル一覧でファイル名を選択すると, プレビューに画像とサイズが表示されます。監視ノードにビジュアルアイコンを設定しない場合は, ファイル一覧で[ビジュアルアイコンなし]を選択してください。

42. [状態変更条件設定]画面

[監視ツリー]画面, または[監視ツリー(編集中)]画面で選択した監視ノードの状態変更条件を設定する画面です。この画面は, [プロパティ]画面の[状態変更条件]ページで, [追加]ボタンまたは[編集]をクリックすると表示されます。

<この項の構成>

- (1) 監視オブジェクトの[状態変更条件設定]画面
- (2) 監視グループの[状態変更条件設定]画面

(1) 監視オブジェクトの[状態変更条件設定]画面

監視オブジェクトの[状態変更条件設定]画面の例を示します。

図 1-62 監視オブジェクトの[状態変更条件設定]画面

状態変更条件として設定する内容は、「[6. システム監視オブジェクト一覧\(統合スコープ用\)](#)」を参考にしてください。

なお, ここで設定する[共通条件]と[個別条件], および複数の[個別条件]はすべて AND 条件となります。

表示項目を次に示します。

[条件名]

監視オブジェクトの状態を変更するためのイベント条件名を入力します。指定できる文字数は 63 バイトまでです。

[状態]

監視オブジェクトの状態を緊急, 警戒, 致命的, エラー, 警告, 正常, デバッグ, 初期状態から選択します。

[条件]

[共通条件設定]画面で設定されている共通条件をリストボックスから選択できます。[共通条件設定]をクリックし, 表示される[共通条件設定]画面で共通条件の追加, 編集ができます。

[条件]

個別属性名, 個別属性値が入力できます。また, 入力した個別属性値に対する条件を指定できます。

個別条件にJP1 イベントの基本属性を入力するときは、基本属性名の先頭に「B.」を、拡張属性を入力するときは、拡張属性名の先頭に「E.」を付けてください。

また、登録できる個別条件には次の制限があります。

- 登録できる個別条件の数は最大 5
- 個別属性名は 1～32 バイト
- 個別属性名には、先頭が英大文字で、以降英大文字、数字、および_(アンダーバー)。英小文字が入力された場合は、自動的に英大文字で表示されます。
- 個別属性値は 1～1,023 バイト
- 個別属性値の合計は 1,280 バイト以内
- 個別属性名が等しい条件を指定できますが、比較条件「と一致する」は複数指定できません。
- 同一の個別属性名、個別属性値を指定した場合、比較条件として「と一致する」と「と一致しない」は混在できません。

個別属性値の右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現][ホスト名比較]のどれかを選択します。[ホスト名比較]を選択した場合は、JP1/IM - Manager が保持するホスト情報を参照して比較します。[と一致する]でホスト名を比較した場合との違いについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 3.3.9(2) ホスト情報」を参照してください。

[追加]をクリックすると、入力した値が画面下の個別条件表示フィールドに追加されます。

個別条件表示フィールドで、個別属性名、個別属性値、または条件を選択し、[編集]をクリックすると、[個別条件編集]画面が表示され、設定済みの条件を編集できます。[削除]をクリックすると、選択した行が削除されます。

図 1-63 [個別条件編集]画面



個別属性に JP1 イベントの拡張属性の共通情報、および固有情報を指定する場合は、[「4. JP1 イベント」](#)を参照してください。

(2) 監視グループの[状態変更条件設定]画面

監視グループの[状態変更条件設定]画面の例を示します。

図 1-64 監視グループの[状態変更条件設定]画面

The screenshot shows a dialog box titled "状態変更条件設定" (Status Change Condition Setting). It contains the following elements:

- 変更条件 (Change Condition):**
 - 条件名 (Condition Name): A text input field.
 - 状態 (Status): A dropdown menu.
- 上位伝播条件 (Upper Propagation Condition):**
 - 子ノードの状態 (Child Node Status): A dropdown menu.
- 比較条件 (Comparison Condition):**
 - Two radio buttons are present, one of which is selected.
 - Input fields for the selected condition, followed by "%以上" (above %) and "個以上" (above count).
- Buttons:** OK, キャンセル (Cancel), and ヘルプ (Help).

表示項目を次に示します。

[条件名]

監視グループの状態を変更するための条件名を入力します。指定できる文字数は 63 バイトまでです。なお、一つの監視グループに同じ条件名は複数指定できません。

[状態]

条件に一致したときに、監視グループが変更される状態を緊急、警戒、致命的、エラー、警告、正常、デバッグから選択します。

[子ノードの状態]

監視グループの状態の変更契機となる、下位の監視ノードの状態を緊急、警戒、致命的、エラー、警告、正常、デバッグから選択します。

[比較条件]

比率、個数のどちらか一つのラジオボタンを選択して、条件を入力します。

- 比率
1~100 の整数値を入力します。100 を入力した場合は、すべての子ノードが対象になります (ALL 指定)。
- 個数
1~50,000 の整数値を入力します。なお、50,001 以上の値を入力した場合は、[OK]ボタンをクリックしたときにエラーになります。

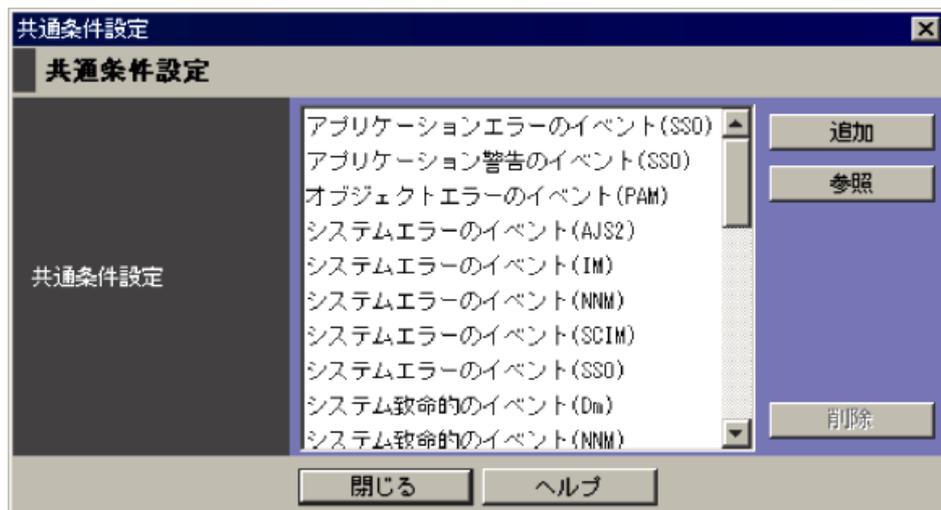
43. [共通条件設定]画面

[共通条件設定]画面は、監視オブジェクトの状態変更条件(共通条件)を追加、削除、編集または参照するための画面です。

この画面は、[監視ツリー]画面で[オプション]－[共通条件設定]を選択するか、[状態変更条件設定]画面で[共通条件設定]をクリックすると表示されます。

[共通条件設定]画面を次に示します。

図 1-65 [共通条件設定]画面



表示項目を次に示します。

[共通条件設定]

監視オブジェクトの状態を変更する共通条件が一覧で表示されます。

[監視ツリー]画面によるシステムの運用監視時に、この[共通条件設定]画面を呼び出した場合は、JP1/IM - Manager が保持する共通条件が表示されます。

例えば、[監視ツリー]画面のメニューから[オプション]－[共通条件設定]選択して[共通条件設定]画面を表示した場合、JP1/IM - Manager が保持する共通条件が表示されます。

[監視ツリー(編集中)]画面による監視ツリー編集時にこの[共通条件設定]画面を呼び出した場合は、下記条件により、表示される共通条件が異なります。

1. 監視ツリー新規作成時:JP1/IM - View が保持するデフォルトの共通条件
2. ローカル保存した CSV ファイル利用時:読み込んだ CSV ファイルに保存されている共通条件
3. [サーバからツリーを取得], [ツリーの自動生成], または[最新定義取得]実施後:JP1/IM - Manager が保持する共通条件

例えば、[監視ツリー(編集中)]画面を開き、そのままメニューから[オプション]－[共通条件設定]を選択して[共通条件設定]画面を表示した場合、JP1/IM - View が保持する共通条件が表示されます(上記条件 1.)。

[監視ツリー(編集中)]画面のメニューから[ファイル]－[ツリーを開く]を選択し、ローカル保存した CSV ファイルを開いた後、[共通条件設定]画面を表示した場合には、CSV ファイルに保存されている共通条件が表示されます(上記条件 2.)。

[監視ツリー(編集中)]画面のメニューから[最新定義取得]を選択し、JP1/IM - Manager から最新定義を取得した後、[共通条件設定]画面を表示した場合には、JP1/IM - Manager が保持する共通条件が表示されます(上記条件 3.)。

[追加]

共通条件を追加するための[共通条件詳細設定]画面が表示されます。

ユーザーが編集可能な共通条件がすでに 191 件登録されている場合、このボタンは操作できません。

[参照]または[編集]

選択した共通条件がシステム定義の場合は[参照]に、ユーザー定義の場合は[編集]になります。

[編集]をクリックした場合は[共通条件詳細設定]画面が表示され、共通条件の詳細を変更できます([参照]の場合は変更できません)。

[削除]

選択した共通条件が削除されます。

44. [共通条件詳細設定]画面

共通条件の詳細を設定します。この画面は、[共通条件設定]画面で[追加]ボタン、[編集]ボタン、または[参照]をクリックすると表示されます。[共通条件詳細設定]画面を次に示します。

図 1-66 [共通条件詳細設定]画面

表示項目を次に示します。

[共通条件名]

監視オブジェクトの状態を変更する共通条件の名称が表示、設定します。

[登録ホスト]

JP1 イベントが発生したホストの名称を指定します。

複数のホスト名を指定する場合は、コンマで区切って指定します。ホスト名は最大 100 指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、「¥,」または「¥¥」と指定してください。右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][含まない][正規表現]のどれかを選択します。[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけ設定できます。

[重大度]

JP1 イベントの重大度を指定します。緊急、警戒、致命的、エラー、警告、通知、情報、デバッグの中から必要な項目をチェックします。

[オブジェクトタイプ]

JP1 イベントのオブジェクトタイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[オブジェクト名]

JP1 イベントのオブジェクト名を指定します。

複数のオブジェクトを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 個のオブジェクト名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけを設定できます。

[登録名タイプ]

JP1 イベントの登録名タイプを指定します。値は、直接入力するかリストボックスから選択します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[登録名]

JP1 イベントの登録名を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[事象種別]

JP1 イベントの事象種別を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[ユーザー名]

JP1 イベントのユーザー名を指定します。

複数のユーザーを指定したい場合は、コンマで区切って指定します。最大 100 人のユーザー名が指定できます。名称に「,」または「¥」を指定する場合は、それぞれ「¥,」または「¥¥」と指定します。改行やタブは指定できません。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[正規表現]を選択した場合は、一つの条件だけを設定できます。

[メッセージ]

JP1 イベントのメッセージテキストを指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[プロダクト名]

JP1 イベントを発行したプログラムの名称を指定します。

右側のリストボックスでは、指定した文字列に対する条件として、[と一致する][と一致しない][から始まる][を含む][を含まない][正規表現]のどれかを選択します。

[イベント ID]

JP1 イベントの ID を 16 進数で指定します。

複数のイベント ID を指定したい場合は、コンマで区切って指定します。

イベント ID は最大 113 指定できます。

[拡張属性]

重大度以外の拡張属性名、拡張属性値が入力できます。登録できる拡張属性には次の制限があります。

- 登録できる拡張属性の数は最大 5
- 拡張属性名は一意(登録済みの拡張属性名は使用できません)
- 拡張属性名は 1～32 バイト
- 拡張属性名には、先頭が英大文字で、以降英大文字、数字、および_(アンダーバー)。英小文字が入力された場合は、自動的に英大文字で表示されます。
- 拡張属性値は 1～1,023 バイト
- 拡張属性値の合計は 1,280 バイト以内
- 拡張属性値は正規表現で入力します。正規表現の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド 付録 G 正規表現」を参照してください。

[追加]をクリックすると、入力した値が画面下の拡張属性表示フィールドに追加されます。拡張属性表示フィールドで、拡張属性名、または拡張属性値を選択し、[編集]をクリックすると、[拡張属性編集]画面が表示され、設定済みの条件を編集できます。[削除]をクリックすると、選択した行が削除されます。

図 1-67 [拡張属性編集]画面

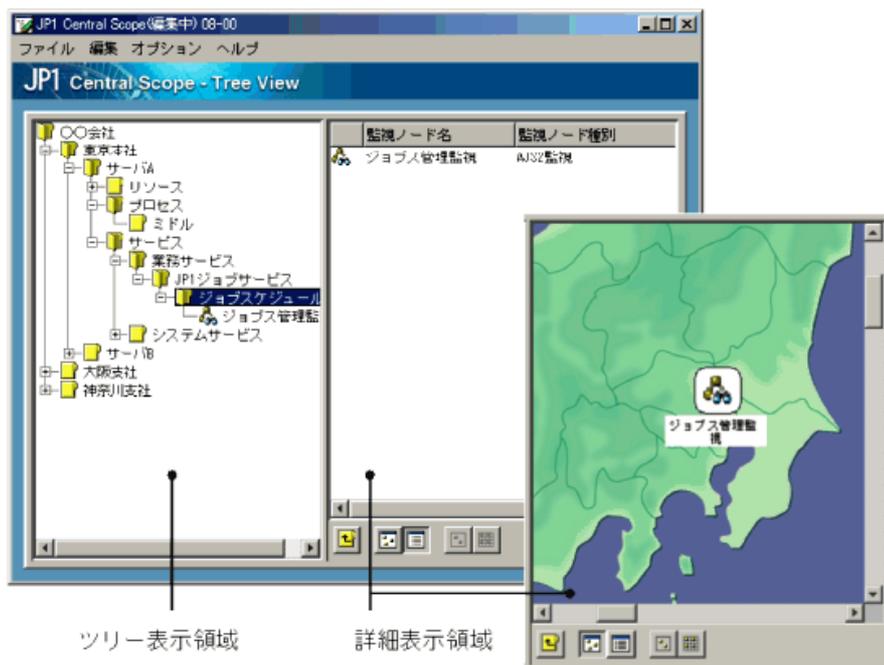


45. [監視ツリー(編集中)]画面

[監視ツリー(編集中)]画面は、[監視ツリー]画面で監視する監視ノードを設定するための画面です。この画面で設定した内容を監視オブジェクトDBに反映すると、ログインしているすべてのビューアーに設定内容が反映されます。この画面は、[監視ツリー]画面で[オプション]－[ツリー編集]を選択すると表示されます。

[監視ツリー(編集中)]画面の例を次に示します。

図 1-68 [監視ツリー(編集中)]画面



表示項目を次に示します。

ツリー表示領域

監視する業務システムを構成している要素をツリー構造で表示します。ツリー表示領域に表示される項目については、「[1.4 \[監視ツリー\]画面](#)」の説明を参照してください。ただし、[監視ツリー(編集中)]画面では、仮想ルートノードは表示されません。

詳細表示領域

ツリー表示領域で選択した監視グループの子ノード、またはツリー表示領域で選択した監視オブジェクトの詳細情報(監視ノード名、監視ノード種別)が表示されます。詳細表示領域に表示される項目については、「[1.4 \[監視ツリー\]画面](#)」の説明を参照してください。  をクリックす

るとマップ表示に、  をクリックすると詳細表示に切り替えることができます。



[上の監視グループへ]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視ノードの親監視グループを選択します。ツリー表示領域内では、フォーカスが移動し、詳細表示領域では、フォーカスが移動した監視グループの詳細が表示されます。



[アイコン表示]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視グループまたは監視オブジェクトの情報を詳細表示領域にマップ表示します。アイコンの位置を少しでも動かすと、位置が記憶され、固定します。この画面で設定したアイコンの位置は、[監視ツリー]画面のマップ表示に引き継がれます。



[詳細表示]ボタン

ツリー表示領域で選択されている監視グループまたは監視オブジェクトの情報を詳細表示領域に詳細表示します。



[矩形選択]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択する場合にクリックします。このボタンが選択された状態で、マップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。詳細表示されている場合は、このボタンは非活性です。



[等間隔に整列]ボタン

監視グループまたは監視オブジェクトのアイコン位置情報をリセットし、等間隔に整列して、固定します。この画面で設定したアイコンの位置は、[監視ツリー]画面のマップ表示に引き継がれます。詳細表示されている場合は、このボタンは非活性です。

ポップアップメニュー

ツリー表示領域および詳細表示領域でマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューを表示できます。

なお、次のポップアップメニューは、特定の条件を満たした場合だけ表示されます。

[背景画像設定]

マップ表示時に詳細表示領域のアイコンを選択していない状態(アイコン以外の領域)で右クリックした場合に選択できます。

マップ表示時の背景画像を読み込みます。

[表示順序]

[ビジュアルアイコンを使用]メニューにチェックマークが付いている場合に選択できます。複数の監視ノードが選択されている場合でも、このメニューは選択できます。

監視ノードの表示順序を次のメニューから変更できます。

- [最前面へ移動]
選択している監視ノードを最前面に表示します。
- [前面へ移動]
選択している監視ノードを前面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り上げます。
- [背面へ移動]
選択している監視ノードを背面にある監視ノードから順に、表示順序を一つ繰り下げます。
- [最背面へ移動]
選択している監視ノードを最背面に表示します。

そのほかのポップアップメニュー項目については、次のメニュー項目の説明を参照してください。

次に、[監視ツリー(編集中)]画面のメニュー項目を説明します。

表 1-16 [監視ツリー(編集中)]画面のメニュー項目

メニュー	コマンド	機能
ファイル	新規作成	ツリーを新規に作成します。[編集]の[新規監視ノード作成]を行うと、監視ノード ID は 00000001 から採番されます。
	ツリーを開く	ローカルにあるツリー構成ファイルを読み込みます。読み込んだツリー構成ファイルのバージョンが、タイトルバーに表示されます。
	ツリーを保存	ツリー構成情報をローカルにあるツリー構成ファイルに CSV 形式で保存します。
	サーバからツリーを取得	JP1/IM - Manager にあるツリー構成情報を取得します。 メニューを選択すると[ログイン]画面が表示され、ログイン※すると、JP1/IM - Manager の監視ツリーが取得されます。取得した JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB のバージョンがタイトルバーに表示されます。 このメニューは、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
	サーバのツリーを更新	[監視ツリー(編集中)]画面で編集したツリー構成情報を JP1/IM - Manager の監視オブジェクト DB に反映します。 メニューを選択すると[ログイン]画面が表示され、ログイン※すると、現在表示されているツリー構成情報が JP1/IM - Manager の監視ツリーに反映されます。 このメニューは、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
	ログイン情報を保持する	チェックマークが付いた状態の場合、一度目のログイン情報を保持し、二度目以降のサーバへ接続する操作では[ログイン]画面が表示されません。
	終了	[監視ツリー(編集中)]画面を閉じます。
編集	監視状態変更	[監視ツリー(編集中)]画面で選択している監視ノードの監視状態をチェックマークで表示します。 チェックマークの付いていない状態を選択することで、監視ノードの監視状態を変更できます。
	切り取り	選択した監視ノードを切り取ります。ルート監視ノードが選択されている場合、このメニューは選択できません。
	コピー	選択した監視ノードをコピーします。ルート監視ノードが選択されている場合、このメニューは選択できません。
	貼り付け	切り取り、またはコピーされている監視ノードを、選択している監視グループの子ノードとして貼り付けます。
	新規監視ノード作成	選択した監視グループの子ノードを追加するために、[新規監視ノード作成]画面を表示します。 マップ表示時に監視ノードを作成した場合、追加した監視ノードアイコンの位置情報が確定していないため、詳細表示領域の左上から順

		に自動整列されて表示されます。
	削除	選択した監視ノードを削除します。 マップ表示時に監視ノードを削除した場合、削除したものの以外の位置情報が確定していない監視ノードアイコンは、詳細表示領域の左上から順に自動整列されて表示されます。
	すべて削除	[監視ツリー(編集)]画面に表示中の監視ノードをすべて削除します。このメニューは CSV ファイル(ツリー構成ファイル)を開いてツリーを編集に、すべて削除して編集をやり直す場合などに使用します。このメニューを選択すると、ツリーはクリアされますが、編集対象となっている CSV ファイルは変わりません。
	元に戻す	[監視ツリー(編集)]画面で、監視ノードに対して、最後に行ったツリーの親子関係の編集を編集前の状態に戻します。
	やり直し	[元に戻す]で編集前の状態に戻した操作を取り消します。
	検索	[監視ツリー(編集)]画面の監視ツリーから、監視ノードを検索するために、[検索]画面を表示します。監視グループを選択した場合、選択した監視グループ、およびその子ノードが検索範囲となります。すでに[検索]画面が表示されている場合は、最前面に表示します。
	新規ビジュアル監視画面作成	[ビジュアル監視(編集)]画面を表示します。
	ビジュアル監視画面一覧編集	[ビジュアル監視画面一覧編集]画面を表示します。 メニューを選択すると[ログイン]画面が表示され、ログイン*すると、[ビジュアル監視画面一覧編集]画面が表示されます。 このメニューは、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
	プロパティ	[監視ツリー(編集)]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[全般]タブが選択された状態で表示します。
オプション	アイコン表示	[監視ツリー(編集)]画面で選択している監視グループまたは監視オブジェクトの情報を、詳細表示領域にマップ表示します。 アイコンの位置を少しでも動かすと、位置が記憶され、固定します。 この画面で設定したアイコンの位置は、[監視ツリー]画面のマップ表示に引き継がれます。
	詳細表示	[監視ツリー(編集)]画面で選択している監視グループまたは監視オブジェクトの情報を、詳細表示領域に詳細表示します。
	ビジュアルアイコンを使用	ビジュアルアイコンを使用するかどうかをチェックマークで表示します。 チェックした場合、詳細表示領域(マップ表示時)および[ビジュアル監視]画面に、監視グループまたは監視オブジェクトに設定しているビジュアルアイコンを表示します。
	等間隔に整列	監視グループまたは監視オブジェクトのアイコン位置情報をリセットし、等間隔に整列して、固定します。この画面で設定したアイコンの位置は、[監視ツリー]画面のマップ表示に引き継がれます。詳細表

		示されている場合は、このボタンは非活性です。
	矩形選択	監視グループまたは監視オブジェクトのアイコンを同時に複数選択します。チェックマークで選択した状態でマップ上をマウスの左ボタンでドラッグすると、矩形が描かれます。矩形内に入ったすべてのアイコンが選択されます。
	ツリーの自動生成	監視ツリーを自動生成するために、[自動生成－構成選択]画面を表示します。 メニューを選択すると[ログイン]画面が表示され、ログイン※すると、[自動生成－構成選択]画面が表示されます。このメニューから監視ツリーを自動生成する場合は、jp1admin ユーザーでログインしてください。 (備考)運用上の理由で jp1admin ユーザーを削除している場合は、連携製品の定義情報にアクセスできる権限レベルを持つ JP1 ユーザーでログインし、自動生成を行ってください。
	監視範囲の設定	監視ツリーの監視範囲設定をチェックマークで表示します。チェックした場合、JP1 資源グループ単位の監視範囲の設定を有効にします。
	基本情報	[監視ツリー(編集中)]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[基本情報]タブが選択された状態で表示します。
	状態変更条件	[監視ツリー(編集中)]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[状態変更条件]タブが選択された状態で表示します。
	共通条件設定	[共通条件設定]画面を表示します。[共通条件設定]画面では、JP1/IM - Manager が管理する共通条件を追加、削除、編集または参照できます。 このメニューは、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
	イベント発行条件	[監視ツリー(編集中)]画面で選択している監視ノードの[プロパティ]画面を、[イベント発行条件]タブが選択された状態で表示します。
	最新定義取得	JP1/IM - Manager にある、次の定義の最新情報を取得します。 <ul style="list-style-type: none"> 全共通条件 メニューを選択すると[ログイン]画面が表示され、ログイン※すると、最新情報が取得されます。 このメニューは、JP1 資源グループが JP1_Console で、JP1_Console_Admin 権限を持つユーザーだけが使用できます。
ヘルプ	ヘルプ	ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報	JP1/IM - View のバージョン情報を表示します。

注※ [ログイン情報を保持する]にチェックを付けておくと、一度ログインすれば、ログアウトするまでユーザー名・パスワード・接続ホスト名が保持されるため、以降のサーバ接続操作でログインの操作は必要ありません。

[監視ツリー(編集中)]画面のタイトルバーの表示について

[監視ツリー(編集中)]画面のタイトルバーには、次の二つの情報が表示されます。

バージョン情報

[監視ツリー(編集中)]画面に編集対象の監視ツリーのデータバージョンが表示されます。デフォルトでは「08-10」と表示されます。

サーバへの接続操作をすると、サーバの JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) のバージョンに表示が変わります。また、ローカルホストに保存した CSV ファイルを開くと、CSV ファイルのデータバージョンに表示が変わります。

バージョン情報は、サーバの監視ツリーまたは CSV ファイルのデータバージョンです。製品のバージョンではありません。

ログイン情報

ログイン情報の保持を有効にしている場合に表示されます。デフォルトは無効です(ログイン情報は表示されていません)。

メニューから[ファイル]-[ログイン情報を保持する]にチェックマークを付けたあと、次に示す操作をしたときに有効になります。

表 1-17 ログインを必要とする操作

画面名	操作	説明
監視ツリー (編集中)	[ファイル]-[サーバからツリーを取得]を選択	監視ツリーの既存の設定を JP1/IM - Manager から取得する。
	[ファイル]-[サーバのツリーを更新]を選択	監視ツリーの編集内容を JP1/IM - Manager に反映する。
	[オプション]-[ツリーの自動生成]を選択	監視ツリーを自動生成する。
	[オプション]-[最新定義取得]を選択	JP1/IM - Manager 上の共通条件定義の最新情報を取得する。
	[編集]-[ビジュアル監視画面一覧編集]を選択	[ビジュアル監視画面一覧編集]画面を表示する。
ビジュアル 監視(編集 中)	[サーバからのビジュアル監視データを取得]ボタンをクリック	JP1/IM - Manager 上のビジュアル監視データを読み込む。
	[サーバのビジュアル監視データを更新]ボタンをクリック	編集したビジュアル監視データを JP1/IM - Manager 上に反映する。

一度[ログイン情報を保持する]を有効にすると、次回以降[監視ツリー(編集中)]画面を開いたときでも、設定は有効のままです。

なお、設定が有効になっている場合、次のように表示されます。

ログイン情報: ユーザー名@ホスト名(または IP アドレス)

図 1-69 ログイン情報の保持有無によるタイトルバーの違い



なお、自動ログインでエラーが発生した場合には、保持されているログイン情報が破棄されます。エラーダイアログが表示され、操作の処理が中断されます。

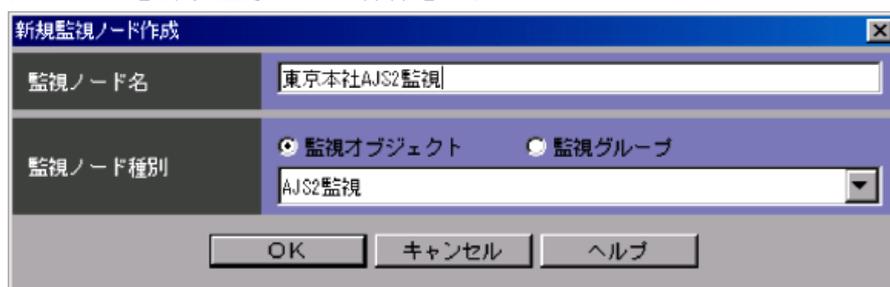
この場合は再度ログインを必要とする操作をしたときに、[ログイン]画面が表示され、ここで入力したログイン情報が保持されます。

46. [新規監視ノード作成]画

[新規監視ノード作成]画面は、[監視ツリー(編集)]画面で選択した監視グループの子ノードを追加するための画面です。この画面は、[監視ツリー(編集)]画面で[編集]－[新規監視ノード作成]を選択すると表示されます。

[新規監視ノード作成]画面を次に示します。

図 1-70 [新規監視ノード作成]画面



表示項目を次に示します。

[監視ノード名]

新規作成する監視ノードの名称を入力します。1～255 バイトの名称が指定できます。名称にタブは設定できません。

[監視ノード種別]

新規作成する監視ノードの種別を選択します。監視オブジェクト、監視グループどちらかを選択します。監視オブジェクトを選択した場合は、さらにリストボックスからシステム監視オブジェクト (AJS2 監視や SSO 監視など)、または汎用監視オブジェクト (汎用オブジェクト)を選択します。システム監視オブジェクトを選択した場合に[OK]をクリックすると、[基本情報設定]画面が表示されます。

47. [基本情報設定]画面

[基本情報設定]画面は、[新規監視ノード作成]画面で選択したシステム監視オブジェクトに対する基本情報を設定するための画面です。この画面は、[新規監視ノード作成]画面の[監視ノード種別]でシステム監視オブジェクトを選択し、[OK]をクリックすると表示されます。

[基本情報設定]画面の例を次に示します。

図 1-71 [基本情報設定]画面



[基本情報設定]画面の表示項目は、[新規監視ノード作成]画面で選択したシステム監視オブジェクトによって異なります(画面は表示される項目の一例です)。

設定する内容は、「[6. システム監視オブジェクト一覧\(統合スコープ用\)](#)」を参考にしてください。

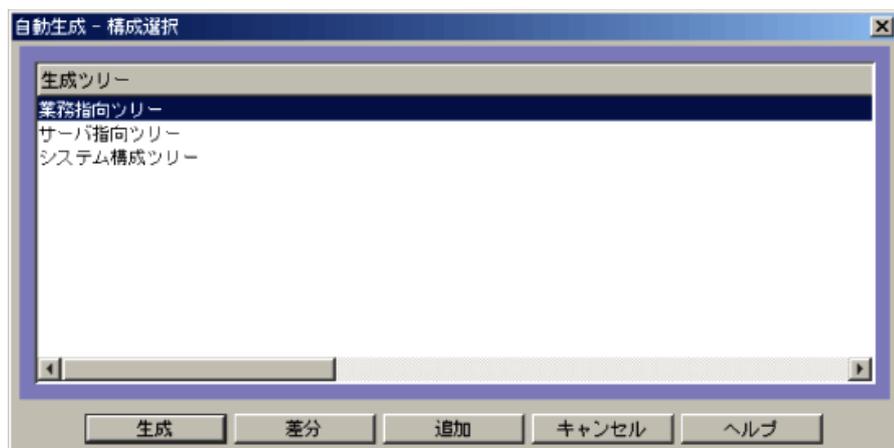
各項目の入力上限は 1,023 バイト、全項目を合計しての入力上限は 1,280 バイトです。また最大項目数は 5 項目です。

48. [自動生成－構成選択]画面

[自動生成－構成選択]画面は、ツリーを自動生成するときのツリー構成を選択するための画面です。この画面は、[監視ツリー(編集集中)]画面で[オプション]－[ツリーの自動生成]を選択すると表示されます。

[自動生成－構成選択]画面を次に示します。

図 1-72 [自動生成－構成選択]画面



表示項目を次に示します。

[生成ツリー]

[監視ツリー(編集集中)]画面の監視ツリーを自動生成するためのテンプレートを表示します。

[生成]

生成ツリーのリストで選択しているテンプレートに従って、システムから定義情報を収集し、[監

視ツリー(編集中)]画面に表示します(既存の[監視ツリー(編集中)]画面の監視ツリーは置き換わります)。

[差分]

生成ツリーのリストで選択しているテンプレートに従って、システムから定義情報を収集し、現在の JP1/IM - Manager 上の監視ツリーとの差分を JP1/IM - Manager 上の監視ツリーに追加し、この監視ツリーで[監視ツリー(編集中)]画面を置き換えます。

[追加]

生成ツリーのリストで選択しているテンプレートに従って、システムから定義情報を収集します。既存の監視ツリーに加えて、新規に監視ツリーを生成します。新規の監視ツリーは [NEW_TREE] という名称の監視グループ下に生成されます。

49. [ログインユーザー一覧]画面

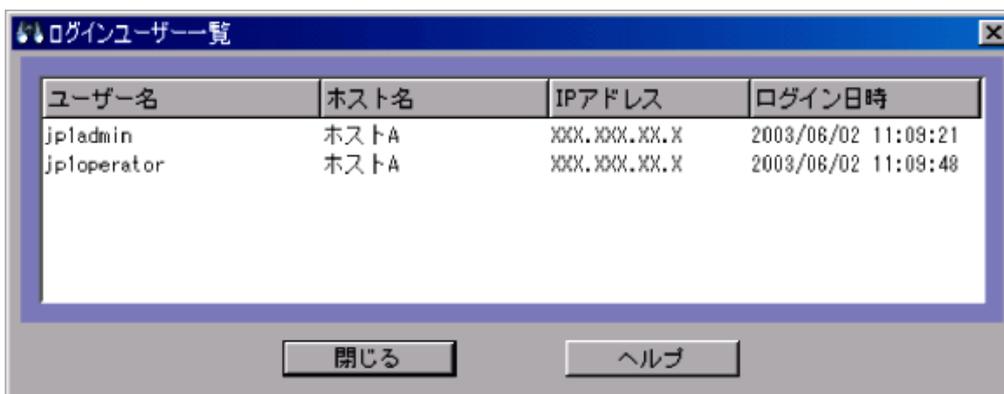
[ログインユーザー一覧]画面には、JP1/IM - Manager (JP1/IM - Central Scope) へログインしているユーザーが一覧表示されます。この画面は、[監視ツリー]画面で[オプション]-[ログインユーザー一覧]を選択すると表示されます。

一覧表示されるユーザー情報は次の 4 項目です。

- ユーザー名
- ホスト名
- IP アドレス
- ログイン日時

[ログインユーザー一覧]画面を次に示します。

図 1-73 [ログインユーザー一覧]画面



50. 画面操作上の注意事項

画面を操作する上での注意事項を次に示します。

- 画面でのキー操作は、明示されているショートカットキー以外は動作を保証していません。マウスで操作してください。
- JP1/IM - Manager への問い合わせ中は、画面が再描画されません。その間に、画面の位置を移動したりほかの画面を重ねたりすると一時的に描画が不正になることがあります。この現象は、JP1/IM - Manager への問い合わせが完了したときに回復します。
- 外字、次に示す文字、および特定の制御コード(以下「[表 1-18 対象となる制御コード](#)」参照)については、画面表示で文字が化けることや、その文字として処理されないことがあります。

— ~ || ☩ £ — ー

表 1-18 対象となる制御コード

コード	値	説明
00	NUL	NUL(ヌル)
01	SOH	Start Of Heading(ヘッダ開始)
02	STX	Start of TeXt(テキスト開始)
03	ETX	End of TeXt(テキスト終了)
04	EOT	End Of Transmission(転送終了)
05	ENQ	ENQuiry(問合せ)
06	ACK	ACKnowledge(肯定応答)
07	BEL	BELl(ベル)
08	BS	Back Space(後退)
09	HT	Horizontal Tabulation(水平タブ)
0A	LF	Line Feed(改行)
0B	VT	Vertical Tabulation(垂直タブ)
0C	FF	Form Feed(改ページ)
0D	CR	Carriage Return(復帰)
0E	SO	Shift Out(シフトアウト)
0F	SI	Shift In(シフトイン)
10	DLE	Data Link Escape(伝送制御拡張)
11	DC1	Device Control 1(装置制御 1)
12	DC2	Device Control 2(装置制御 2)
13	DC3	Device Control 3(装置制御 3)
14	DC4	Device Control 4(装置制御 4)
15	NAK	Negative AcKnowledge(否定応答)
16	SYN	SYNchronous idle(同期信号)
17	ETB	End of Transmission Block(転送ブロック終了)

18	CAN	CANcel(取消)
19	EM	End of Medium(媒体終端)
1A	SUB	SUBstitute(置換)
1B	ESC	ESCape(拡張)
1C	FS	File Separator(ファイル分離)
1D	GS	Group Separator(グループ分離)
1E	RS	Record Separator(レコード分離)
1F	US	Unit Separator(ユニット分離)
7F	DEL	DELete(削除)
80	PAD	PADding character(埋め込み文字)
81	HOP	High Octet Preset(ハイオクテットプリセット)
82	BPH	Break Permitted Here(分割許可)
83	NBH	No Break Here(分割禁止)
84	IND	INDex(索引)
85	NEL	NExt Line(復帰改行)
86	SSA	Start of Selected Area(選択領域開始)
87	ESA	End of Selected Area(選択領域終了)
88	HTS	Horizontal Tabulation Set(水平タブ)
89	HTJ	Horizontal Tabulation with Justification(調整付水平タブ)
8A	VTs	Vertical Tabulation Set(垂直タブ)
8B	PLD	Partial Line Down(下行)
8C	PLU	Partial Line Up(上行)
8D	RI	Reverse line feed(前ページ)
8E	SS2	Single Shift 2(1文字シフト2)
8F	SS3	Single Shift 3(1文字シフト3)
90	DCS	Device Control String(装置制御文字列)
91	PU1	Private Use 1(私的利用1)
92	PU2	Private Use 2(私的利用2)
93	STS	Set Transmit State(転送状態設定)
94	CCH	Cancel CHaracter(取消文字)
95	MW	Message Waiting(メッセージ待機)
96	SPA	Start of Protected Area(保護領域開始)
97	EPA	End of Protected Area(保護領域終了)
98	SOS	Start Of String(文字列開始)
99	SGCI	Single Graphic Character Introducer(単一図形文字開始)
9A	SCI	Single Character Introducer(単一文字開始)
9B	CSI	Control Sequence Introducer(制御シーケンス開始)
9C	ST	String Terminator(文字列終了)

9D	OSC	Operating System Command(OS コマンド)
9E	PM	Privacy Message(秘密メッセージ)
9F	APC	Application Program Command(AP コマンド)

- スタートメニューから JP1/IM - View のヘルプを起動した場合、OS の設定によってすでに表示されている WWW ブラウザーの画面上に、HTML ヘルプが表示されることがあります。
- 接続ホスト(JP1/IM - Manager)を再起動するときは、事前に JP1/IM - View をログアウトしてください。接続ホストの再起動が完了したら、JP1/IM - View でログインしてください。
- まれに、画面を操作したときに、表示が崩れることがあります。このときは操作をやり直すと、表示が回復します。
- コマンド実行画面または自動アクションで、出力結果の多いコマンドを実行した場合、次に実行したコマンドの出力結果が遅れることがあります。
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合は、WWW ブラウザーの表示ページをほかのページに切り替えしないでください。また、WWW ブラウザーの[戻る]ボタン、[進む]ボタン、[更新]ボタンなども使用しないでください。このような操作をすると、動作が不正になります。
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用していて再ログインしたい場合は、起動している WWW ブラウザーを終了し、再起動してから再ログインしてください。
- WWW ページ版の JP1/IM - View を使用している場合、[イベントコンソール]画面およびこの画面から起動できるすべての画面の下端に「Java Applet Window」が表示されます。
- Windows Vista 版の JP1/IM - View では、JIS コード第 3 水準および第 4 水準の文字はサポートしていません。JP1/IM - View 上でこれらの文字を使用した場合は、文字化けが発生して正しく動作しないおそれがあります。